

「中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究」

平成 27 年度～平成 29 年度

公益財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター委託研究
調査報告書

大阪大学大学院言語文化研究科

西田 理恵子

2017 年 9 月

はじめに

本調査報告は平成 27 年度～平成 29 年度 日本英語検定協会英語教育研究センター受託研究「中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究」を受け、大阪府豊能町吉川中学校にて 3 年間の調査を実施いたしましたので、ここに調査報告を行います。

本調査を実施するにあたり、公益財団法人日本英語検定協会には、このような機会を頂きましたことに深くお礼申し上げます。本研究を行うにあたり、現場の先生方にもご協力を頂きました。調査協力者であった、豊能町立吉川中学校 宗像亮先生（現在 豊能町立教育委員会指導主事）には、プレイスメントテストの実施と質問紙調査の実施、面接、授業参観など、調査全面に関わってご協力を得ましたことを心から感謝申し上げます。宗像先生の日々の教鞭に対する情熱と調査協力に対する意欲がなければこの調査を実施することは叶いませんでした。心よりお礼申し上げます。豊能町立吉川中学校 下林昇 前校長先生には大変お世話になりました。ここに深くお礼申し上げます。

目次

1. 序章
2. 先行研究
 - 2.1 第二言語習得分野における動機付け研究
 - 2.2 コミュニケーションへの積極性
 - 2.3 国内における中学生を対象とした縦断調査
3. 本研究の目的
4. 調査対象校
 - 4.1 調査対象校
 - 4.2 調査対象者
 - 4.3 ティームティーチング
 - 4.4 カリキュラムと指導案
 - 4.5 調査実施時期
 - 4.6 言語運用能力テストと質問紙項目
5. 調査結果
 - 5.1 分析結果
6. 考察
7. 限界点と今後の展望
8. おわりに
9. 参考文献
10. 国際学会・国内研究会発表資料
 - 10.1 R.Nishida (2016a). A year-long study of the changes in language proficiency, motivation, and affect in individual differences among Japanese secondary school EFL Learners. Hawaiian International Conference on Education. Hawaii.
 - 10.2 R.Nishida (2016b). A year-long study of motivational dynamics for Japanese secondary school students in language learning. EuroSLA26 Conference. Finland.
 - 10.3 西田理恵子 (2017a). 中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究：2年間の縦断調査. 全国英語教育学会 第43回島根研究大会. 島根大学.
 - 10.4. 西田理恵子 (2017b). 中学校3年間の英語運用力と動機付けの変化：実

践と研究を通して．動機付け研究会（関西）．大阪大学言語文化研究科

11. 吉川中学校での補助教材：大阪府豊能町立吉川中学校 宗像亮先生作成

- ・授業計画
- ・中学校 1 年生：年間指導計画
- ・中学校 2 年生：年間指導計画
- ・中学校 3 年生：年間指導計画
- ・中学校 1 年生：補助教材
- ・中学校 2 年生：補助教材
- ・中学校 3 年生：補助教材

1. 序章

グローバル化時代に伴って、私達の生きる時代は様々な文化的背景を持つ人々と日本語以外の言語（主に英語）を使用してコミュニケーションを図る力が求められている。近年のグローバル化時代に伴って、外務省の示す「地球規模問題に関する意識調査」(2005)では、地球温暖化現象、環境破壊、テロ・紛争、感染症（エイズ、マラリア、結核、SARS）、国際組織犯罪（麻薬、人身売買）、人権侵害（差別、虐待）、武器・兵器の密輸、国際的な難民問題を挙げており、地球規模問題への意識向上が求められている。私たちの生きる時代は、そして未来を生き抜く次世代にとっても、国際的社会において日本が取り組むべき地球規模問題を意識しつつ、日常生活の中で深刻に思う地球規模問題に対して理解をし、考えを発信し、行動を起こし、地球的視野に立って地球市民として生き抜く力が求められよう。

日本国内においても、多文化共生時代を向かえ、様々な言語・文化的背景を持つ人々と時空間を共有している。国内における在留外国人の人口は、法務省の調べによると、2016年6月時点で2,307,288名であり、2011年度末では2,047,349名の在留に対して増えつつある傾向にある。主な都道府県別在留外国人数は、東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、埼玉県の在留で50%の割合を占め（2015年6月末時点）首都圏を中心として在留外国人が居住している（法務省、2015）。このように様々な言語・文化的背景を持つ人々と共生する日本社会においては、現在、そして未来においても、国籍・言語・文化・性の違いを受け入れて理解し、尊重しあう社会の構築が課題とされ、「多文化共生社会」の実現が求められよう。

このようなグローバル化時代の中で、そして多文化共生社会の実現が求められる時代的背景の中で、文部科学省は2014年度「グローバル化時代に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。2020年度（平成32年度）に行われるオリンピック・パラリンピックを見据えて、国内の小学校・中学校・高等学校にて英語教育が本格的に展開していけるように体制整備を整えている。この英語教育改革実施計画の中には、小学校中学年から英語教育を実施し、小学校高学年における拡充強化、中学校・高等学校における英語教育の高度化を目指す、小学校・中学校・高等学校を通じた英語教育改革実施に伴う、抜本的改革を計

画している。この「グローバル化時代に対応した英語教育改革実施計画」によれば、小学校中学年に対して「活動型・週 1～2 コマ程度」を計画し、コミュニケーションを中心とした授業展開を担当が中心となってい、小学校高学年に対しては「教科型・週 3 コマ程度」（「モジュール授業」の活用を含む）として初歩的な英語運用能力を養うこと、英語専科教員の活用を計画している。中学校段階においては、英語による身近な話題についての理解や簡単な情報交換を行うことや、英語による表現ができる能力を養うこと、英語授業を英語のみで行うことを基本とすることを計画している。高等学校においては、英語による幅広い内容理解や英語話者とのある程度の流暢なやり取りをする能力の育成を行い、授業は基本的に英語で行うと同時により高度な言語活動（発表・討論・交渉）を行うよう計画されている（文部科学省、2014）。

現在の文部科学省による中学校・高等学校における英語力は、中学校段階においては、英語教育の目標が「コミュニケーション能力の基礎を養う」であり、CEFR A1 程度、英検 3 級程度が達成されるべき英語力とされている。2020 年度の学習指導要領改定後については、中学校での英語教育の目標が「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」とされ、英語力は CEFR A1～A2 程度、英検 3 級～準 2 級程度であり、より高度な英語力が達成目標となっている。高等学校においては、現時点では、目標が「コミュニケーション能力を養う」であり、CEFR A2～B1 程度、英検準 2 級～2 級程度の英語力が達成目標とされているが、2020 年度以降においては高等学校の目標を「英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とし、英語力については CEFR B1～B2 程度、英検 2 級～準 1 級、TOEFL iBT57 点程度以上の向上が求められている。小学校から高等学校にかけて英語力向上を目指し、英語力の向上に伴って、小中高等学校を通して一貫した学習到達目標を設定することや、目標設定（Can-Do リスト）によって 4 技能を評価することも求められている。更に「日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実」を図るため、国際社会に生きる日本人としての自覚を育むため、日本人としてのアイデンティティの育成のための教育の在り方を検討している。主に日本の歴史、文化、国語教育に関する一層の充実も英語教育改革と同時に推進している（文部科学省、2014）。

このように英語教育抜本的改革実施計画が行われている中で、現段階における公立中学生の英語力、コミュニケーションへの積極性、言語や文化への関心、英語学習時に関わる情意要因の実態はどのようなものか、中学校1年生～中学校3年生にかけてどのように変化をするのか探る必要がある。まだ明らかになっていない中学校3年間の英語力と情意面について、実証的手法を用いて解明していくことは、今後の国内の英語教育分野において有益な情報となろう。従って、本調査報告においては、先行研究を概観し、主にコミュニケーションへの積極性に焦点を置き、コミュニケーションへの積極性と言語文化への関心にかかわりのある、動機づけの研究史について触れ、国内英語学習者に関する先行研究を取り纏め、英語力（英検5級と英検プレイスメントテストE）、動機づけ、情意に関わる縦断調査方法を用いた公立中学生を対象とした実証研究に関する調査結果を報告していく。

2. 先行研究

2.1 第二言語習得分野における動機付け研究

第二言語習得の分野においては、1960年以降に第二言語習得時において学習者に個人差があるため、個人差の要因を研究するようになった。第二言語習得分野における個人差の要因は様々にあり、Skehan (1989)は、適正、動機づけ、学習ストラテジー、認知・情意的要因、リスク負担、知能、場独立、不安を要因としている。Larsen-Freeman and Long (1991)によれば、年齢、適正、社会心理学的要因、動機づけ、態度、性格、認知スタイル、学習ストラテジーとし、Dörnyei (2005)は、性格、適正、動機付け、学習スタイル・学習ストラテジー、その他の要因として、不安、自尊心、創造性、コミュニケーションへの積極性、信念を挙げている。Skehan (1989)、Larsen-Freeman and Long (1991)、Dörnyei (2005) が共通して示している第二言語習得時の個人差の要因は、動機づけ、適正、性格、学習ストラテジーである。動機づけはこの中でも重要な役割を果たすと考えられており、「適正」と同様に重要な役割を形成しているとして考えられている (Dörnyei, 2005)。動機付けはコミュニケーションへの積極性とも関わりがあり (MacIntyre, Clément, Dörnyei & Noels, 1998)、異文化への理解についても動機付けの研究の系譜を受けている。

「動機づけ」とは、廣森 (2010) によれば「特定の行動を生起し、維持する心理的メカニズム」であり、具体的には3つの要素がある。「動機」(motive) と

は「ある行動の目的（「何を」といった方向に相当）を規定する」であり、「動機づけ」(motivation)とは「ある行動の目標や目的の強さ（「どのくらい」といった強度に相当する）を規定する」であり、「動機づける」(motivate/motivating)は「ある行動への働きかけ（「どのように」といった手段に相当）を規定する」とされている（廣森，2015）。様々な動機がみられるが、実証的手段を用いて系統的に行われてきた動機づけの研究史が1960年代からカナダの社会心理学者によって行われてきている。第二言語習得時における動機づけの研究は、1960年代からカナダの R.Gardner と共同研究者(Gardner, 1985; Gardner & Lambert, 1972)によって行われてきた。それら一連の研究においては「統合的動機」(integrative motive: 第二言語への開放的態度や文化への興味関心を含む概念)、「道具的動機」(instrumental motive: 就職・進学・職業的な成功など実利的な要因を含む概念)を中心に実証研究が行われてきた。Gardner の一連の研究は、第二言語話者への動機づけや関心、態度を個人差とし、第二言語学習時における情意面の個人差要因が、言語運用能力の個人差をどの程度説明するかに焦点があったため、教育現場のニーズに応えるものではなかった(八島, 2004)。1990年代からより教育現場に根ざした外国語語育実践家に向けてのより教育実践を通じた動機づけ研究が行われるようになり、教育心理学的研究が教育心理学の理論を基盤として行われるようになった。その理論的背景は、自己決定理論、期待価値理論、帰属理論、自己効力感理論、自己価値理論、目標設定理論等があげられる。この中でもとりわけ応用された理論的枠組みは自己決定理論であり「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」が構成要素となっている。「内発的動機づけ」とは「それをする事態が目的で何かをすること、それをする事自体から喜びや満足感が得られるような行動に関連した動機づけ」であり、内発的動機づけを高めるための3つの心理的欲求(自律性・有能性・関係性)があるといわれている(八島, 2004, p.53)。この心理的欲求が充足されることで人は内発的に動機づけられる可能性があると言われている。その一方で、「外発的動機づけ」は「金銭的な報酬や他者に認められることなど、何らかの具体的な達成する手段として行う行動に関連した動機」(八島, 2004, p.53)であると定義づけられている。2000年以降になると過程志向アプローチとして縦断調査を用いた学習者の変化の傾向を捉える研究や、「可能自己」(未来の自己像)に関する研究が行われている(e.g., Nishida, 2013, 西田, 2015b)。「可能自己」には「理想自己」(成りたい将来の自己像)、「義務自己」(成るべき自

己像) があり、そこに向かっていく「努力」がある。Nishida (2013)では、日本人を対象とした大学英語学習者において、理想自己が、内発的動機づけと国際的志向性と正の相関関係にあることを示している。

2.2 コミュニケーションへの積極性

文部科学省の学習指導要領の目的が「WTC (コミュニケーションへの積極性)」であるため、近年注目を集めている学習者要因である。WTC は、第二言語習得における個人差研究の系譜を受けており、1998年に MacIntyre, Clément, Dörnyei, & Noels によってモデル化された。WTC モデルは6層で構成され、第1層にはコミュニケーション行動、第2層には行動の意思、第3層には、状況的要因、第4層には動機傾向、第5層には情動的・認知的コンテクスト、第6層には社会的・個人的コンテクストとしている。第1層のコミュニケーション行動はL2使用であり、第2層の行動の意思にWTCが含まれる。状況的要因には特定の相手とコミュニケーションを図ろうとする意志、その場でのコミュニケーションの自身が含まれ、第4層の動機傾向には、対人接触動機、対グループの接触動機、自身が含まれている。第5層の情動的・認知的コンテクストには、他グループへの態度、社会状況的認知、コミュニケーションコンピテンス、社会的・個人的コンテクストには、グループ間の関係や性格がある。第二言語でのコミュニケーションの複雑さをよく表している(八島, 2004, p.13)。日本人英語学習者を対象としたL2WTCの研究では Yashima (2002, 2004)がある。

2.3 国内における中学生を対象とした縦断調査

これまでの動機づけ研究によれば、山森 (2004)が中学校1年生を対象とした英語学習動機に関する1年間の縦断的調査を実施し、中学校1年生の入学時では動機づけが高いものの、1年間を通して動機づけを維持することができた中学生は6割程度であり、特に、中学1年生の2学期には動機づけの著しい低下が見られたと報告している。また Koizumi & Matsuo (1993)の研究においても、中学1年生を対象とした1年間の縦断調査においては、中学生の動機づけや態度の変化について低下するという傾向を示した。Nishida (2012)が示す小学生を対象とした縦断調査の結果においても、児童の動機づけや情意的要因が1年間を通して下がるという結果を示している。

先行研究が示すように、国内における中学生を対象とした縦断的調査は数少なく、言語運用能力と情意的側面を測定している調査結果は極めて少ないため、今後の文部科学省が意図する学習指導要領改定を視野に入れても中学生の言語運用能力と動機づけ、情意要因に関する調査を縦断的に調査することは国内の英語教育分野にとって有益な情報となろう。

3. 本研究の目的

先行研究の調査結果を踏まえて、本研究の目的を以下の通りとする。

研究課題 1：中学校 3 年間において、中学生の言語運用能力（英検 5 級とプレイスメントテスト E）と情意的側面（内発的動機付け・自律性・有能性・関係性・コミュニケーションへの積極性・言語や文化への関心）が、どのように変化するかを縦断的調査方法を用いて明らかにする。

研究課題 2：中学校段階での縦断的調査において、言語運用能力に関わる動機づけや情意に関する予測変数を明らかにする。

研究課題 3：中学生の変化の詳細を把握するために、個人差の特徴に関する変化の様子を明らかにしていく。

4. 調査対象校

4.1 調査対象校

本研究の調査対象者は公立中学生と学校長、担任教師であり、大阪府豊能町立吉川中学校に属する。調査対象校は閑静な住宅地にあり、山々に囲まれた自然豊かな環境の中に位置していた。生徒たちは落ち着いた環境の中、学習に取り組んでいる様子が伺えた。

4.2 調査対象者

調査対象者は、調査を開始した 2014 年 4 月～2017 年 3 月にかけては、調査対象となった中学 1 年生は 103 名であった。しかし、中学校 3 年間にかけての縦断調査においてリスニングテスト、プレイスメントテスト、質問紙を 6 回受けた生徒以外を除外したため、本調査対象を 63 名（男子 35 名，女子 28 名）とする。

4.3 ティームティーチング

本中学校においては、米国出身の ALT が 1 名配置されており、この ALT が英語教諭とともにティームティーチングを行っていた。英語授業においてはティームティーチングにあたっては、ほぼ英語のみでの授業が行われており、生徒達も日本語に訳することなく英語でのコミュニケーションが繰り返し広げられていた。英語教諭も同様に英語でのみ授業を展開していた。

4.4 カリキュラムと指導案

教科書には New Crown1、New Crown2、New Crown3 が使用されていた。学期末にはプレゼンテーションプロジェクトが組み込まれており、生徒たちは学期末には、発表形式の活動を行っていた。ICT を駆使した授業展開もなされており iPad 操作にて授業が展開されていた。通常授業においては、挨拶・復習・単語・センテンス導入・活動・振り返りの展開であり、単語やターゲットセンテンスに関する補助教材が作成され、ソロ・ペア・グループでの授業が行われていた。中学校 1 年生段階では多読活動も行われていた（第 11 章参照）。

4.5 調査実施時期

2014 年 4 月～2017 年 3 月まで半年毎に 6 回の調査を実施した。調査実施時には言語テストと質問紙を行っている。中学校 1 年生時の 7 月・2 月、中学校 2 年生時の 7 月・2 月、中学校時の 3 年生 7 月・2 月である。

4.6 言語運用能力テストと質問紙項目

中学 1 年段階においては、英語検定試験 5 級から 25 問のリスニングテストを実施した。中学校 2 年生・3 年生段階においては、英検プレイスメントテ

スト E を実施した。中学校 1 年生（2014 年 7 月、2015 年 2 月）には英検 5 級のリスニングテストを実施し、中学校 2 年生（2015 年 7 月、2016 年 2 月）にはプレイスメントテスト E を実施し（ver.10）（点数配分 1100 点満点：Reading 550 点、Listening 550 点）、中学校 3 年生（2016 年 7 月、2017 年 2 月）にも同様にプレイスメントテスト E を実施した（ver.2.0）（点数配分 800 点満点：Reading 400 点、Listening: 400 点）。また、プレイスメントテスト E 実施時には、3 種のテストがあり、同一レベルの実施ではあるものの異なるテストを実施している。

質問紙調査においては、内発的動機づけ、自律性、有能性、関係性、コミュニケーションへの積極性、言語や文化への関心、理想自己¹に関する質問紙調査を実施した（APPENDIX A 参照）。中学校 3 年生 2 月の段階では、Motigraph と自由記述を実施した（Motigraph とは経年の変化の傾向を学習者が動機づけの強度を示す調査方法である）。小学校 5 年生～中学校 3 年生にかけて英語に対する動機づけがどのように変化したのかを記述し、その理由を述べるなど質的調査を実施している（Nishida, in preparation）。

5. 調査結果

5.1 分析結果

研究課題 1：中学校 3 年間に於いて、中学生の言語運用能力（英検 5 級とプレイスメントテスト E）と情意的側面（内発的動機づけ・自律性・有能性・関係性・コミュニケーションへの積極性・Can-Do・言語や文化への関心）が、どのように変化するかを縦断的調査方法を用いて明らかにするために、リスニングテスト、英検プレイスメントテスト、質問紙に関わる記述統計、反復測定分散分析、t 検定（対応あり）を以下に示す（表 1～表 6、図 1～図 5）。質問紙調査については信頼性係数が確保できている（表 7 に示す）。

中学校 1 年生時のリスニングテストについては、7 月と 2 月を比較すると 2 月時点で上昇を示している（表 1、図 1）。t 検定（対応あり）（表 2）においても、統計的有意差を示している。中学校 2 年生時のプレイスメント結果においても 7 月と 2 月を比較すると上昇する傾向にあり（図 2、図 3）、t 検定（対応あり）についても（表 3、表 4）、統計的有意差を示した。中学校 3 年生時のプレイスメントテスト結果においては（表 5、表 6、図 4、図 5）、7 月と 2 月において差が見られず、t 検定では統計的な有意差も見られなかった（表 6）。

表 1：中学校 1 年生段階のリスニングテスト（英検 5 級）

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
リスニング中学校1年生7月	20.10	63	3.368	0.424
リスニング中学校1年生2月	22.67	63	2.730	0.344

表 2. 中学校 1 年生段階でのリスニングテスト t 検定（対応あり）結果

	平均値	標準偏差	差の 95% 信頼区間 下限	上限	t 値	自由度	p
リスニング中学校1年生	-2.571	3.094	-3.351	-1.792	-6.597	62	0.000

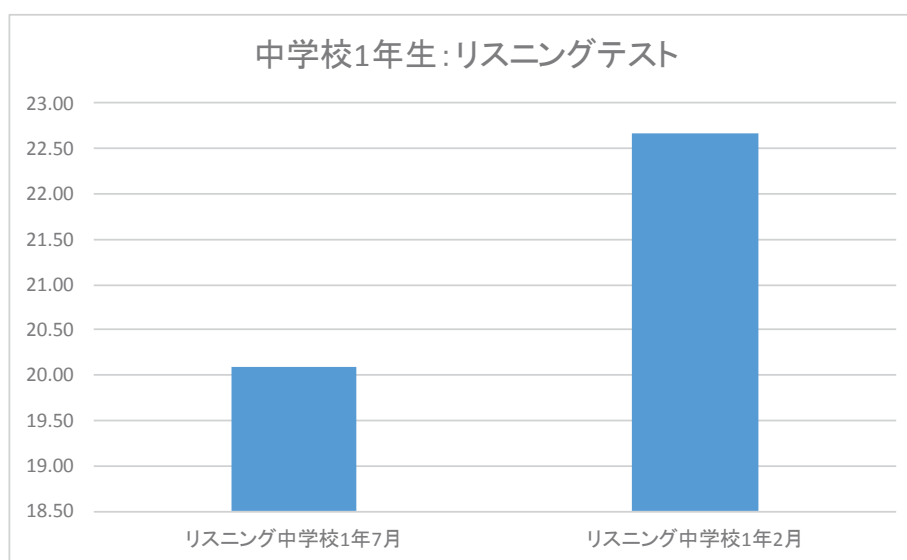


図 1. 中学校 1 年生段階のリスニングテスト（英検 5 級）

表 3. 中学校 2 年生段階のプレイスメント調査結果

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
CSEスコア: 中学校2年生7月	991.35	63	69.378	8.741
CSEスコア: 中学校2年生2月	1033.30	63	64.180	8.086
CSEスコアR: 中学校2年生7月	486.44	63	48.023	6.050
CSEスコアR: 中学校2年生2月	504.02	63	43.618	5.495
CSEスコアL: 中学校2年生7月	504.90	63	28.829	3.632
CSEスコアL: 中学校2年生2月	529.29	63	25.330	3.191

表 4. 中学校 2 年生のプレイスメントテスト : t 検定 (対応あり) の結果

	平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	t 値	自由度	p
プレイスメントテスト全体スコア中学校2年生	-41.952	33.497	4.220	-9.941	62	0.000
プレイスメントテストR中学校2年生	-17.571	24.566	3.095	-5.677	62	0.000
プレイスメントテストL中学校2年生	-24.381	22.262	2.805	-8.693	62	0.000

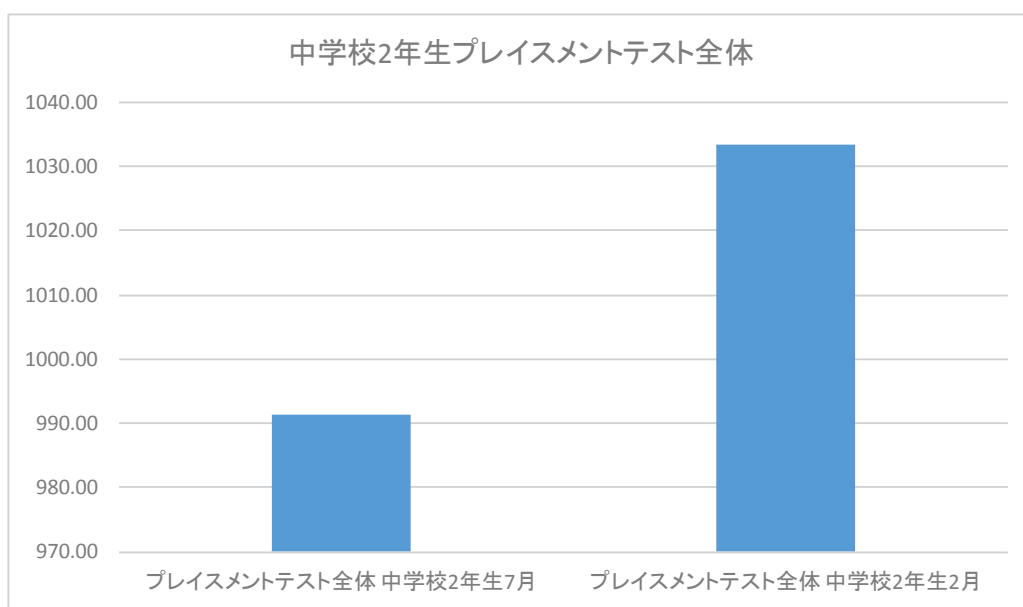


図 2. 中学校 2 年生のプレイスメントテスト結果全体

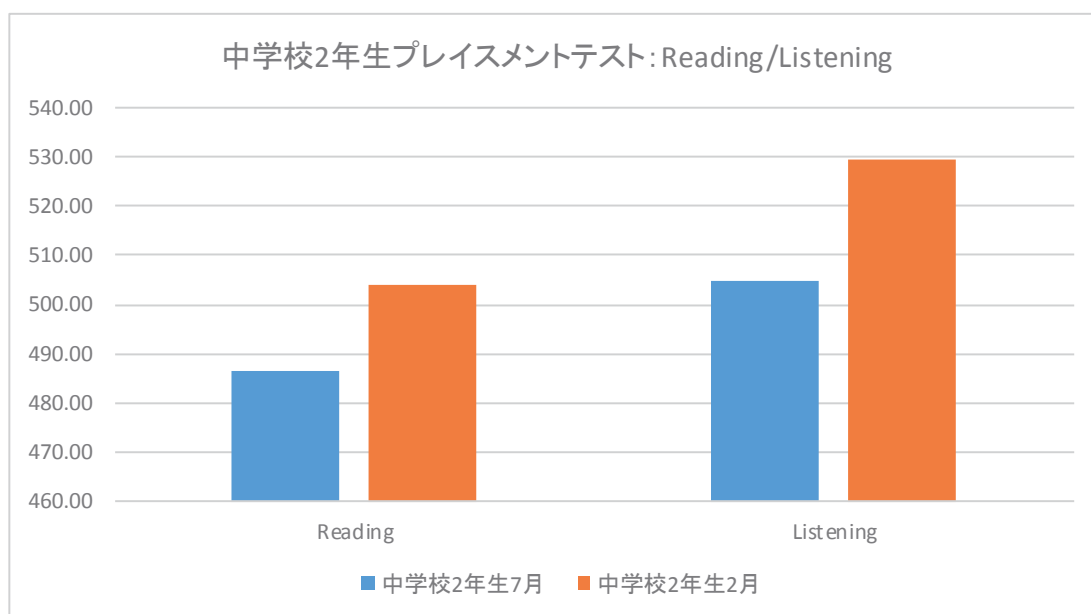


図 3. 中学校 2 年生のプレイスメント結果 : Reading/ Listening

表 5. 中学校 3 年生のプレイスメント結果

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
CSEスコア: 中学校3年生7月	715.92	63	111.410	14.036
CSEスコア: 中学校3年生2月	719.35	63	111.329	14.026
CSEスコアR: 中学校3年生7月	366.05	63	44.534	5.611
CSEスコアR: 中学校3年生2月	374.11	63	44.047	5.549
CSEスコアL: 中学校3年生7月	349.87	63	71.348	8.989
CSEスコアL: 中学校3年生2月	345.24	63	71.066	8.953

表 6. 中学校 3 年生プレイスメントテスト結果 : t 検定 (対応あり)

	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	t 値	自由度	p
プレイスメントテスト全体スコア中学校2年生	-3.429	78.585	9.901	-0.346	62	0.730
プレイスメントテストR中学2年生	-8.063	30.979	3.903	-2.066	62	0.043
プレイスメントテストL中学2年生	4.635	57.598	7.257	0.639	62	0.525

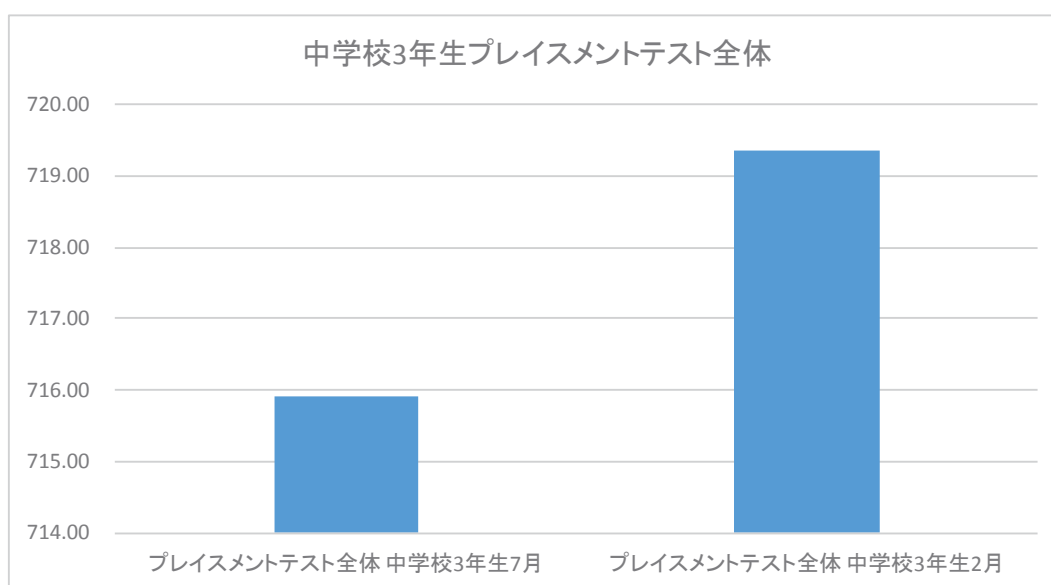


図 4. 中学校 3 年生プレイスメントテスト全体

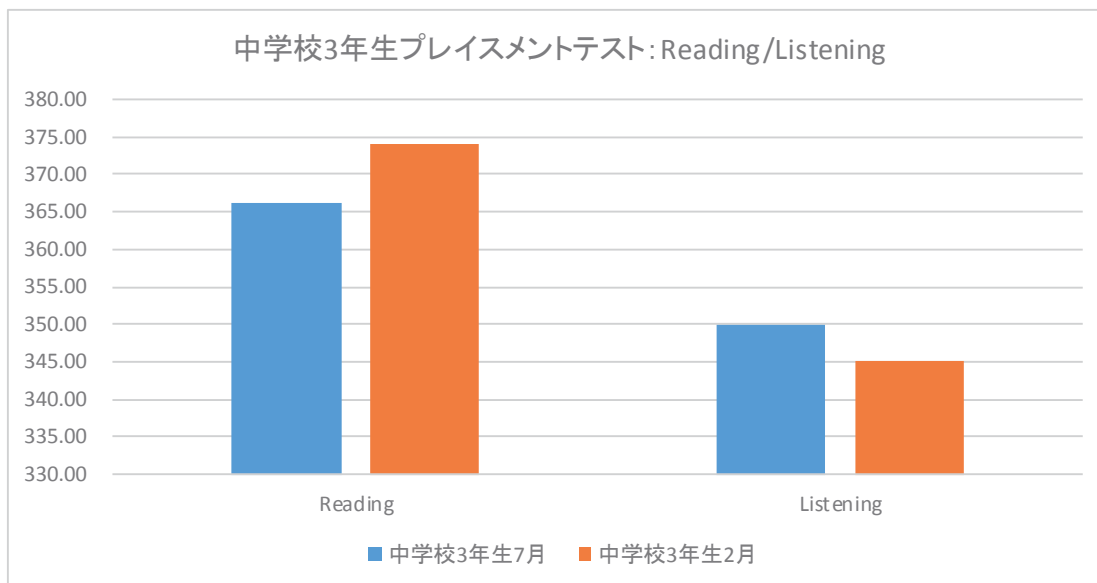


図 5. 中学校 3 年生のプレイスメントテスト: Reading/ Listening

次に、質問紙調査に関わる分析結果を示していく。質問紙の項目には、自律性、有能性、関係性、内発的動機づけ、言語文化への関心、L2WTC、理想自己から構成されている。2014 年 7 月、2015 年 2 月、2015 年 7 月、2016 年 2 月、2016 年 7 月、2017 年 2 月にかけての質問紙調査に関する信頼性係数を表 7 に示す。十分な信頼性係数が確保できているといえる。表 8 に示すように、自律性、有能性、内発的動機づけが中学校 3 年生時において上昇する傾向が見られ、同様に表 9 が示すように（図 7 参照）、言語文化への関心、L2WTC、理想自己も中学校 3 年生時の 2 月時点に向かって上昇する傾向にあることを示した。反復測定分散分析を行った結果、関係性以外の要因において、統計的な有意差を示している（表 10）。

表 7. 質問紙項目に関する信頼性係数

	自律性	有能性	関係性	内発的動機づけ	言語文化への関心	L2WTC	理想自己
中学1年7月	α .64	α .74	α .81	α .86	α .73	α .91	α .70
中学1年2月	α .81	α .67	α .83	α .90	α .72	α .90	α .78
中学2年7月	α .64	α .76	α .83	α .85	α .73	α .90	α .74
中学2年2月	α .80	α .78	α .82	α .93	α .81	α .91	α .82
中学3年7月	α .78	α .78	α .84	α .91	α .78	α .92	α .78
中学3年2月	α .80	α .84	α .89	α .92	α .83	α .96	α .78

表 8. 中学校 3 年間の動機づけに関わる記述統計

	自律性		有能性		関係性		内発的動機づけ	
	<i>M</i>	<i>sd</i>	<i>M</i>	<i>sd</i>	<i>M</i>	<i>sd</i>	<i>M</i>	<i>sd</i>
中学1年7月	3.19	0.67	3.45	0.73	4.02	0.65	3.53	1.06
中学1年2月	3.27	0.87	3.51	0.61	3.91	0.63	3.58	1.09
中学2年7月	3.22	0.67	3.47	0.74	4.01	0.66	3.59	1.02
中学2年2月	3.16	0.84	3.47	0.67	3.92	0.67	3.34	1.16
中学3年7月	3.37	0.76	3.67	0.59	3.96	0.65	3.54	1.09
中学3年2月	3.42	0.87	3.69	0.74	4.05	0.74	3.77	1.05

表 9. 中学校 3 年間の情意に関わる記述統計

	言語文化への関心		L2WTC		理想自己	
	<i>M</i>	<i>sd</i>	<i>M</i>	<i>sd</i>	<i>M</i>	<i>sd</i>
中学1年7月	3.68	0.87	3.25	0.94	3.45	0.83
中学1年2月	3.50	0.88	3.34	0.92	3.44	0.87
中学2年7月	3.70	0.86	3.27	0.90	3.47	0.85
中学2年2月	3.58	0.94	3.67	0.85	3.39	0.96
中学3年7月	3.74	0.92	3.75	0.81	3.56	0.86
中学3年2月	3.90	0.96	3.75	0.84	3.79	0.89

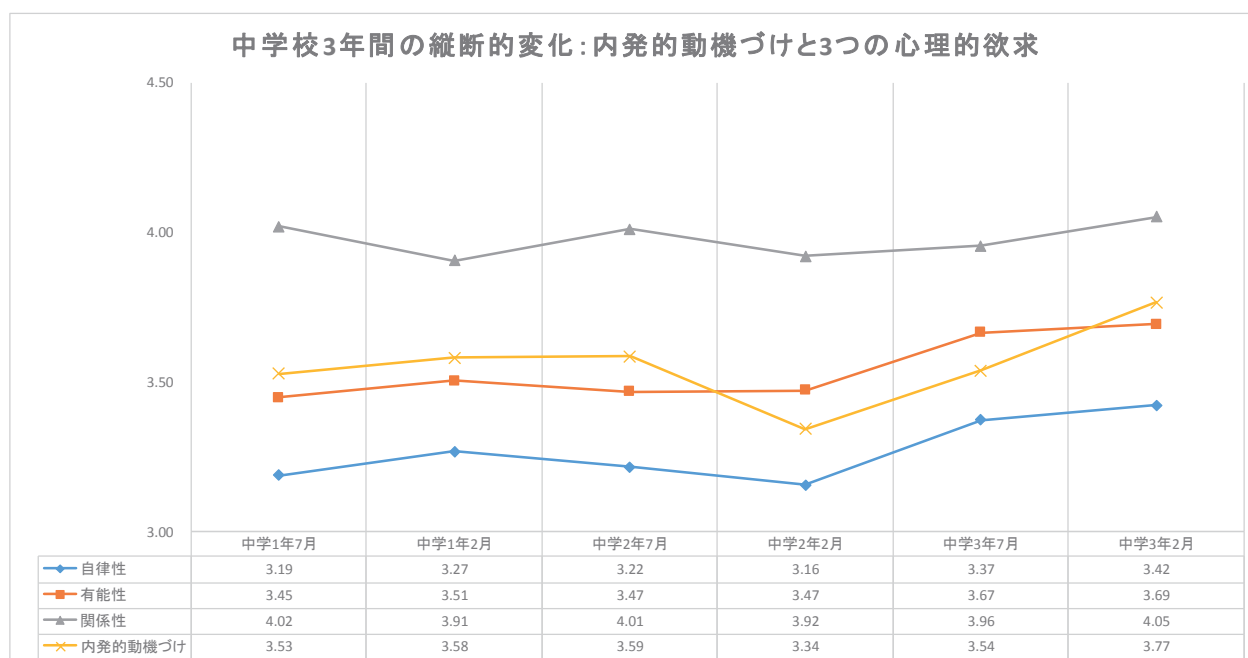


図 6. 中学校 3 年間の縦断的变化：動機づけに関わる要因に関して

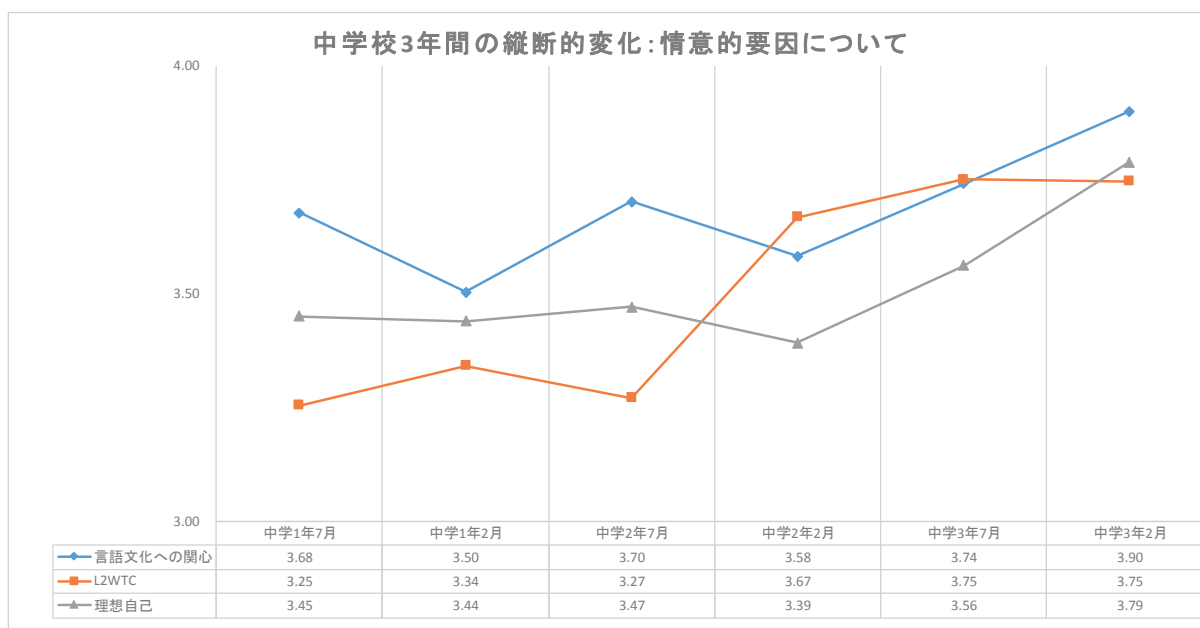


図 7. 中学校 3 年間の縦断的变化：情意に関わる要因に関して

表 10. 反復測定分散分析：動機づけ、情意に関して

	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	<i>F</i>	<i>p</i>	偏イータ ² 乗
自律性	3.56	5, 310	0.71	2.66	0.02	0.04
有能性	3.73	5, 310	0.75	3.71	0.00	0.06
関係性	1.08	5, 310	0.22	0.92	0.47	0.01
内発的動機づけ	5.81	5, 310	1.16	2.85	0.02	0.04
言語文化への関心	5.88	5, 310	1.18	3.74	0.00	0.06
L2WTC	18.11	5, 310	3.62	8.09	0.00	0.12
理想自己	6.55	5, 310	1.31	3.90	0.00	0.06

次に、研究課題 2：中学校段階での縦断的調査において、言語運用能力に関わる動機づけや情意に関する予測変数を明らかにするために、重回帰分析（ステップワイズ法）を用いて、従属変数を言語運用能力として、分析を実施した。中学校 1 年生 7 月と 2 月の従属変数はリスニングであり、中学校 2 年生 7 月と 2 月の従属変数は、プレイスメントテスト全体スコアであり、中学校 3 年生 7 月と 2 月の従属変数も同様に、プレイスメントテスト全体スコアであった。独立変数は、自律性、有能性、関係性、内発的動機づけ、言語文化への関心、L2WTC、

理想自己であった。表 11 に示すように、重回帰分析の結果として、言語運用能力に働きかける全ての時点での予測変数は内発的動機付けであり、中学校段階においては、内発的動機づけが唯一の予測変数であることを明らかにした（図 8）。

表 11. 中学校 3 年間に於ける言語運用能力に於ける予測変数

		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
中学校1年生7月	内発的動機づけ	0.87	0.39	0.27	2.21	0.03
中学校1年生2月	内発的動機づけ	1.32	0.27	0.52	4.80	0.00
中学校2年生7月	内発的動機づけ	32.79	7.66	0.48	4.28	0.00
中学校2年生2月	内発的動機づけ	30.15	5.91	0.55	5.10	0.00
中学校3年生7月	内発的動機づけ	54.81	11.07	0.54	4.95	0.00
中学校3年生7月	内発的動機づけ	48.60	12.06	0.46	4.03	0.00

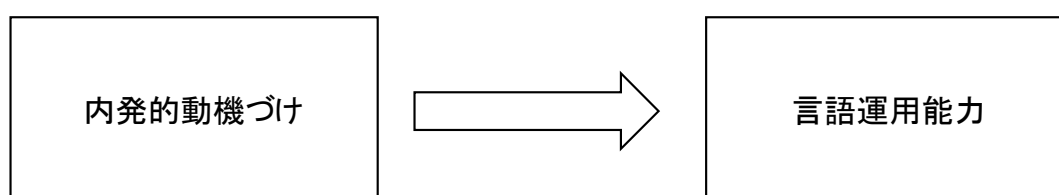


図 8. 言語運用能力に働きかける唯一の学習者要因（内発的動機づけ）

次に、研究課題 3：中学生の変化の詳細を把握するために、個人差の特徴に関する変化の様子を明らかにする。英語運用能力、自律性、有能性、関係性、内発的動機づけ、言語文化への関心、L2WTC、理想自己に関する個人差の特徴を探るため、階層的クラスター分析（ウォード法・ユークリッド距離）を使用した。デンドログラムからカットオフポイントを決定し、3 クラスターを確認した。第 1 クラスターには 33 名が属し、言語能力、動機づけ・情意要因に関して「高位群」であり、第 2 クラスターには 17 名が属し、言語運用能力、動機づけ・情意要因に関して「中位群」であり、第 3 クラスターには 13 名が属し、言語運用能力、動機づけ・情意要因に関して「低位群」と位置づけられた。以下の図 9～図 21 に詳細を示す。言語運用能力が高いと動機づけや情意も高い

傾向にあり、言語運用能力が低いと、動機づけや情意も低い傾向にあることを示した。

上記の結果から、中学校 1 年生～中学校 3 年生にかけてのクラスター別比較を言語能力に関して行った結果、中学校 1 年生段階においては、中学校 1 年生 7 月と 2 月を比較して上昇する傾向がある。中学校 2 年生段階においては、全体スコア、Reading, Listening においても、全てのクラスター間において上昇が見られた。特に中学校 2 年生 2 月時点では、1100 満点換算のプレイスメントテストに対して、第 1 クラスターの平均が 1083 点であり、第 3 クラスターの 941.77 と比較すると 141.23 点の差が見られた。中学校 3 年生においては、第 3 クラスターが 7 月と 2 月を比較して低下する傾向を示した。特に Listening が 259.62 点から 233.77 点へと低下する傾向を示している。第 2 クラスターも同様に、355.29 点から 336.94 点へと低下する傾向を示した。その他のスコアについては上昇する傾向を示している。

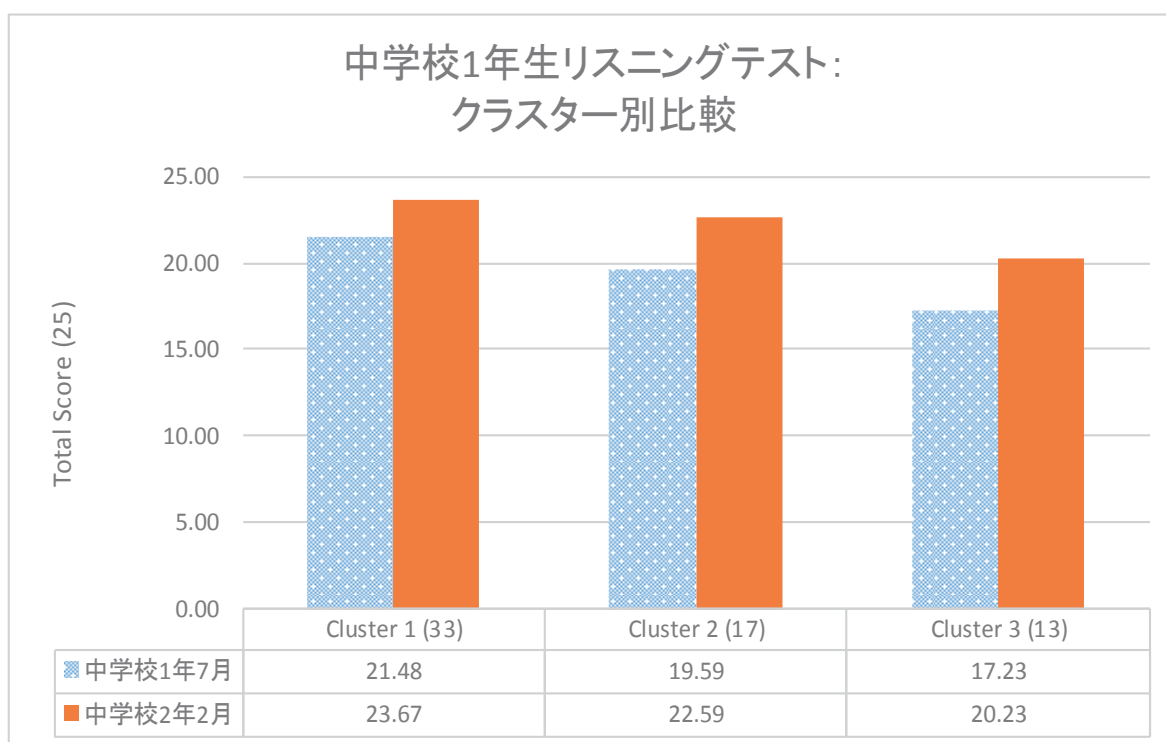


図 9. 中学校 1 年生（リスニングテスト）：クラスター別比較

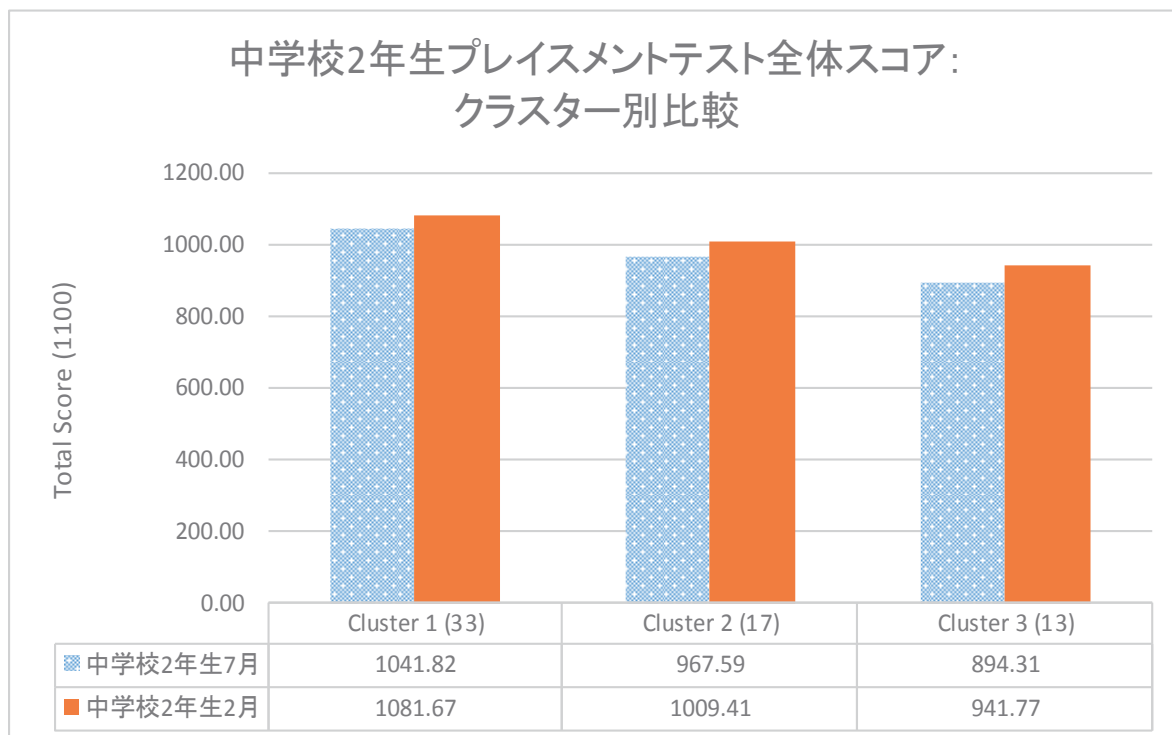


図 10. 中学校 2 年生プレイスメントテスト全体スコア：クラスター別比較

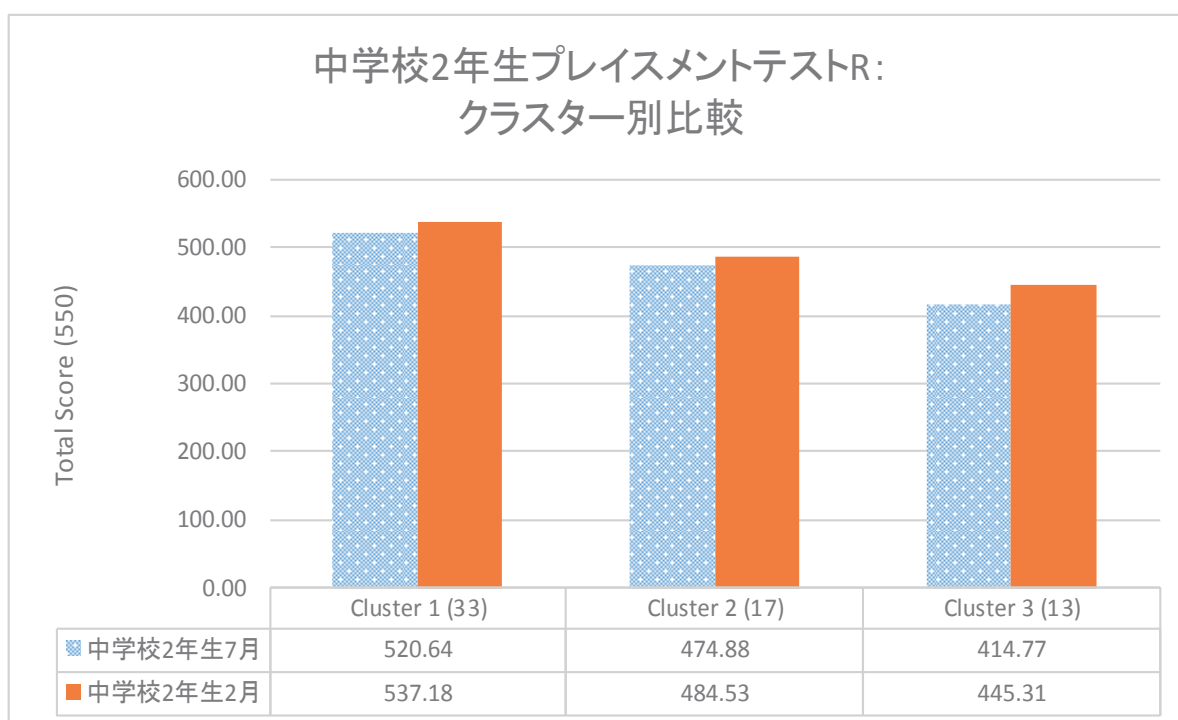


図 11. 中学校 2 年生プレイスメントテスト(R Score): クラスター別比較

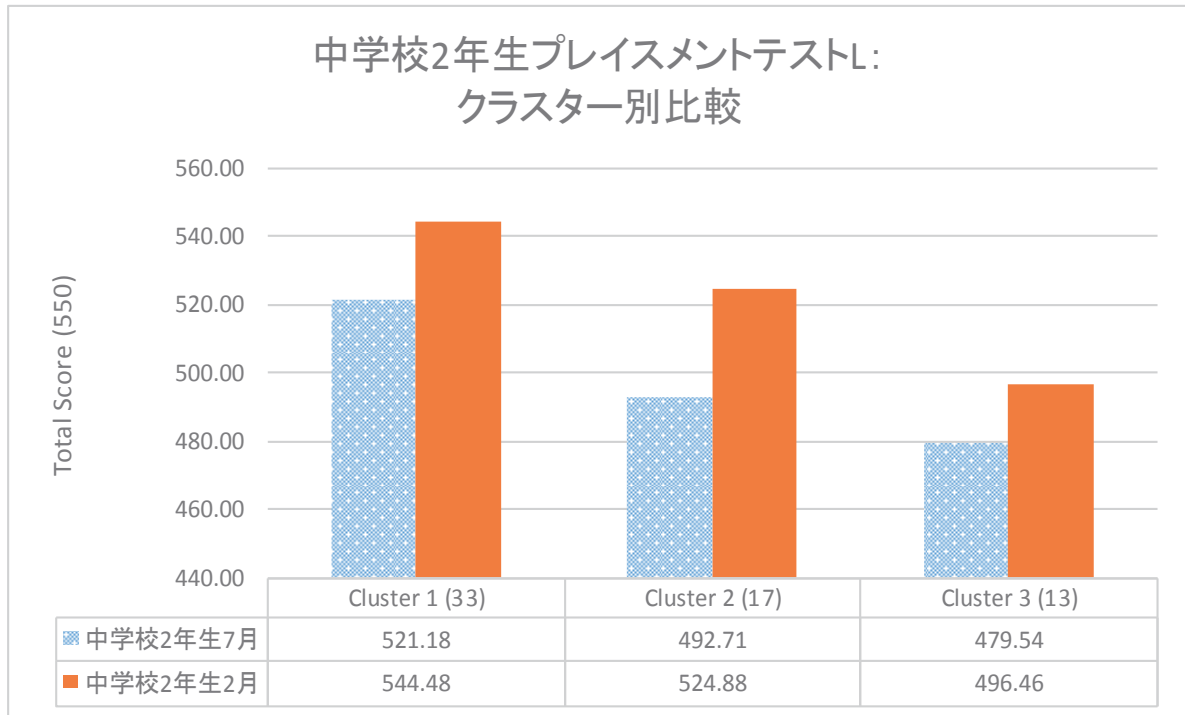


図 12. 中学校 2 年生プレイスメントテスト(L Score): クラスター別比較

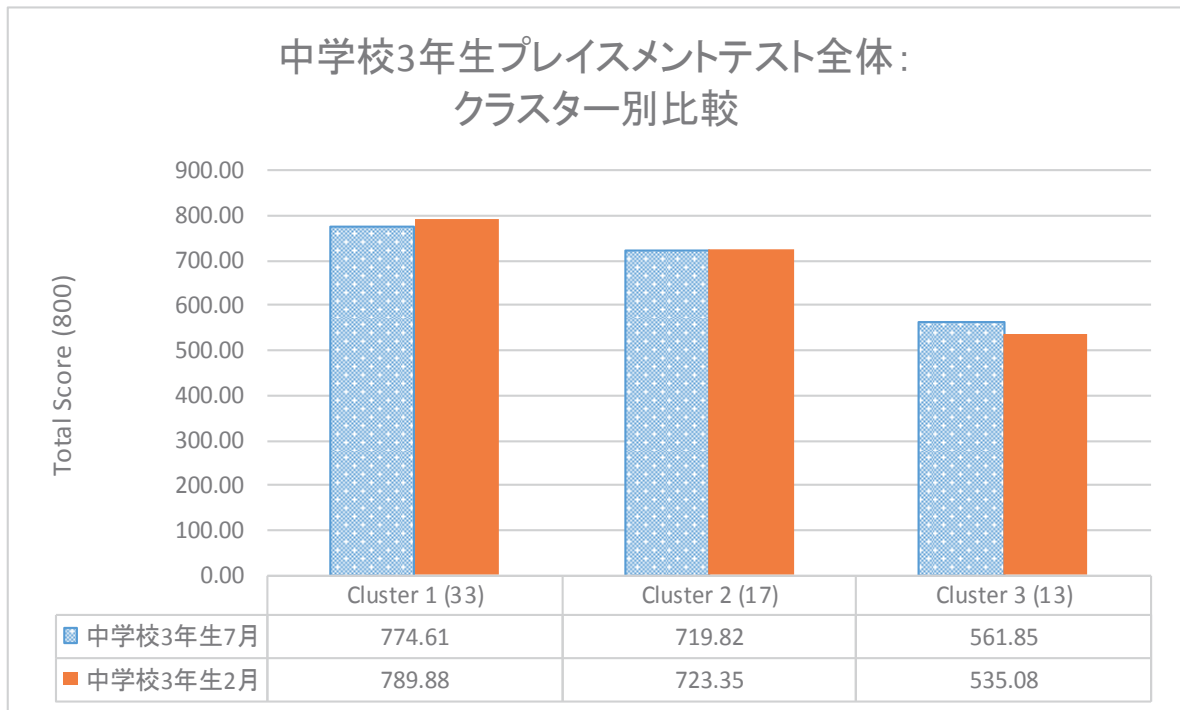


図 13. 中学校 3 年生プレイスメントテスト全体スコア : クラスター別比較

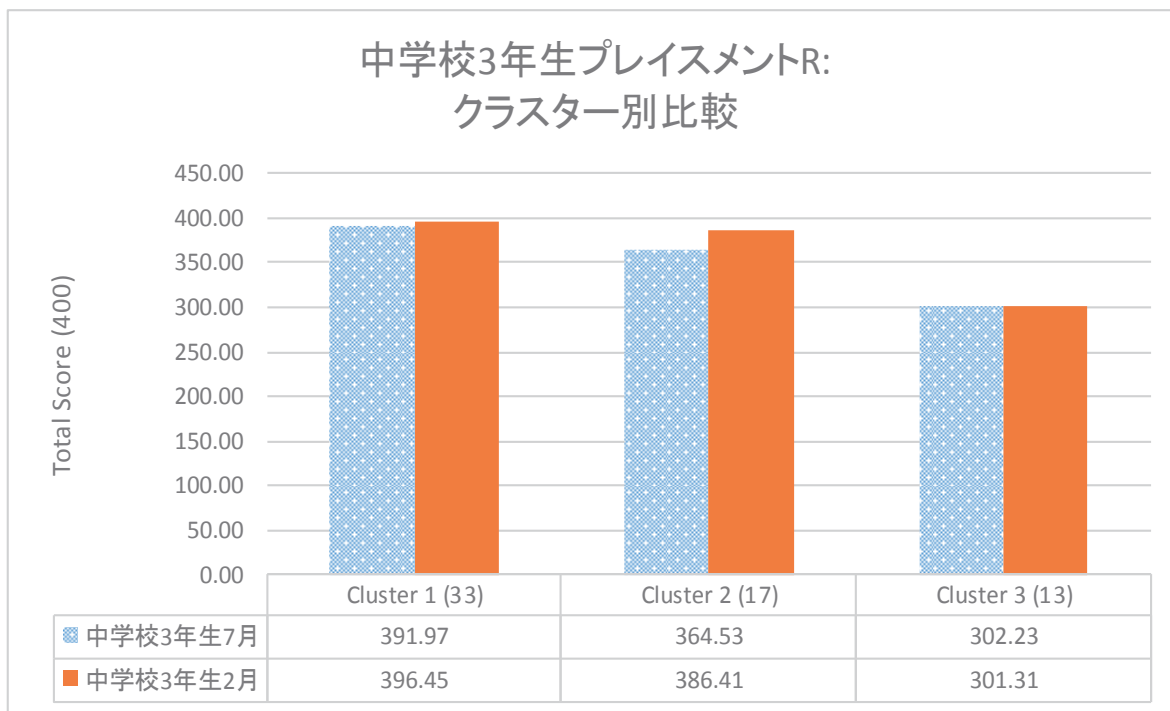


図 14. 中学校 3 年生プレイスメントテスト(R Score) : クラスター別比較

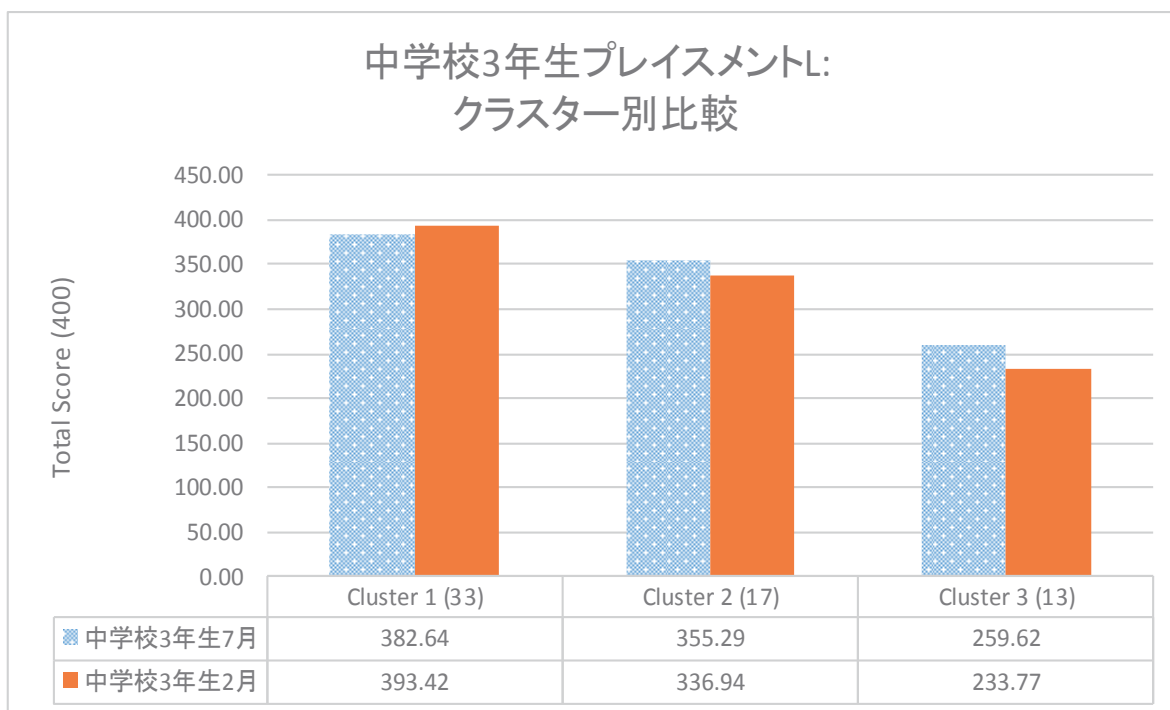


図 15. 中学校 3 年生プレイスメント(L Score): クラスター別比較

次に、動機づけ・情意要因に関するクラスター別比較を以下に示す。言語運用能力が高い群（第1クラスター）においては、動機づけや情意面が高い傾向を示し、言語能力が低い群（第3クラスター）については、動機づけや情意面が低い傾向を示している。

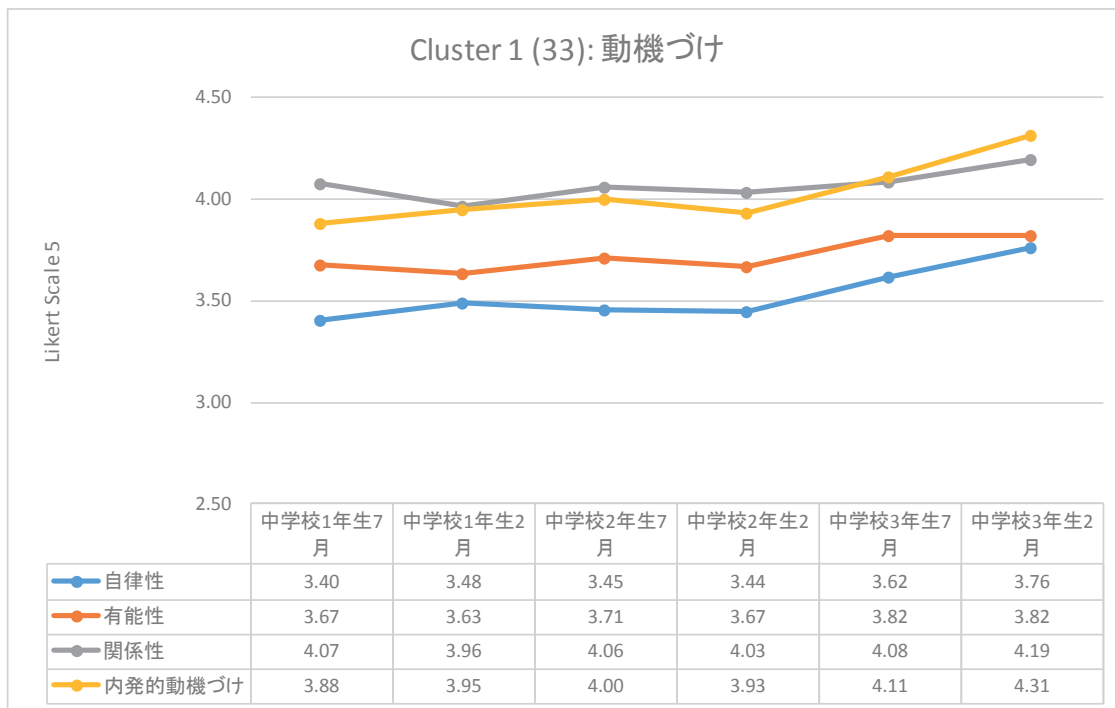


図 16. 中学校 3 年間の動機づけの変化：第 1 クラスター（高位群）

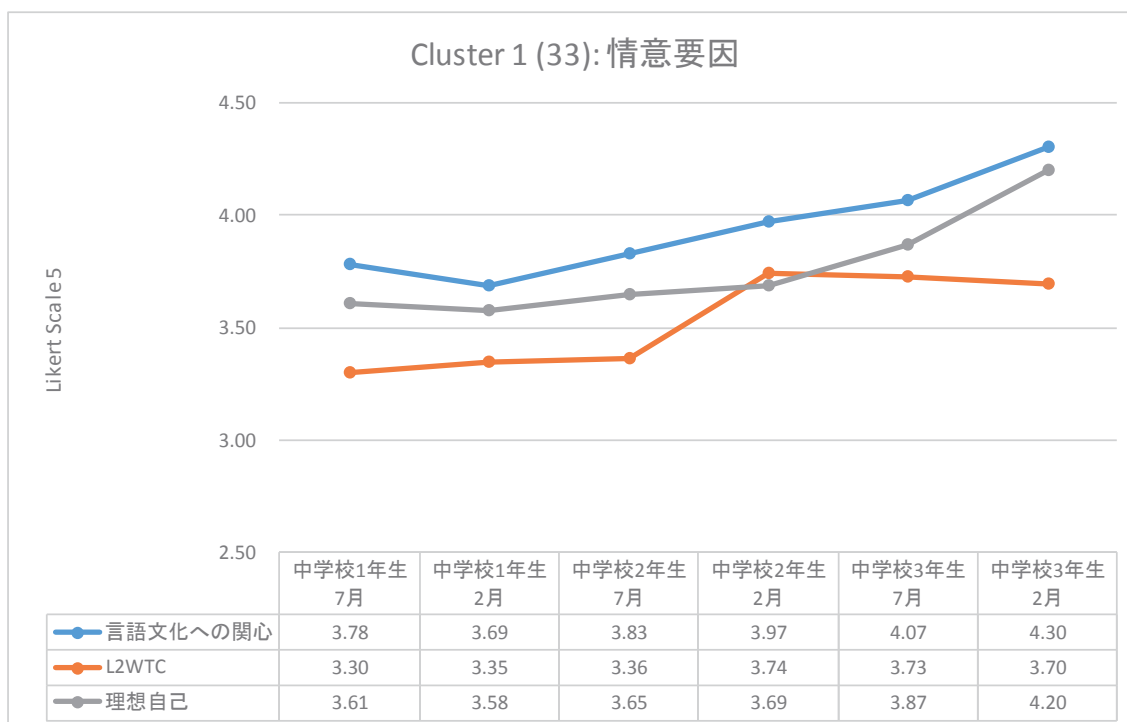


図 17. 中学校 3 年間の情意要因の変化：第 1 クラスター（高位群）

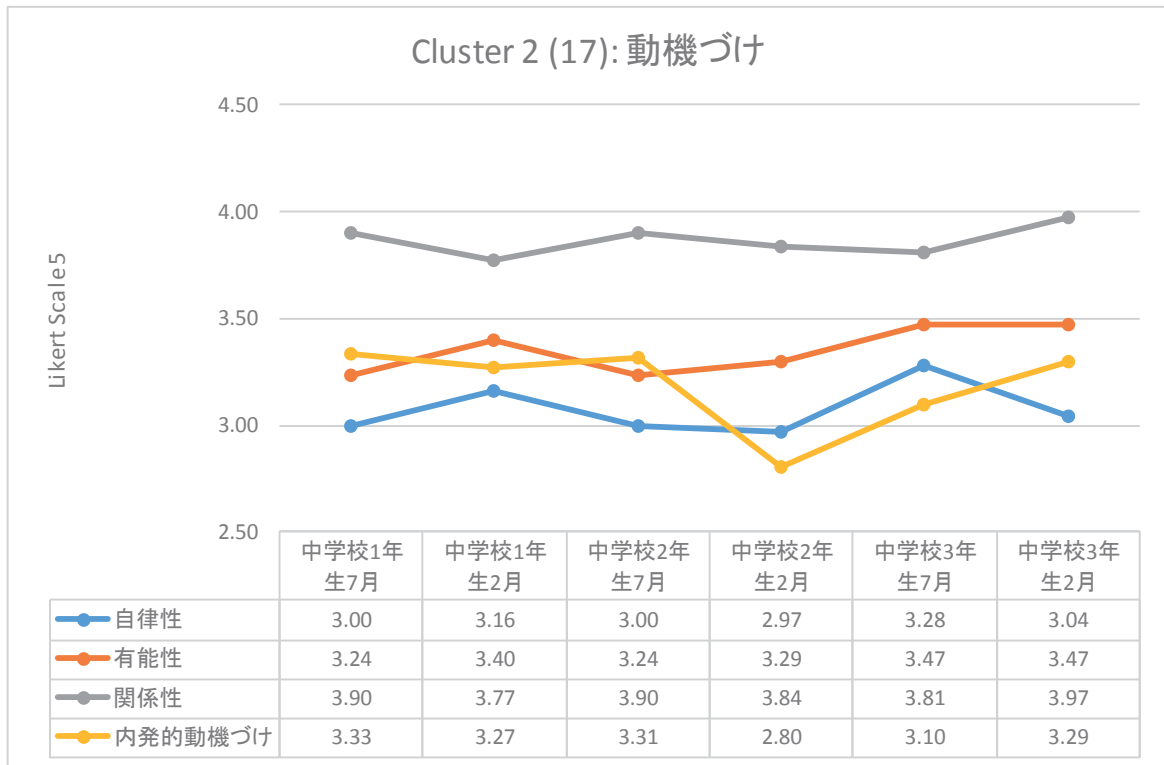


図 18. 中学校 3 年間の動機づけの変化：第 2 クラスター（中位群）

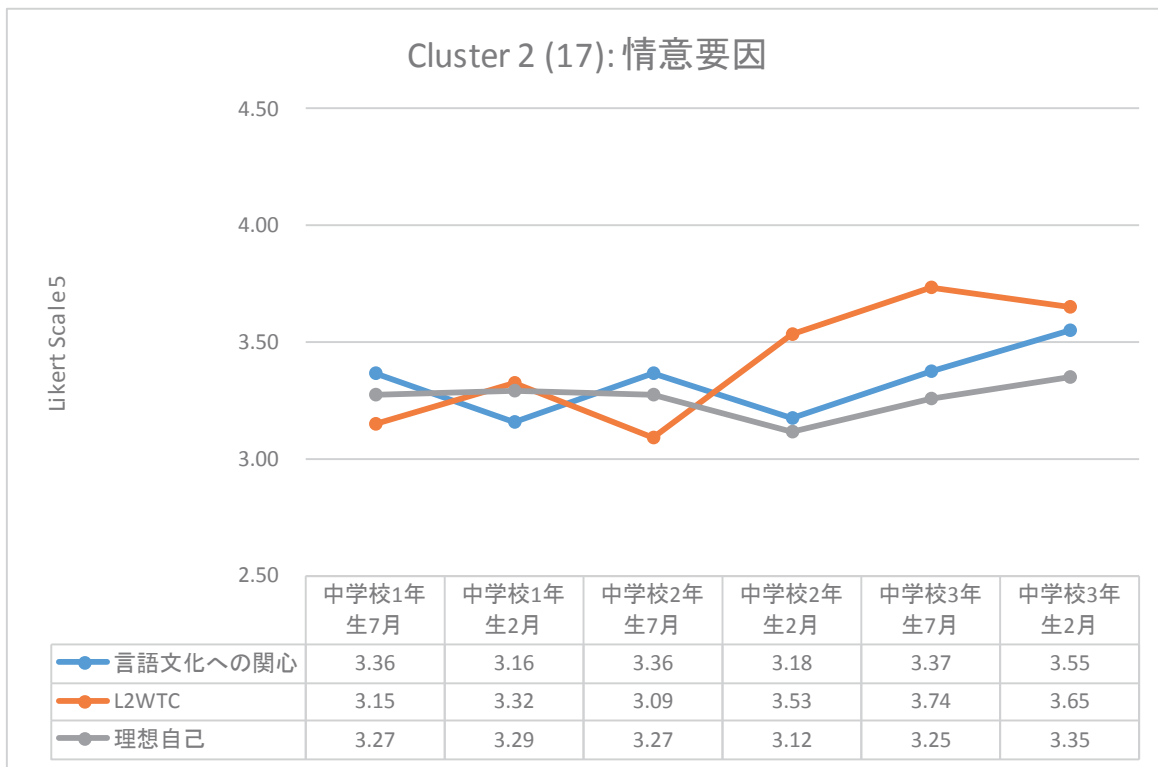


図 19. 中学校 3 年間の情意要因の変化：第 2 クラスター（中位群）

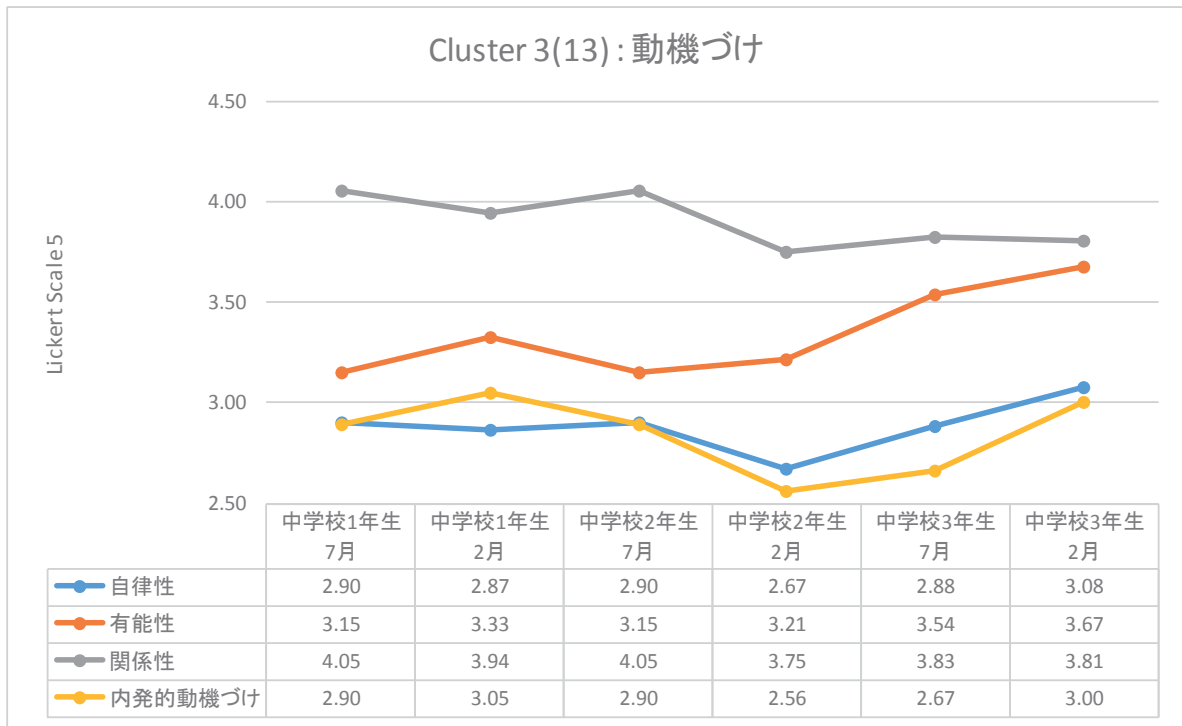


図 20. 中学校 3 年間の動機づけの変化：第 3 クラスター（低位群）

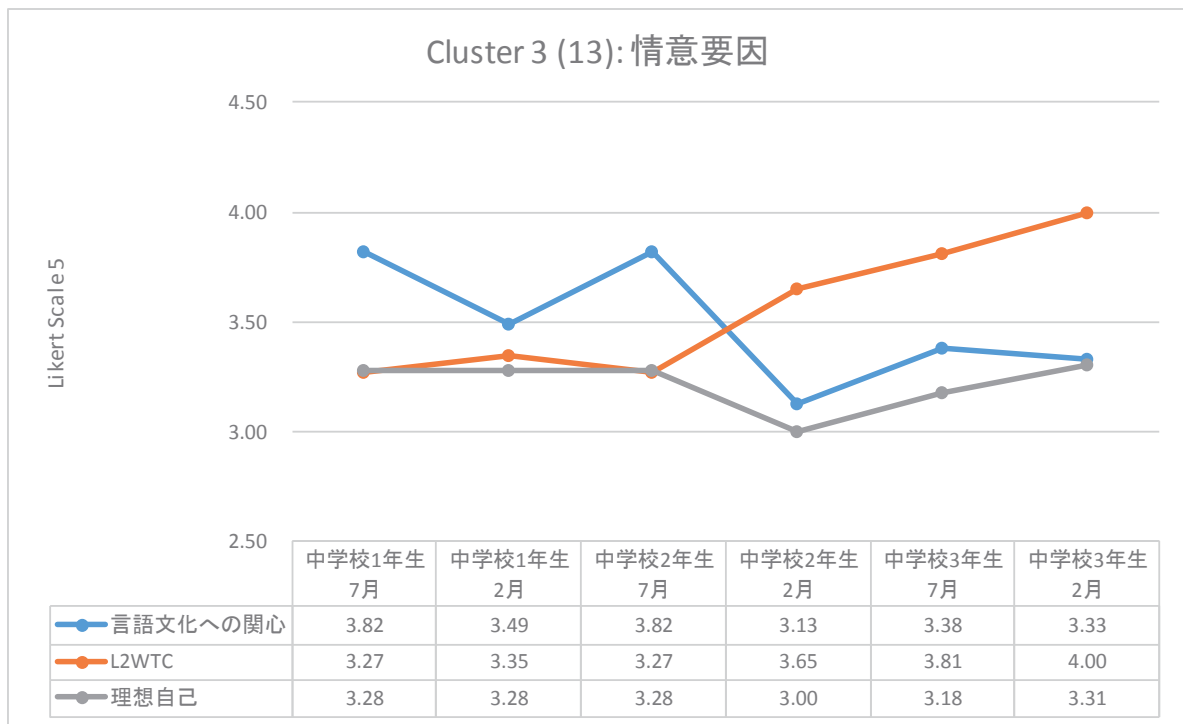


図 21. 中学校 3 年間の情意要因の変化：第 3 クラスター（低位群）

6. 考察

本調査においては、これまで明らかになっていなかった中学校 3 年間ににおける縦断調査において、英語学習時における言語運用能力と動機づけ、情意要因に関する変化の傾向を明らかにした。先行研究が示すように、国内における中学生を対象とした縦断的調査は数少なく、言語運用能力と情意的側面を測定している調査結果は極めて少ないため、今後の文部科学省が意図する学習指導要領改定を視野に入れても、本調査結果は、英語教育分野にとって有益な情報となる。

本調査では、まず、研究課題 1である「中学校 3 年間に於いて、中学生の言語運用能力（英検 5 級とプレイスメントテスト E）と動機づけ（内発的動機づけ・自律性・有能性・関係性）、情意的側面（コミュニケーションへの積極性・Can-Do・言語や文化への関心）が、どのように変化するかを探る」ため、記述統計、t 検定（対応あり）、反復測定分散分析を実施した。分析結果として、言語能力に関しては、各学年の 7 月と 2 月を比較すると、2 月時点において言語能力が高まる傾向を示した。特に、中学校 1 年生段階と 2 年生段階においては顕著な上昇を示していた。中学校 3 年生段階では、顕著な上昇はみられなかったが、全体傾向として著しい低下を示してはいない。次に、情意要因について、3 年間の縦断的調査を実施した結果、動機づけの側面については、関係性の数値が高く一定であり、統計的な有意差を示さなかったが、高くあり続けた。これは関係性が良好な中での教室内での英語活動を読み取ることができる。実際に教師が多く副教材を作成し、きめ細かい指導を行っていたことが印象的であり（第 11 章参照）、生徒たち同士もまた落ち着いた教室環境内で英語授業を受けていた（筆者観察記録より）。内発的動機づけは、中学校 2 年生 2 月時点で一旦低下が見られるが、中学校 3 年生 2 月時点で大きな上昇を示した。自律性や有能性も同様に、中学校 3 年生時点で顕著な上昇を示している。生徒達の自由記述項目から、中学校 3 年生時点では、受験があったこと、英検のプレイスメントテストの実施があったからやる気があがったとの記載が多く見られることから、これらの要因が自律性や有能性に繋がった可能性が考えられる。言語文化への関心、L2WTC、理想自己の 3 つの要因も言語データと同様に、中学校 3 年間の後半で上昇する傾向を示した。特に、L2WTC については、中

学校2年生7月時点で一旦低下するものの中学校2年生2月から中学校3年生にかけて上昇し、言語文化への関心や理想自己についても中学校3年生段階で上昇する傾向を示した。「冬休みくらいから1年生の復習を全部して苦手なところを頑張ると頑張りど成績が比例して行って、テストでも自分の中で英語の点数がとれてうれしかったからもっと頑張ろうとモチベーションが上がった。」「英語が得意だから。将来、英語を話せないといけないと思ったから。英語が喋れる人になりたいと思ったから。」「英検3級をとれてやる気が上がった。」などの記述が見られた。

研究課題2：中学校段階での縦断的調査において、言語運用能力に関わる動機づけや情意に関する予測変数を明らかにするために、重回帰分析を行った。言語運用能力に対する唯一の予測変数は、3年間に渡って「内発的動機づけ」であり、英語を学習すること自体が楽しくて勉強をする、英語を勉強すること自体から喜びや満足感が得られるような行動に関連する“内発的動機づけ”が中学生の言語能力に働きかける可能性を示した。この結果は、Nishida (in press) の日本人大学英語学習者を対象としたTEDプレゼンテーションプロジェクトの結果と同一であり、プレゼンテーションプロジェクトを通して成績や報酬のために英語学習を行う外発的動機づけから、プレゼンテーション事後には、喜びや満足感から活動をしているという“内発的動機づけ”に変化をしていくプロセスが明らかになっている。成績や報酬のために学習を行う“外発的動機づけ”よりも“内発的動機づけ”が英語学習時において言語運用能力向上に繋がる可能性を示唆した。

研究課題3：中学生の変化の詳細を把握するために、個人差の特徴に関する変化の様子を明らかにしていくために、クラスター分析を実施して、個人差の要因を特定した。クラスター分析の結果として、言語・動機づけ・情意の上位群、言語・動機づけ・情意の中位群、言語・動機づけ・情意の低位群の3群に分かれた。言語運用能力が高い生徒は動機づけや情意が高く、その一方で、言語運用能力が低い学習者は動機づけや情意が低い傾向にある。この調査報告は、Nishida (2013)が示す、日本人英語学習者を対象とした調査結果と同一の結果であり、この研究においても、言語運用能力が高い学習者集団は動機づけや情意要因が高い傾向にあった。その一方で、言語運用能力の低い学習者においては、動機づけや情意要因が低く、無動機（やる気のない状態）が高い傾向にあるこ

とが明らかになった。本調査結果から、低位群については、言語運用能力と同様に内発的動機づけや自律性が低いことから、低位群を動機づけ、言語運用能力を高めていくことが課題となろう。高位群や中位群においては、言語運用能力、動機づけ、情意面を維持し、さらに高めていけるような教育的配慮が必要となろう。

7. 限界点と今後の展望

今回の調査においては、中学校 1 年生段階においては 103 名の調査対象者が、最終的には 63 名にとどまった。調査対象者から除外された 40 名は、調査のいずれかの段階で、テストを受けていない、或いは質問紙を受けていない生徒たちである。Nishida (2016b:学会発表資料参照) で明らかになった中学校 1 年生段階の低位群においては、6 名の生徒たちが家庭内における事情、学習面での困難、学校内での問題などを抱えていたことが明らかになっているが、中学校 1 年生段階で低位群に位置づけられた学習者が 3 年間の調査対象となっていない。全ての調査対象者を追跡することが可能でなかったという限界点がある。

今後の展望としては、調査対象校が 1 校であったため、今後は国内での数多くでの学校を対象とした縦断調査が必要となろう。更に質的研究方法を用いて、より精緻な分析を行い個人内の変化のメカニズムを捉えていく必要があるだろう。

8. おわりに

本調査においては中学校 3 年間の縦断的調査方法を用いて中学校 3 年間で中学生の言語運用能力、動機づけ、情意要因がどのように変化するかを主に数量解析を用いた実証研究を行った。結果として、言語能力が高まっていくことや、中学校 3 年生の段階で内発的動機づけや自律性、コミュニケーションへの積極性、言語文化への関心や理想自己に肯定的な変化があることを示した。これまでの研究においては、言語能力と情意について中学生を対象として縦断的調査を実施した研究はないために当該研究分野にとって有益な情報となろう。グローバル化が加速化し、多文化共生社会になりつつある中で、本研究成果が今後の英語教育分野において一石を投じることを願っている。

注 1 : Can-Do を測定していたが、信頼性係数が確保できなかったため、分析から削除した。

9. 参考文献

外務省(2005). 「地球規模問題に関する意識調査」.

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/i_chosa.html

法務省(2016). 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表 2016年度末. Downloaded Feb. 21, 2017.

廣森友人(2015). 「英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な学習方法」大修館.

NPO 法人多文化共生センター http://tabunka.or.jp/about_multiculture/web_lecture/

西田理恵子(2015). 大阪大学学部生を対象とした英語学習時における学習者動機と情意要因に関する実証研究：縦断調査に基づいて. 森祐司編. 平成 25 年度-TOEFL-ITP 実施に関する報告書—結果と分析・考察—. 大阪大学全学教育推進機構言語教育部門. 大阪大学言語文化研究科英語部会.

八島智子 (2004). 外国語コミュニケーションの情意と動機：研究と教育の視点 関西大学出版部.

山森光陽 (2004). 「中学校 1 年生の 4 月における英語学習に対する意欲はどこまで持続するのか」『教育心理学研究』第 52 号, 71-82.

Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner: Individual differences in second language acquisition*. London: Lawrence Erlbaum Associates.

Gardner, R.C. (1985). *Social Psychology and Second Language Learning: The role of attitudes and motivation*. London: Edward Arnold Publishers.

Gardner, R.C., & Lambert, W.E. (1972). *Attitudes and motivation in second language learning*. Rowley, MA: Newbury House Publishers.

Koizumi, R. & Matsuo K (1993). A longitudinal study of attitudes and motivation in learning English among Japanese seventh-grade students. *Japanese Psychological Research*, 35, 1-11.

Larsen-Freeman, D. & Cameron, L. (2008). *Complex systems and applied linguistics*. Oxford: Oxford University Press.

MacIytre, P.D., Clement, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *The Modern Language Journal*, 82, 545-562.

Nishida, R. (2012). A longitudinal study of motivation, interest, Can-Do and willingness to communicate in foreign language activities among Japanese fifth-grade students.

Language Education and Technology, 49, 23-45.

Nishida, R. (2013). The L2 ideal self, intrinsic/extrinsic motivation, international posture, willingness to communicate and Can-Do among Japanese university learners of English. *Language Education and Technology*, 50, 47-63.

Nishida, R. (in preparation). Motivational dynamics and affective changes based on the dynamic complexity theory.

Nishida, R. (in press). The psychology of language learning: the content and the language.

Skehan, P. (1989). *Individual differences in second language learning*. London: Edward Arnold.

Yashima, T. (2002). Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context. *The Modern Language Journal*, 86, 55-66.

Yashima, T., Zenuk-Nishide, L., & Shimizu, K. (2004). Influence of attitude and affect on willingness to communicate and L2 communication. *Language Learning*, 54, 119-152.

APPENDIXA.

自律性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でもすすんで勉強していると思います。
	英語のクラスで勉強した歌を、自分でも練習しています。
	英語のクラスで勉強したことをもっと知りたいので、自分でも進んで勉強しようと思います。
	英語のクラスで勉強した言葉をおうちの人や友達に教えてあげていると思います(犬はドッグとか)。
有能性	英語のクラスでは、「できた」と思うことがあります。
	英語のクラスでは、「よくできた」とほめてもらっていると思います。
	英語のクラスでは、「よくがんばった」と思います。
	英語のクラスでは、自分は、いっしょうけんめい頑張っていると思い、うれしくなります。
関係性	英語のクラスでは教室の中でクラスのみんなが、なかよくしていると思います。
	英語のクラスでは、グループで活動することがあるとき、協力しあえていると思います。
	英語のクラスでは、クラスのみんなが、楽しそうにしていると思います。
	英語の時間では、クラスのお友達に教えあったりして、お友達同士で学びあっていると思います。
内発的動機	英語は好きだと思いますか？
	英語は楽しいですか？
	英語をこれからも続けたいと思いますか？
外国への関心	世界の国について知ろうと思います。
	外国や文化を知るうえで、英語は大切だと思います。
	外国に住んでみたいので、英語を学ぶことは大切です。
CanDo	自分の名前を英語でいうことができます。
	自分の気分について、英語でいうことができます。
	英語の時間にならった歌を歌うことができます。
	英語の時間にならった言葉を(色やたべもの)いうことができます。
L2WTC	英語のクラスでは、たくさんのお友達とお話をします。
	英語のクラスでは、よくお友達とお話をします。
理想自己	将来、英語が話せる人になるだろうと思います。
	将来のことを考えると英語を勉強することは大切だと思います。
	将来、自分の夢がかなったら、英語を自由に話せるようになっていると思います。

10. 学会発表資料

- 10.1 R.Nishida (2016a). A year-long study of the changes in language proficiency, motivation, and affect in individual differences among Japanese secondary school EFL Learners. Hawaiian International Conference on Education. Hawaii.
- 10.2 R. Nishida (2016b). A year-long study of motivational dynamics for Japanese secondary school students in language learning. EuroSLA26 Conference. Finland.
- 10.3 西田理恵子(2017a). 中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究：2年間の縦断調査. 口頭発表. 全国英語教育学会 第43回島根研究大会. 島根大学.
- 10.4. 西田理恵子 (2017b). 中学校3年間の英語運用力と動機付けの変化：実践と研究を通して. 動機付け研究会（関西）. 大阪大学言語文化研究科.

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く
Homonobu University

A year-long study of the changes in language proficiency, motivation, and affect in individual differences among Japanese secondary school EFL learners

Rieko Nishida, Ph.D.
Osaka University

Hawaii International Conference on Education (HICE),
Hilton Waikiki Beach Resort
January 5, 2016.

OSAKA UNIVERSITY

Background

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) announced the Course of Study in 2008, and the overall objectives of foreign language activities at public secondary schools as..

To develop students' **basic communication abilities** such as listening, speaking, reading and writing, deepening their **understanding of language and culture** and **fostering a positive attitude toward communication** through foreign languages.

OSAKA UNIVERSITY

Topics

- Background
- Literature Review
 - Motivation: Process-orientated
 - Self-determination theory
 - L2 Ideal selves
 - Willingness to communicate (L2WTC) · CanDo
- Study Context
- Objectives of the Study
- Method
 - Quantitative Analysis
- Discussion
- Conclusion

OSAKA UNIVERSITY

Background

Although some studies have been conducted in Japanese secondary schools, **there are not many studies** of how language proficiency, motivation and/or affect would change throughout the course.

In order to understand these crucial processes in more depth, linguistic data, STEP 5, motivation and affect will be **measured in order to identify students' change** in a longitudinal manner.

OSAKA UNIVERSITY

BACKGROUND

OSAKA UNIVERSITY

LITERATURE REVIEW

Literature Review

- Motivation:
 - 1) Process-orientated period of motivation
 - 2) Self-determination theory
 - 3) L2 future possible selves
 - 4) Dynamic System Theory
- Willingness to Communicate in L2 / Can-Do

Self Determination Theory (Deci & Ryan, 1985)

Intrinsic Motivation	When learners exhibit intrinsic motivation, they find activities interesting and enjoyable, which in turn leads to growth in learning; learners would engage in the activities without having operationally separable consequences.
Extrinsic Motivation	Conversely, with extrinsic motivation, learners' behaviors are related to extrinsic cues including reward or punishment (Deci & Ryan, 1985).

Amotivation	Extrinsic Motivation			Intrinsic Motivation		Perceived •Autonomy •Competency •Relatedness
No Self-regulation	Extrinsic Regulation	Introjected Regulation	Identified Regulation	Integrated Regulation	Intrinsically Self-regulated	

← Less self-determined | More self-determined →

Research Background

The Socio-psychological period (1960-1990)
Social-psychological approach centering in Canadian Social-psychologist, R.Gardner (integrative-instrumental dichotomy)

The Cognitive-situated Period (1990-)
The application of theories of educational psychology. E.g., *Self-determination theory*.

The Process-Orientated Period (2000-)
The Process-orientated approach (The process-model)
The Motivational Self System (L2 Ideal Selves/ L2 Ought-to Selves)

After 2010, Dynamic Systems Approach to identify notions of single causes, linear causality, immutable categories and highly specified end points to see more micro-perspectives of individual motivational changes .

Self Determination Theory (Deci & Ryan, 1985)

Three Psychological Needs of Motivation

Perceived Autonomy	Humans are inherently proactive with their potential and mastering their inner forces (such as drives and emotions)
Perceived Competency	Humans have inherent tendency toward growth development and integrated functioning
Perceived Relatedness	Optimal development and actions are inherent in humans but they don't happen automatically

Intrinsic Motivation

Perceived Autonomy | Perceived Competency | Perceived Relatedness

Literature Review: Motivation

More recently, after the year 2000, the process of language learning, rather than the product, has received significant attention (e.g., Dörnyei & Ottó, 1998). Dörnyei & Ottó (1998) proposed a process model which emphasized dynamic characteristics and temporal variation in motivation in language learning.

As learners' motivation shows continuous fluctuations over the course of time, the integration of the "time" factor can be crucial in understanding motivational changes among language learners.

⇒ Time factor will be integrated.

Future Possible L2 Selves: L2 Ideal selves & L2 Ought-to selves

This concept of 'possible self' is considered to be a powerful motivator to learn L2, as L2 learners try to reduce the discrepancy between learners' actual selves and future possible selves, ideal and ought-to selves.

L2 Ideal Selves	The 'L2 ideal self' which refers to what someone hopes and wishes to become, incorporates the L2-specific aspect of learner' ideal selves.
L2 Ought to Selves	A complementary self-guide is the 'ought-to self', which refers to what someone feels obligated to become, including those which are the result of obligations and responsibilities, as they wish to avoid possible negative consequences.
Intended Learning Effort	To fill the gap between the actual self, and the future possible self, learners try to make an intentional learning effort.

Literature Review: L2 WTC


Willingness to communicate

As one of the focuses of foreign language activities in Japan is to foster a positive attitude toward communication, “willingness to communicate”, defined as “the intention to initiate communication, given a choice” (MacIntyre, Baker, Clement & Conrod, 2001, p.369) has received attention from researchers and practitioners in Japan.

Can-Do

Having or showing a determination or **willingness to take action** and achieve results.

Study Context: Curricula



Annual Curricula (for the first grade)			
1st semester	April	Get Ready 1 - 4. LESSON 1 I am Tanaka Kumi	Greetings, Alphabet, Word sounds, Spelling I am ... You are ... / Are you ...? I am not ...
	May	LESSON 2 My School	This is ... / Is that ...? What is this? He is ... She is ...
	June	LESSON 3 I Like Kendama	I have ... Do you know ...? I don't play ... What do you have?
	Mini-Project : Self introduction		
	July	LESSON 4 Field Trip	two bags How many ...? Use ... / Don't ... / Let's ...
	Aug.	LESSON 5 Our New Friend from India	Who is ...? Where do you ...? When do you ...? him/her
2nd semester	Sept.	Start Reading My Treasure	Reading
	Oct.	LESSON 6 My Family in the UK	Miki plays ... Does Miki play ...? Miki doesn't play ... Where / When does Miki ...?
	Mini-Project : Friends' Introduction		
	Nov.	LET'S READ 1 Alice and Humpty Dumpty	Reading
		LESSON 7 Wheelchair Basketball	Koji can play ... Can Koji play ...? Koji cannot play ...
	Dec.	LESSON 8 School Life in the USA	Tom is playing ... / Is Tom playing ...? / Tom isn't playing ...
3rd semester	Mini-Project : Making School Homepage		
	Jan.	LESSON 9 Four Seasons in Japan	Amy played ... Did Amy play ...? Amy didn't play ... Amy went ...
	Feb.	LET'S READ 2 A Girl Saved Many Lives	Reading

STUDY CONTEXT

Study Context: Lesson Plans

《Lesson Plan for 50 minutes》

Routine	5 min	Greetings, dates, weather, reviews, Q & A from last lessons.
	5 min	Sing songs (to check pronunciation)
	5 min	Expression Sheet (Learning Grammar from New Crown: Pair work)
	5 min	Pronunciation, spelling and meaning of vocabulary.
	10 min	Understanding contents and review.
	10 min	Read aloud.
	10 min	Introduction of grammar. Summarizing the notes. Activities (Group and Pair work)
	10 min	Reflection
	He created teaching materials including activities using iPad.	

Study Context

The focus of this study was Secondary School A in Osaka prefecture in Japan. The city was rather small and there were only 105 students in total aged between 12 and 13 years old (1st year students).

During the period of the present research, an assistant language teacher (hereinafter, ALT) was visiting to the school three times a week.

OBJECTIVES OF THE STUDY

OSAKA UNIVERSITY

Objectives of the Study

To capture the changes in **overall tendencies** and individual differences to see their listening abilities, intrinsic motivation, interest in cultures and languages, L2WTC, CanDo, and L2 ideal selves with the data collected in **July 2014** and **February 2015**.

To briefly identify teachers' perspectives of how students changed throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

Method: Procedure

Listening test (STEP 5) 25 Questions	Listening test was prepared according to students' listening abilities.
Questionnaire	Intrinsic motivation, perceived autonomy, competency and relatedness, L2 WTC, L2 ideal selves, interest in languages and cultures and CanDo.


OSAKA UNIVERSITY

METHOD

OSAKA UNIVERSITY

Listening Test: STEP 5.

Section 1



(Example 1)
 ★That's a nice hat.
 ★1. Yes, I do.
 ★2. Thank you.
 ★3. You, too.
 Answer: 2. Thank you.

OSAKA UNIVERSITY

Method: Participants

A total **103** students participated in the study (male: 60, female:43) . When students took listening tests (STEP 5th) and questionnaires, they were the first year of secondary school aged between 12 and 13 years old.

Two students were eliminated from the study as they were absent.

OSAKA UNIVERSITY

Listening Test: STEP 5.

Section 2


★Do you like candy, Helen?
 ★No, I don't. I like fruit.

Q1. What does Helen like?
 1. She likes pizza.
 2. She likes cake.
 3. She likes candy.
 4. She likes fruit.

OSAKA UNIVERSITY

Listening Test: STEP 5.

Section 3



1. It's 5:45 in the morning.
2. It's 5:50 in the morning.
3. It's 5:55 in the morning.

OSAKA UNIVERSITY

Objectives of the Study 1

To capture the changes in **overall tendencies** to see their listening abilities, intrinsic motivation, interest in cultures and languages, L2WTC, CanDo, and L2 ideal selves with the data collected in **July 2014** and **February 2015**.

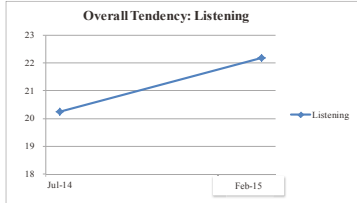
OSAKA UNIVERSITY

Method: Procedure (Cronbach's Alpha)

	References	Cronbach's Alpha	
		Time 1	Time 2
Autonomy	Hiromori (2006)	α . 64	α . 78
Competency		α . 79	α . 74
Relatedness		α . 80	α . 83
Intrinsic Motivation		α . 88	α . 90
Interest in Languages and Culture	Nishida (2008)	α . 68	α . 68
L2WTC	Yashima (2002, 2004)	α . 92	α . 88
CanDo	Nakahira, et al. (2010)	α . 76	α . 73
L2 Ideal Self	Ryan (2009)	α . 76	α . 79

OSAKA UNIVERSITY

Results: Overall tendencies



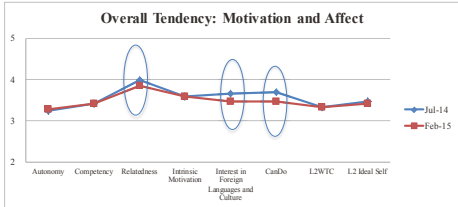
Overall Tendencies: Longitudinal Analysis of Listening Abilities

OSAKA UNIVERSITY

DATA ANALYSIS

OSAKA UNIVERSITY

Results: Overall tendencies



Overall Tendencies of Longitudinal Analysis of Affective Factors

Results: Overall tendencies

	<i>M</i>	<i>sd</i>	95% CI		<i>t</i>	<i>df</i>	<i>p</i>
			Lower	Upper			
Listening	-1.92	4.06	-2.72	-1.13	-4.81	102	0.00
Autonomy	-0.03	0.68	-0.17	0.10	-0.51	102	0.61
Competency	0.00	0.66	-0.13	0.13	-0.02	102	0.98
Relatedness	0.15	0.65	0.02	0.28	2.34	102	0.02
Intrinsic Motivation	-0.01	0.84	-0.18	0.15	-0.14	102	0.89
Interest in Languages and Culture	0.19	0.77	0.04	0.34	2.48	102	0.01
CanDo	0.22	0.63	0.10	0.35	3.60	102	0.00
L2WTC	-0.01	0.95	-0.20	0.18	-0.10	102	0.92
L2Ideal Self	0.06	0.79	-0.09	0.22	0.79	102	0.43

Repeated measurement of t-tests

Interview Results

Interview lasted nearly 60 minutes with an English teacher. He was especially interested in talking about gender differences. He was explaining how boys and girls differ in English class.

In comparing with gender differences, girls seem to prefer English.

In the class, girls seem to be excited to be in English class, for example, they sing songs harder than boys.

But regarding the grades, they are actually no difference, but in the class, girls seem to enjoy a lot.

Objectives of the Study 2

To briefly identify teachers' perspectives of how students changed throughout the course.

DISCUSSION

Interview results

Interview lasted nearly 20 minutes with a school principle. He especially pointed out the students in the lowest cluster. He pointed out why their listening abilities showed a sharp decrease.

Students in the lowest cluster showed difficulties in a school life.

They were difficult in other subjects.

Also some of them had a family problem.

Discussion

The current study has yielded a number of findings on listening abilities as well as affective factors including intrinsic motivation, three psychological needs of motivation, interest in languages and culture, CanDo, L2WTC and L2 ideal selves over one year.

Quantitative results showed changes in overall students' tendencies in listening abilities and affective factors throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

Discussion

Considering students' overall tendencies in **listening abilities**, longitudinally, students' abilities showed an increasing tendency. Students' listening abilities showed a sharp increase after a half year.

Regarding **motivation and other affective factors**, perceived relatedness, interest in languages and culture, and Can-Do seem to have **increased** and statistical differences were observed. But the rest of the factors including perceived autonomy, competency, intrinsic motivation, L2WTC and L2 ideal self **retained** throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

CONCLUSION

OSAKA UNIVERSITY

Discussion

From the interview results, students who showed the lowest cluster in listening, motivation and affect also revealed difficulties in other classes as well as outside the class.

Students who tend to drop their test results as well as motivation and affect in language learning tend to show a difficult time with their family and/or have other trouble outside the class.

This is a **butterfly effect** that illustrates how complex socio-environmental conditions interact with each other, making it difficult to predict whether these events can be motivating or demotivating in learners' learning trajectories.

OSAKA UNIVERSITY

Conclusion

With this longitudinal analysis, overall tendencies as well as individual differences and trajectories in language learning have been identified.

This is the longitudinal studies of the results in the first year, so while students are studying at the secondary school, the data will be collected two more years and will be analyzed quantitatively and qualitatively.

Then possible educational interventions and pedagogical implications will be discussed and provided.

OSAKA UNIVERSITY

Discussion

Cluster analysis showed 5 different patterns of individual differences.

Particularly, students whose listening abilities are higher tended to show high in motivation and affect. On the contrary, students whose listening abilities are lower also tended to show low in motivation and affect.

Although some students in other clusters showed high in listening, they showed low in motivation and affect. This means that students show very different patterns of changes throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

Conclusion

Also by enhancing students' motivation and affect in language learning, I hope they will enhance their understanding toward people from different cultural background and their will to communicate with people around the world in order to live in this globalizing world.

Thank you very much for your listening!

rienishi@lang-osaka.ac.jp

HP:rieko.nishida@jimdo.com

OSAKA UNIVERSITY

Questionnaire Items

自律性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でもすすんで勉強していると思います。
	英語のクラスで勉強した歌を、自分でも練習しています。
	英語のクラスで勉強したことをもっと知りたいため、自分でも進んで勉強しようと思います。
可能性	英語のクラスで勉強した言葉をおうちの人や友達に教えてあげていると思います(犬はドッグとか)。
	英語のクラスでは、「できた」と思うことがあります。
	英語のクラスでは、「よくできた」とほめてもらっていると思います。
関係性	英語のクラスでは、「よくがんばった」と思います。
	英語のクラスでは、自分は、いっしょけんめい頑張っていると思いい、うれしくなります。
	英語のクラスでは、教室の中でクラスのみんなが、なかよくしていると思います。
内発的動機	英語のクラスでは、グループで活動することがあるとき、協力しあえていると思います。
	英語の時間では、クラスのお友達に教えあったりして、お友達同士で学びあっていると思います。
	英語は好きだと思いますか？
外国への関心	英語はこれからも続けたいと思いますか？
	世界の国について知ろうと思います。
	外国や文化を知るうえで、英語は大切だと思います。
CanDo	外国に住んでみたいので、英語を学ぶことは大切です。
	自分の名前を英語でいうことができます。
	自分の気分について、英語でいうことができます。
L2WTC	英語の時間にならった歌を歌うことができます。
	英語の時間にならった言葉を(色やたべもの)いうことができます。
	英語のクラスでは、たくさんのお友達とお話をします。
理想自己	英語のクラスでは、よくお友達とお話をします。
	将来、英語が話せる人になるだろうと思います。
	将来、自分の夢がかなったら、英語を自由に話せるようになっていると思います。

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く
Harmless Diversity

A year-long study of motivational dynamics for Japanese secondary school students in language learning

Rieko Nishida, Ph.D.
Osaka University
EuroSLA26 Conference
Jyväskylä, Finland
August 24-27, 2016

OSAKA UNIVERSITY

Background

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) announced the Course of Study in 2008, and the overall objectives of foreign language activities at public secondary schools as..

To develop students' basic communication abilities such as listening, speaking, reading and writing, deepening their understanding of language and culture, and fostering a positive attitude toward communication through foreign languages.

OSAKA UNIVERSITY

Topics

- Background
- Literature Review
 - Motivation:
 - Self-determination theory
 - L2 Ideal selves
 - Willingness to communicate (L2WTC) · CanDo
- Study Context
- Objectives of the Study
- Method
 - Quantitative Analysis
 - Qualitative Data (Teachers' Interviews)
- Discussion
- Conclusion

OSAKA UNIVERSITY

Background

Although some studies have been conducted in Japanese secondary schools, there are not many studies of how language proficiency, motivation and/or affect would change throughout the course.

In order to understand these crucial processes in more depth, linguistic data, STEP 5, motivation and affect will be measured in order to identify students' change in a longitudinal manner.

OSAKA UNIVERSITY

BACKGROUND

OSAKA UNIVERSITY

LITERATURE REVIEW

Literature Review

1. Motivation	1) Belief history of motivation 2) Self-determination theory 3) L2 future possible selves
2. Affect	1) Willingness to Communicate in L2 2) Can-Do

Self Determination Theory (Deci & Ryan, 1985)

Three Psychological Needs of Motivation

Perceived Autonomy	Humans are inherently proactive with their potential and mastering their inner forces (such as drives and emotions)
Perceived Competency	Humans have inherent tendency toward growth development and integrated functioning
Perceived Relatedness	Optimal development and actions are inherent in humans but they don't happen automatically

```

graph TD
    A[Intrinsic Motivation] --> B[Perceived Autonomy]
    A --> C[Perceived Competency]
    A --> D[Perceived Relatedness]
    
```

Literature Review

The Socio-psychological period (1960-1990)
Social-psychological approach centering in Canadian Social-psychologist, R.Gardner
(integrative-instrumental dichotomy)

The Cognitive-situated Period (1990-)
The application of theories of educational psychology.
E.g., Self-determination theory.

The Process-Orientated Period (2000-)
The Process-orientated approach (The process-model)
The Motivational Self System (L2 Ideal Selves/ L2 Ought-to Selves)

After 2010, Dynamic Systems Approach to identify notions of single causes, linear causality, immutable categories and highly specified end points to see more micro-perspectives of individual motivational changes .

Future Possible L2 Selves: L2 Ideal selves & L2 Ought-to selves

This concept of 'possible self' is considered to be a powerful motivator to learn L2, as L2 learners try to reduce the discrepancy between learners' actual selves and future possible selves, ideal and ought-to selves.

L2 Ideal Selves	The 'L2 ideal self' which refers to what someone hopes and wishes to become, incorporates the L2-specific aspect of learner' ideal selves.
L2 Ought to Selves	A complementary self-guide is the 'ought-to self', which refers to what someone feels obligated to become, including those which are the result of obligations and responsibilities, as they wish to avoid possible negative consequences.
Intended Learning Effort	To fill the gap between the actual self, and the future possible self, learners try to make an intentional learning effort.

Self Determination Theory (Deci & Ryan, 1985)

Intrinsic Motivation	When learners exhibit intrinsic motivation, they find activities interesting and enjoyable, which in turn leads to growth in learning; learners would engage in the activities without having operationally separable consequences.
Extrinsic Motivation	Conversely, with extrinsic motivation, learners' behaviors are related to extrinsic cues including reward or punishment (Deci & Ryan, 1985).

Amotivation	Extrinsic Motivation				Intrinsic Motivation	
No Self-regulation	Extrinsic Regulation	Introjected Regulation	Identified Regulation	Integrated Regulation	Intrinsically Self-regulated	Perceived •Autonomy •Competency •Relatedness

← Less self-determined More self-determined →

L2WTC & Can-Do

Willingness to Communicate

As one of the focuses of foreign language activities in Japan is to foster a positive attitude toward communication, "willingness to communicate", defined as "the intention to initiate communication, given a choice" (MacIntyre, Baker, Clement & Conrod, 2001, p.369) has received attention from researchers and practitioners in Japan.

Can-Do

Having or showing a determination or willingness to take action and achieve results.

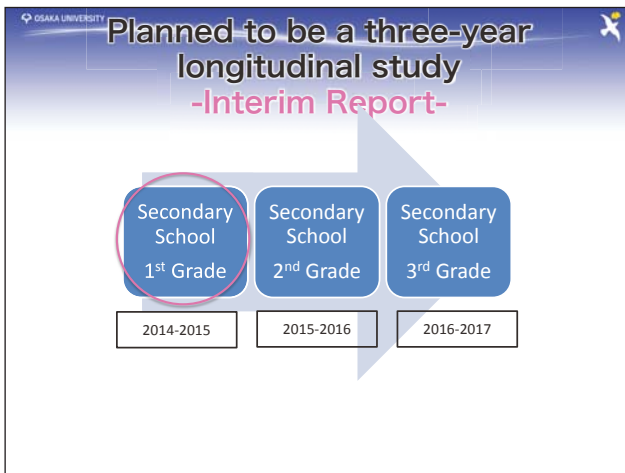
OSAKA UNIVERSITY

STUDY PLAN

A THREE-YEAR LONGITUDINAL STUDY

OSAKA UNIVERSITY

STUDY CONTEXT

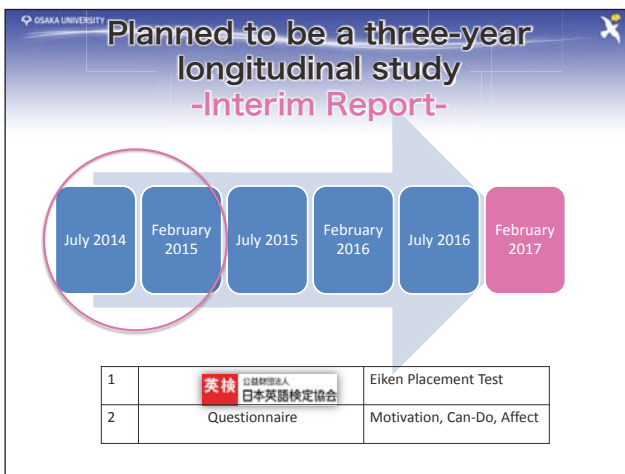


OSAKA UNIVERSITY

Study Context

The focus of this study was Secondary School A in Osaka prefecture in Japan. The city was rather small and there were only 105 students in total aged between 12 and 13 years old (1st year students).

During the period of the present research, an assistant language teacher (hereinafter, ALT) was visiting to the school three times a week.



OSAKA UNIVERSITY

Study Context: Curricula

Annual Curricula (for the first grade)

1st semester	April	Get Ready 1 - 4.	Greetings, Alphabet, Word sounds, Spelling
		LESSON 1 I am Tanaka Kumi	I am... You are... / Are you...? I am not...
	May	LESSON 2 My School	This is... / Is that...? What is this? He is... She is...
	June	LESSON 3 I Like Kendama	I have... Do you know...? I don't play... What do you have?
	July	Mini-Project: Self introduction	
		LESSON 4 Field Trip	two bags How many...? Use... / Don't... / Let's...
2nd semester	Aug.	LESSON 5 Our New Friend from India	Who is...? Where do you...? When do you...? him/her
	Sept.	Start Reading My Treasure	Reading
	Oct.	LESSON 6 My Family in the UK	Miki plays... Does Miki play...? Miki doesn't play... Where / When does Miki...?
		Mini-Project: Friends' Introduction	Reading
	Nov.	LET'S READ 1 Alice and Humpty Dumpty	
		LESSON 7 Wheelchair Basketball	Koji can play... Can Koji play...? Koji cannot play... Tom is playing... / Is Tom playing...? / Tom isn't playing...
3rd semester	Dec.	LESSON 8 School Life in the USA	
		Mini-Project: Making School Homepage	
	Jan.	LESSON 9 Four Seasons in Japan	Amy played... Did Amy play...? Amy didn't play... Amy went... / Where did Amy go...?
	Feb.		
March	LET'S READ 2 A Girl Saved Many Lives	Reading	

Study Context: Lesson Plans

《Lesson Plan for 50 minutes》

Routine	5 min	Greetings, dates, weather, reviews, Q & A from last lessons.	We are Never Ever Getting Back Together by Taylor Swift
	5 min	Sing songs (to check pronunciation)	
	5 min	Expression Sheet (Learning Grammar from New Crown: Pair work)	
	5 min	Pronunciation, spelling and meaning of vocabulary.	
	10 min	Understanding contents and review.	
	10 min	Read aloud.	
	10 min	Introduction of grammar. Summarizing the notes. Activities (Group and Pair work) Reflection	

He created teaching materials including activities using iPad.

METHOD

OBJECTIVES OF THE STUDY

Method: Participants

A total **105** students participated in the study (male: 60, female: 45) . When students took listening tests (STEP 5th) and questionnaires, they were the first year of secondary school aged between 12 and 13 years old.

Two students were eliminated from the study as they were absent.

Objectives of the Study

To capture the changes in **overall tendencies** and **individual differences** to see their listening abilities, intrinsic motivation, interest in cultures and languages, L2WTC, CanDo, and L2 ideal selves with the data collected in **July 2014 and February 2015**, and also focusing on the lowest cluster of the students to capture their tendencies,

To **interview** teachers to specifically focus on the lowest students among the others, and also to identify teachers' perspectives of how students changed throughout the course.

Method: Procedure


英検 公益財団法人 日本英語検定協会

Eiken STEP 5	Listening test (25 Questions)
Questionnaire	Intrinsic Motivation Perceived Autonomy Perceived Competency Perceived Relatedness L2 WTC Ideal L2 selves Interest in Languages and Cultures CanDo.

OSAKA UNIVERSITY

Listening Test: STEP 5.

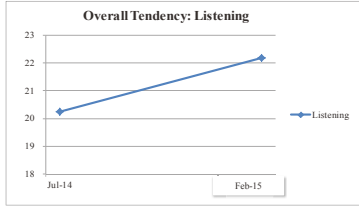
Section 3



1. It's 5:45 in the morning.
2. It's 5:50 in the morning.
3. It's 5:55 in the morning.

OSAKA UNIVERSITY

Results: Overall tendencies



Overall Tendencies: Longitudinal Analysis of Listening Abilities

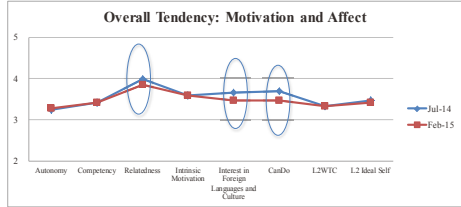
R.Nishida (2016). Presented at Hawaiian International Conference on Education (HICE)

OSAKA UNIVERSITY

DATA ANALYSIS

OSAKA UNIVERSITY

Results: Overall tendencies



Overall Tendencies of Longitudinal Analysis of Affective Factors

R.Nishida (2016). Presented at Hawaiian International Conference on Education (HICE)

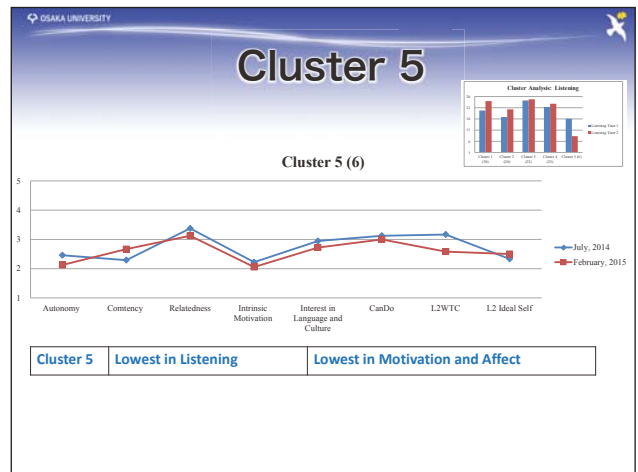
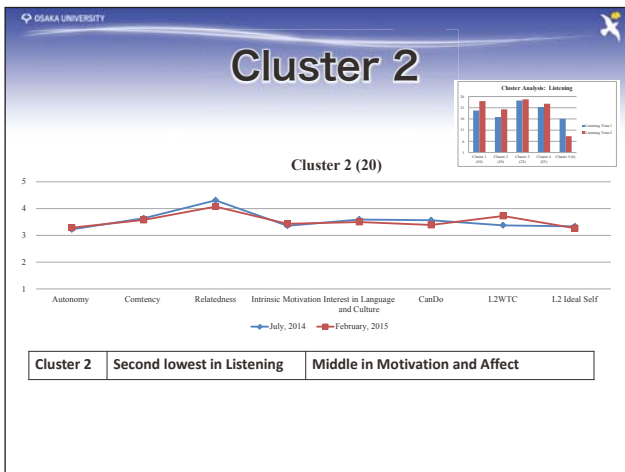
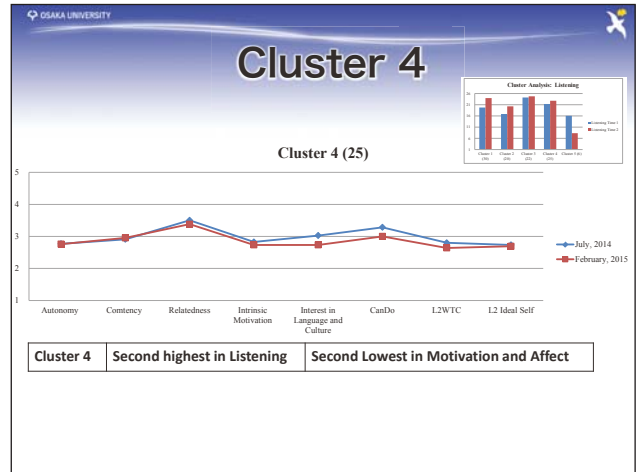
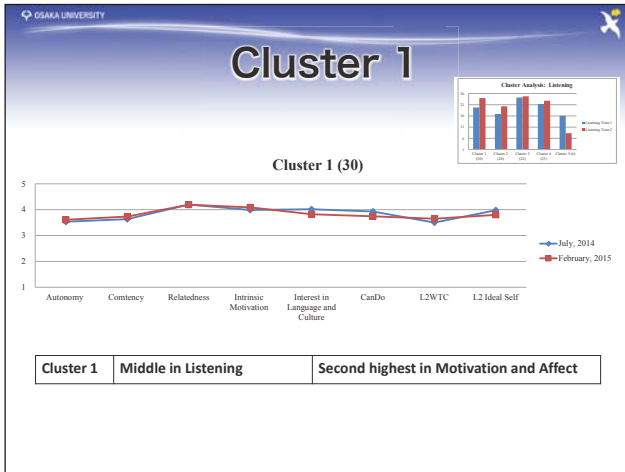
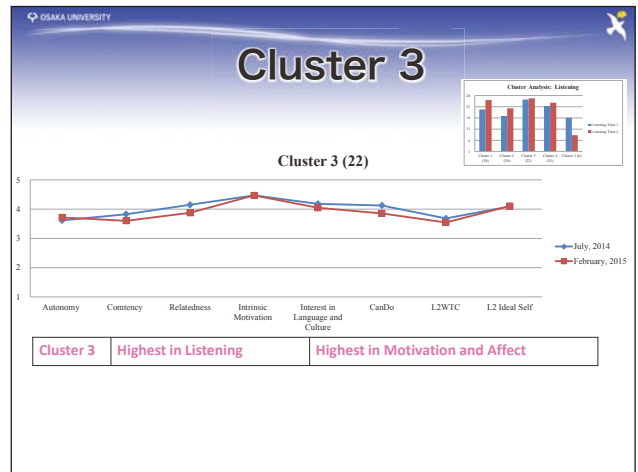
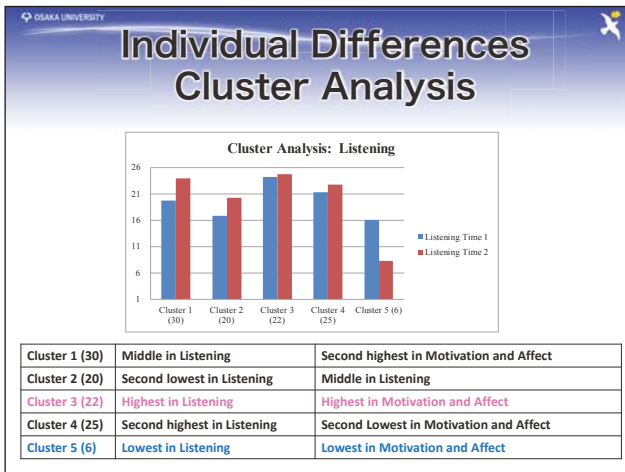
OSAKA UNIVERSITY

Objectives of the Study 1

To capture the changes in **overall tendencies** and **individual differences** to see their listening abilities, intrinsic motivation, interest in cultures and languages, L2WTC, CanDo, and L2 ideal selves with the data collected in **July 2014 and February 2015**, and also focusing on the lowest cluster of the students to capture their tendencies,

OSAKA UNIVERSITY

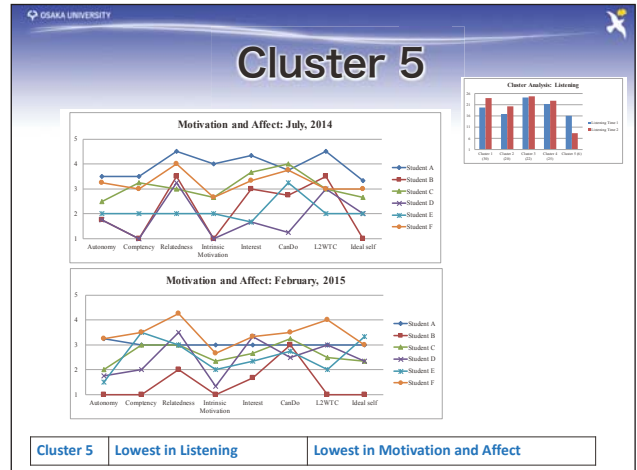
CLUSTER ANALYSIS TO SEE INDIVIDUAL DIFFERENCES



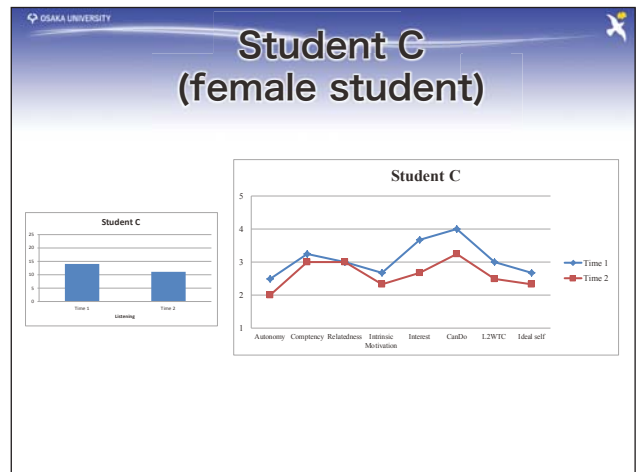
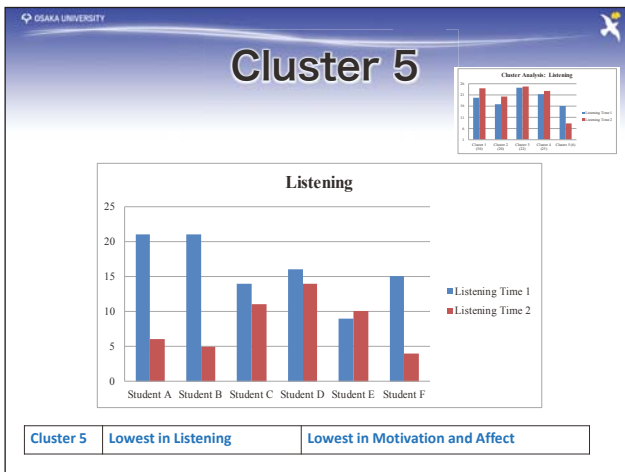
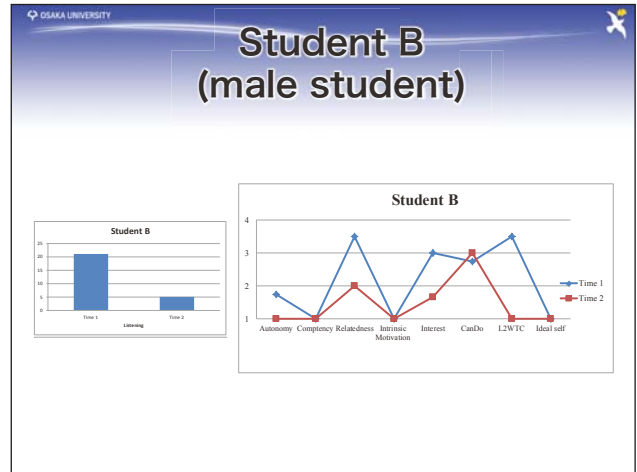
Individual Difference Repeated Measurement of ANOVA

Within Subject						
	Type III	df	Mean Square	F	p	η^2
Listening	6.087	1, 98	6.087	1.347	.249	.014
Autonomy	.016	1, 98	.016	.069	.794	.001
Competency	.080	1, 98	.080	.372	.543	.004
Relatedness	1.166	1, 98	1.166	5.444	.022	.053
Intrinsic Motivation	.011	1, 98	.011	.029	.864	.000
Interest in Languages and Culture	1.312	1, 98	1.312	4.304	.041	.042
L2WTC	.215	1, 98	.215	.485	.488	.005
CanDo	1.619	1, 98	1.619	7.945	.006	.075
L2 Ideal Self	.016	1, 98	.016	.049	.825	.001

Between Subject						
	Type III	df	Mean Square	F	p	η^2
Listening	1788.820	4, 98	447.205	127.482	.000	.839
Autonomy	36.510	4, 98	9.127	15.718	.000	.391
Competency	31.896	4, 98	7.974	15.344	.000	.385
Relatedness	24.631	4, 98	6.158	14.051	.000	.364
Intrinsic Motivation	105.722	4, 98	26.430	28.845	.000	.541
Interest in Languages and Culture	.265	4, 98	.066	.217	.928	.009
L2WTC	3.103	4, 98	.776	1.752	.145	.067
CanDo	24.498	4, 98	6.124	10.351	.000	.297
L2 Ideal Self	70.907	4, 98	17.727	27.927	.000	.533



CLUSTER 5 IN DETAILS



Objectives of the Study 2

To **interview** teachers to specifically focus on the lowest students among the others, and also to identify teachers' perspectives of how students changed throughout the course.

Brief descriptions of semi-structural interviews for the lowest cluster

Student A (Male)	Parents does not have a stable job. His sister has withdrawn from the school. He hardly went to the elementary school.
Student B (Male)	A single parent with a financial problem. He has three brothers and his mother comes home late. He likes his mother so wants to get attention from her, but he cannot receive her attention.
Student C (Female)	She was moved to this area when she was at Elementary School H. She was bullied quite hard at the previous school. She is not fitting into the school and the class. She had a trouble with a boy (or boys).
Student D (Female)	She changed club activity from softball club to badminton club. She showed incompatibility of adjusting to the school.
Student E (Male)	He has developmental problems. The doctor diagnosed him as Asperger's disease.
Student F (Female)	She shows learning disability. She tries to work hard, but she is unable to do it.


Method Semi-structural Interviews

Date	March 20, 2015
Length	1 hour 30 min.
Interviewees	School Principle (approx. 20 min). English Teacher (approx. 1 hour 10 min).

Interview from School Principle

About the School context in general

This year, the first year showed very difficult time. The first grade had to go through a lot of troubles throughout the course. So I can say that students' motivation can be declined because of that.



School Principle


A tough time can happen during the school years., as you know. It maybe their age matters as well.

- ## Method -Semi-structural Interviews-
- All the data was transcribed into a written format for analysis and the transcriptions of open-ended comments were open-coded. A part of the **Grounded Theory Approach** (GTA: Strauss and Cobin, 1990) was employed and transcriptions of students' comments were categorized as open-coding.

Interview from School Principle

Student B


He used to be at Elementary School H. His parent had divorced.. He has two brothers, but they both quit the high school. His mother is a single mother with three sons. Because she takes care of three sons all by herself, they are always financially insecure. He likes his mother so much, but she cannot give him an attention, as she comes home late. As she cannot take care of him so well, he loses his interest in studies in general, and he stopped studying. he is not wrong, he is a good student, but he faces with very rough situation at home.



School Principle

OSAKA UNIVERSITY

Interview from School Principle Student C



School Principle


When I was at a school principle at Elementary School H., she was moved from different school. I heard that she was bullied very hard at the previous school, so she was not able to cooperate with other students. She is not speaking with her classmate much. I think she is unable to open up herself due to her past experience. In the after school class, she used to talk to older students, but does not talk to her classmates. I can say that her motivation has been dropped a bit lately.

OSAKA UNIVERSITY


DISCUSSION

OSAKA UNIVERSITY

Interview from School Principle Student E



Student E was diagnosed as Asperger's disease by the doctor. We have three classes on 1st grade, and he was allocated to Teacher A's class as Teacher A is a competent teacher. So, other students such as Student A & B are allocated to his class.



Teacher A

Sometimes, he has difficulty in the class, so he needs to go out from the class and chill out. He was supposed to be in a special need's class, but he tries to be with other students in a usual classroom.

OSAKA UNIVERSITY

Discussion

The current study has yielded a number of findings on **listening abilities** as well as **affective factors** including intrinsic motivation, three psychological needs of motivation, interest in languages and culture, CanDo, L2WTC and L2 ideal selves over one year.


Quantitative results showed **changes** in overall students' tendencies in listening abilities and affective factors throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

Dynamic Changes throughout the time

Open-coding	Brief Descriptions	Time 1	Time 2
Family Problems	<ul style="list-style-type: none"> Siblings social withdrawal Financial difficulties 	Less influential	More or less influential
Bullying	<ul style="list-style-type: none"> Bullied experience in the past 	Fear from the past	Fear in the present
Social incompatibility	<ul style="list-style-type: none"> Not adjusting to the school and club activity 	Joined in the club activity	Change the club activity
Developmental/ Learning Disabilities	<ul style="list-style-type: none"> Diagnosed as Asperger's disorder / a borderline learning disabilities 	Diagnosed in the past	More or less difficult to cope

More or less became stronger and/or obvious as time goes



OSAKA UNIVERSITY

Discussion

Considering students' overall tendencies in **listening abilities**, longitudinally, students' abilities showed an increasing tendency. Students' listening abilities showed a sharp increase after a half year.

Regarding motivation and other affective factors, perceived relatedness, interest in languages and culture, and Can-Do seem to have **decreased** and statistical differences were observed. But the rest of the factors including perceived autonomy, competency, intrinsic motivation, L2WTC and L2 ideal self **retained** throughout the course.

OSAKA UNIVERSITY

Discussion

From the interview results, the school seems to face with a difficult time as well as students who showed **the lowest cluster** in listening, motivation and affect also revealed difficulties in other classes and also outside the class.

Students who tend to drop their test results as well as motivation and affect in language learning tend to show a difficult time with their family and/or have other trouble outside the class.

This is somehow a **butterfly effect** that illustrates how complex socio-environmental conditions interact with each other, making it difficult to predict whether these events can be motivating or demotivating in learners' learning trajectories.

OSAKA UNIVERSITY

Thank you very much!

英検
後援: 文部科学省

This presentation is supported by
Eiken Foundation of Japan

HP: rienishi.jimdo.com
Email: rienishi@lang.osaka-u.ac.jp



OSAKA UNIVERSITY

Discussion

Cluster analysis showed 5 different patterns of individual differences.

Particularly, students whose listening abilities are higher tended to show high in motivation and affect. On the contrary, students whose listening abilities are lower also tended to show low in motivation and affect.

Although some students in other clusters showed high in listening, they showed low in motivation and affect. This means that students show very different patterns of changes throughout the course.

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く
HUMANITIES UNIVERSITY

Thank you very much for your listening!

rienishi@lang-osaka.ac.jp
HP: rieko.nishida@jimdo.com



OSAKA UNIVERSITY

Conclusion

Also by enhancing students' motivation and affect in language learning, I hope they will enhance their understanding toward people from different cultural background and their will to communicate with people around the world in order to live in this globalizing world.

OSAKA UNIVERSITY

Questionnaire Items

自律性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でもずんで勉強していると思います。 英語のクラスで勉強した歌を、自分でも練習しています。 英語のクラスで勉強したことをもっと知りたいので、自分でも進んで勉強しようと思います。 英語のクラスで勉強した言葉をおうちの人や友達に教えてあげていると思います(次はドッグとか)。
可能性	英語のクラスでは、「できた」と思うことがあります。 英語のクラスでは、「よくできた」とほめてもらっていると思います。 英語のクラスでは、「よがんばった」と思います。 英語のクラスでは、自分は、いっしょうけんめい頑張っていると思い、うれしくなります。
関係性	英語のクラスでは教室の中でクラスのみんなが、なかよくしていると思います。 英語のクラスでは、グループで活動することがあるとき、協力しあっていると思います。 英語のクラスでは、クラスのみんなが、楽しそうにしていると思います。 英語の時間では、クラスのお友達に教えあったりして、お友達同士で学びあっていると思います。
内発的動機	英語は好きですか？ 英語をこれからも続けたいと思いますか？ 世界の国について知ろうと思います。
外国への関心	外国や文化を知ろうと、英語は大切だと思います。 外国に住んでみたいので、英語を学ぶことは大切です。
CanDo	自分の名前を英語でいうことができます。 自分の気分について、英語でいうことができます。 英語の時間にならった歌を歌うことができます。 英語の時間にならった言葉を(色やたべもの)いうことができます。
L2WTC	英語のクラスでは、よくお友達とお話をします。 将来、英語が話せる人になるだろうと思います。
理想自己	将来、自分を考えるとき英語を勉強することは大切だと思います。 将来、自分の夢がかなったら、英語を自由に話せるようになっていると思います。

中学校段階における学習者動機と言語能力に関する 実証研究：2年間の縦断調査

2017年8月20日
全国英語教育学会 島根大会
大阪大学 西田理恵子

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における**英語教育の拡充強化**、中等高等学校における英語教育の高度化など、小中高等学校を通じた**英語教育全体の抜本的充実**を図る。2020年度(平成32年)の**東京オリンピック・パラリンピック**を見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備などを含め、2014年度から逐次改革を推進する。

- 1) 英語による**コミュニケーション能力**を確実に養う
- 2) 日本人としての**アイデンティティ**に関する教育の充実

Topics

- ・はじめに
 - ・ 文部科学省の動向
- ・ 先行研究
 - ・ 動機づけと情意
- ・ 本研究の目的
- ・ 調査方法
- ・ 調査結果
- ・ 考察
- ・ おわりに



グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

小学校 中学年	活動型・週1～2コマ。 コミュニケーション能力の素地を養う。
小学校 高学年	教科化・週3コマ。 初歩的な英語の運用能力を養う。 専科教員の積極的活用。
中学校	身近な話題についての理解や簡単な情報交換・表現ができる能力を養う。授業を英語で行うことを基本とする。
高等学校	幅広い話題について抽象的な内容を理解できる。英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う。

より高度な言語運用能力の育成が求められている

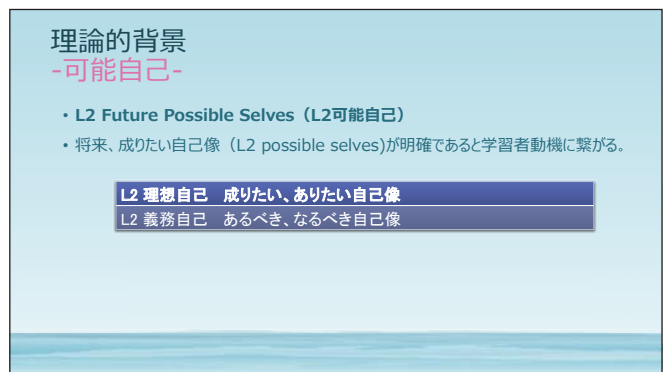
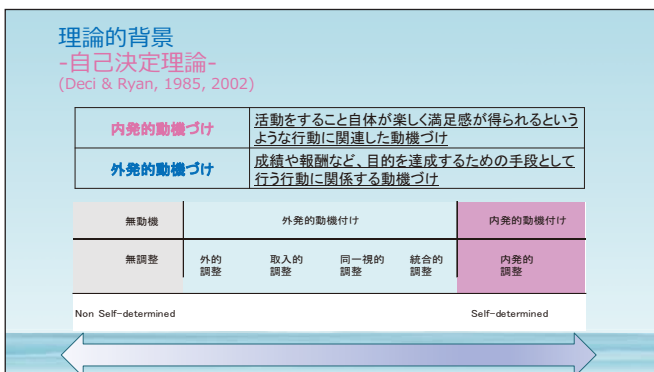
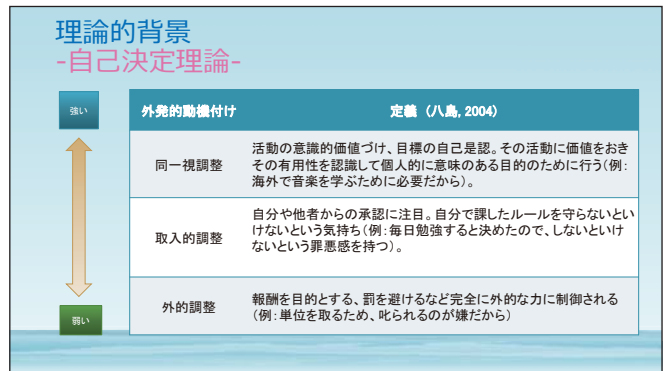
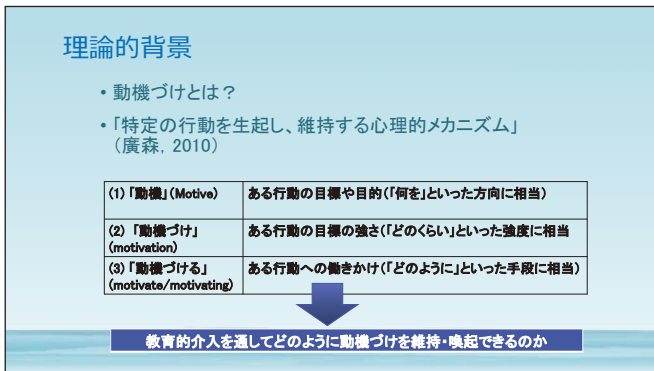
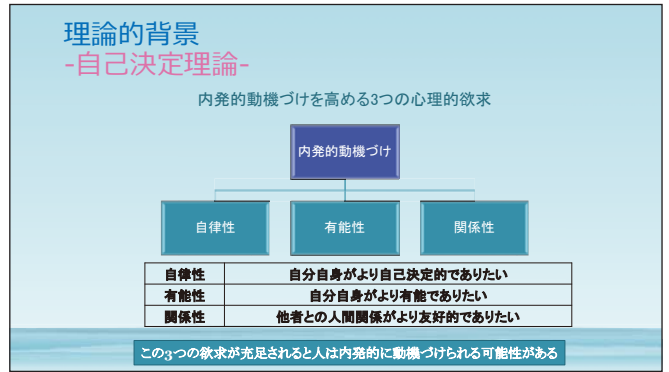
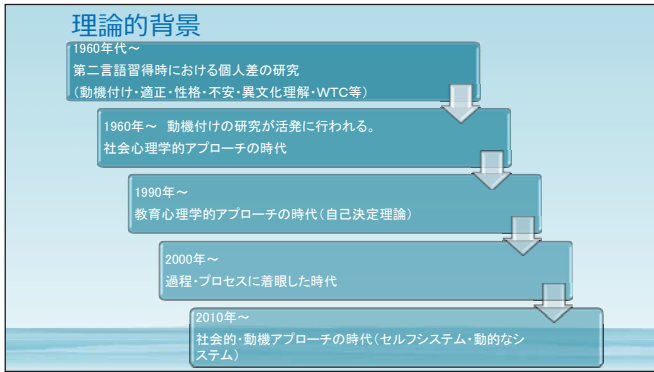
はじめに

文部科学省の示す外国語活動の目的

小学校 学習指導要領	外国語を通じて、 言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り 、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
中学校 学習指導要領	外国語を通じて、 言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り 、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
高等学校 学習指導要領	外国語を通じて、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

言語的側面のみならず**情意面**(コミュニケーションへの積極性や異文化理解)に焦点があるといえる

先行研究



理論的背景

-その他の情意要因-

概念	定義
コミュニケーションへの積極性	近年注目されている第二言語習得を行う上での個人差要因であり、国内でも積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が目的とされているので、L2WTCは、その心理的傾向の根本となりうる。文部科学省の示す「外国語活動」の目的の1つ。
CanDo	第二言語でのコミュニケーションに適応し、効率の良い方法で行えているという信念。CanDoはコミュニケーションへの積極性に繋がる重要な要素。

本研究の目的

従って本研究の目的を次の通りとする。

- 公立中学生を対象にした2年間の縦断調査を用いて、生徒の言語運用能力・動機付け・情意の変化の全体傾向を探る。
- 言語運用能力に関わる予測変数を探る。
- 2年間の縦断調査を通じた生徒の言語運用能力・動機付け・情意に関わる個人差の特徴を捉える。

問題の所在

- しかしながら、現段階では、縦断的調査方法を用いた結果、中学生の言語運用能力、動機づけ、情意がどのように変化をするのかを実証的手法を用いて解明した研究は少ない。
- 時間の経過に伴った言語運用能力と情意的要因を明らかにした研究も少ない。
- 今後、文部科学省が求める英語教育改実施計画の中でも、中学校段階においても、さらなる言語運用能力や情意面の向上が期待される。

調査概要

本研究の目的

調査概要：3年間の縦断調査



調査対象者・調査概要

調査対象者	大阪府公立中学校1年生～2年生にかけての2年間に渡って断断調査。
調査期間	中学校1年生：2014年7月・2015年2月 中学校2年生：2015年7月・2016年2月
調査方法	①質問紙： 動機付け・情意要因 ②言語テスト： 英検5級25問（中学校1年生） 英検プレシメントE（中学校2年生）

中学校での指導案

5分	あいさつ、曜日・日にち・天気・時間の確認、視覚表現の復習、英検英等（2～3人）。
5分	英語の歌（録音チェック、歌う）。
5分	Expression Sheet（教科書の重要表現の確認：ペアワーク、1人2分・英語・日本語のスイッチ）。
↓ ↑ ここまで毎回授業の15分は同じ流れです。	
5分	単語の発音・意味・綴りの確認。
10分	本文の内容把握 / 理解 / 本文の復習。
10分	本文の音読。
10分	文法の導入 / ノートまとめ / 言語活動（ペアワーク、グループ等）。
5分	あいさつ、本時のまとめ。

He created teaching materials including activities using iPad.

調査対象校

公立中学校 大阪府豊能町立中学校	
ALT (1名)	Assistant Language Teacher (以下ALT)は、アメリカ合衆国はコロラド州出身である。JETプログラムの一環として来日しているが、教歴短い。
英語教師 (1名)	教歴が約10年。日本人の英語教師。 熱心に授業に取り組むことで知られている教諭である。 生徒指導に対しても熱心で、指導がきめ細やかであるとの報告がある。

質問紙項目

自覚性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分ですんで勉強していると思います。 英語のクラスで勉強し、進歩も、自分でも確認しています。 英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でも確認しています。 英語のクラスで勉強し、進歩も、自分でも確認しています。 英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でも確認しています。
有効性	英語のクラスでは、「まだ分からない部分もたくさんあります」 英語のクラスでは、「まだ分からない部分もたくさんあります」 英語のクラスでは、「まだ分からない部分もたくさんあります」 英語のクラスでは、「まだ分からない部分もたくさんあります」 英語のクラスでは、「まだ分からない部分もたくさんあります」
関係性	英語のクラスでは、授業の中で自分の好きなものが、なかなか見つかりません。 英語のクラスでは、授業の中で自分の好きなものが、なかなか見つかりません。 英語のクラスでは、授業の中で自分の好きなものが、なかなか見つかりません。 英語のクラスでは、授業の中で自分の好きなものが、なかなか見つかりません。 英語のクラスでは、授業の中で自分の好きなものが、なかなか見つかりません。
内容理解	英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。
内容への関心	英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。
CanDo	英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。
理解自己	英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。 英語の授業では、自分の好きなものについて、お話を聞かせてもらっています。

中学校での年間指導計画

April	Get Ready 1-4	Greetings, Alphabet, Word sounds, Spelling
1st semester	LESSON 1	I am Tanaka Kumi I am ...? Are you ...? I am not ...
	LESSON 2	My School This is ...? Is that ...? What is this? He is ... She is ...
	LESSON 3	I Like Kendama I have ... Do you know ...? I don't play ... What do you have?
July	Mini-Project: Self introduction	
August	LESSON 4	Field Trip two bags How many ...? Use ... / Don't ... / Let's ...
2nd semester	LESSON 5	Our New Friend from India Who is ...? Where do you ...? When do you ...? him / her
	LESSON 6	My Family in the UK Miki plays ... Does Miki play ...? Miki doesn't play ... Where / When does Miki ...?
	LESSON 7	Wheelchair Basketball Koji can play ... Can Koji play ...? Koji cannot play ...
Jan.	LESSON 8	School Life in the USA Tom is playing ... / Is Tom playing ...? / Tom isn't playing ...
3rd semester	LESSON 9	Four Seasons in Japan Amy plays ... Did Amy play ...? Amy didn't play ...
	March	LETS READ 2 A Girl Saved Many Lives Reading

中学1年生 Listening Test 英検5級



Section 1

(Example 1)
 ★That's a nice hat.
 ★1. Yes, I do.
 ★2. Thank you.
 ★3. You, too.
 Answer: 2. Thank you.

中学1年生
Listening Test 英検5級

Section 2

★Do you like candy, Helen?
☆No, I don't. I like fruit.

Q1. What does Helen like?

1. She likes pizza.
2. She likes cake.
3. She likes candy.
4. She likes fruit.

中学2年生
英検プレースメントテストE (英検受託研究を受けました)

1. リーズナブルな受験料

英検に受験料を納めているお母様より、受験料が一般的に高いのではないかとご心配を寄せられました。英検は「英検5級～1級」の受験料が、受験料に比べて約半額です。

英検5級 受験料に比べて約半額です。受験料に比べて約半額です。

英検1級 受験料に比べて約半額です。受験料に比べて約半額です。

2. 試験時間は45分

英検のテスト時間は45分です。これにより、受験料に比べて約半額です。受験料に比べて約半額です。

英検5級 試験時間 45分

英検1級 試験時間 45分

3. 成績は英検IBA CSEスコアで表示

英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。

英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。

4. フィードバックが充実、提供も迅速に

英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。

英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。英検IBA CSEスコアは、英検IBA CSEスコアで表示されます。

個人成績表の送付
英検級レベル判定

中学1年生
Listening Test 英検5級



Section 3

1. It's 5:45 in the morning.
2. It's 5:50 in the morning.
3. It's 5:55 in the morning.

中学2年生
英検プレースメントテストE (英検受託研究を受けました)

テストのレベルは全5種類

テストのレベルは、受験料に比べて約半額です。受験料に比べて約半額です。

英検級	試験時間	受験料	英検IBA CSEスコア
英検5級	45分	1,100円	1000
英検4級	45分	1,100円	1000
英検3級	45分	1,100円	1000
英検2級	45分	1,100円	1000
英検1級	45分	1,100円	1000

2016年4月からの換算方式の変更
それまでは1100点満点

中学2年生
英検プレースメントテストE (英検受託研究を受けました)

英検 IBA
Eiken Institution Based Assessment

グローバルな指針「英検IBA CSEスコア」を導入！
教育現場や企業さまのニーズに応えた
英語力測定テストです。

テストサンプル (IBA-E : Reading)

1 次の () から (B) まで () に入れるのに最も適切なものを 1, 2, 3, 4 の中から一つ選びなさい。

(1) A: Do you want some coffee, Jeff?
B: No, thanks. Just (), please.
1 clock 2 day 3 water 4 foot

A Special Trip

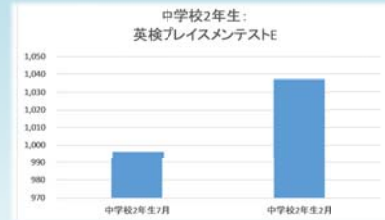
Joe is an English teacher. He is from Australia, but he lives in Kagoshima now. On weekends, he often goes hiking in the mountains.

This summer, he visited Yakushima. He went by boat. It took two hours. On the third day of his trip, Joe went to see a famous old cedar tree. He had to walk for five hours to get to the tree. When he got there, Joe met a young Japanese man, Kenji. Kenji is a college student, and he wants to become a science teacher. He said to Joe, "Some cedar trees in Yakushima are over two thousand years old. This tree is the oldest." Joe took many pictures of the tree.

Joe and Kenji became good friends. Now, they write e-mails to each other. This summer was very special for Joe because he had a wonderful time in Yakushima. He really wants to visit there again.

調査結果

調査結果：中学校2年生（プレイメントテストE）



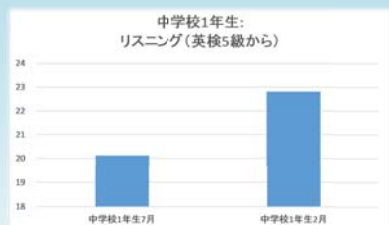
全体傾向

言語運用能力の変化の傾向

調査結果：中学校2年生 (プレイメントテストE: Listening/ Reading)



調査結果：中学校1年生（英検5級）

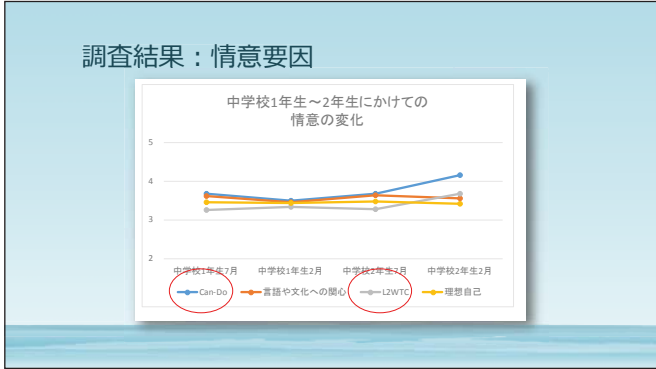


t検定（対応のあるt検定）

	対応サンプルの検定		平均値の標準偏差		差の95%信頼区間		t	df	p
	平均値	標準偏差	下段	上段	下段	上段			
リスニング7月中1 - リスニング2月中1	-2.686	3.156	0.377	-3.438	-1.933	-7.121	69	0.000	
CSE全体スコア2年7月 - CSEスコア2年3月	-41.329	33.076	3.953	-49.215	-33.442	-10.454	69	0.000	
CSE Readingスコア#2年7月 - CSEスコア#2年3月	-18.986	25.100	3.000	-24.970	-13.001	-6.329	69	0.000	
CSE Readingスコア2年7月 - CSEスコア(1)2年3月	-22.343	22.253	2.660	-27.649	-17.037	-8.400	69	0.000	

全体傾向

動機づけと情意要因の変化の傾向



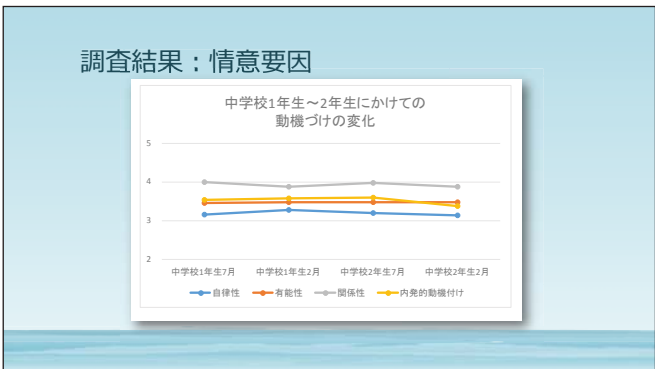
信頼性係数

	自律性	有能性	関係性	内発的動機づけ
中学1年7月	a. 623	a. 736	a. 802	a. 867
中学1年2月	a. 676	a. 676	a. 841	a. 907
中学2年7月	a. 627	a. 760	a. 819	a. 855
中学2年2月	a. 791	a. 773	a. 844	a. 933

	外国への関心	CanDo	L2WTC	理想自己
中学1年7月	a. 729	a. 772	a. 925	a. 706
中学1年2月	a. 701	a. 678	a. 912	a. 786
中学2年7月	a. 728	a. 768	a. 920	a. 743
中学2年2月	a. 787	a. 767	a. 912	a. 810

反復測定分散分析

被験者内効果の検定						
	タイプ III 平方和	df	平均平方	F	p	η^2
自律性	0.675	3.69	0.224	0.960	0.413	0.014
有能性	0.025	3.69	0.008	0.048	0.986	0.001
関係性	0.737	3.69	0.246	1.289	0.279	0.018
内発的動機づけ	2.176	3.69	0.725	2.119	0.099	0.030
外国への関心	1.373	3.69	0.458	1.580	0.195	0.022
Can-Do	16.254	3.69	5.418	34.894	0.000	0.336
L2WTC	8.250	3.69	2.750	7.667	0.000	0.100
理想自己	0.192	3.69	0.064	0.241	0.868	0.003



予測変数

言語運用能力に関わる予測変数

重回帰分析（ステップワイズ法）

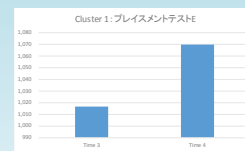
自律性
有能性
関係性
内発的動機づけ
外国への関心
L2WTC
理想自己
CanDo

内発的動機づけ

言語運用能力

		非標準化係数		標準化係数		
		B	標準誤差	ベータ	t	p
中学1年生7月	内発的動機付け	0.891	0.374	0.277	2.381	0.020
中学1年生2月	内発的動機付け	1.252	0.260	0.504	4.811	0.000
中学2年生7月	内発的動機付け	30.643	7.384	0.450	4.150	0.000
中学2年生2月	内発的動機付け	30.207	5.686	0.542	5.312	0.000

Cluster 1 (23) : 中位 (上)



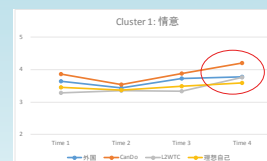
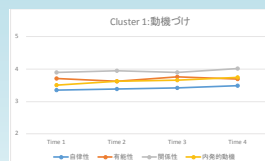
中学校1年生

中学校2年生

個人差の傾向

個人差の特徴による変化の傾向

Cluster 1 (23) : 中位 (上)



個人差の傾向 クラスター分析

- 次に、同じ特徴を持つ個人を特定するために（個人差傾向を見るために）クラスター分析を実施した。

（階層クラスター・ワード法・ユークリッド距離）

クラスター	人数(70)	言語運用能力	動機づけ・情意
Cluster 1	23	中位(上)	中位(上)
Cluster 2	19	上位	上位
Cluster 3	13	中位(下)	中位(下)
Cluster 4	15	下位	下位

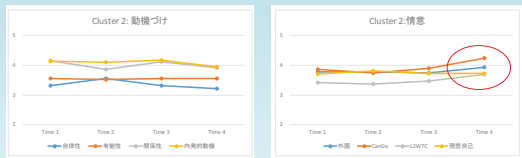
Cluster 2 (19): 上位



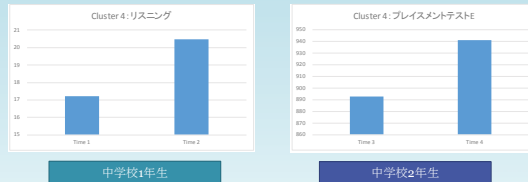
中学校1年生

中学校2年生

Cluster 2 (19):上位



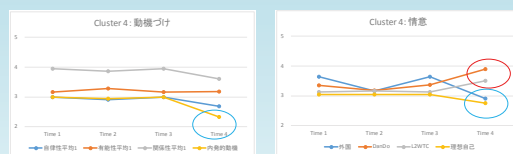
Cluster 4:下位



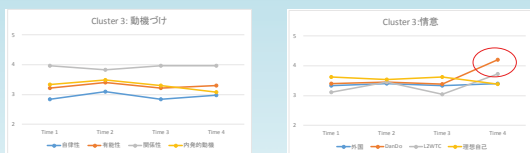
Cluster 3:中位 (下)



Cluster 4:下位



Cluster 3:中位 (下)



生徒達の声

生徒達の声：やる気になった理由

本格的な英語の授業が始まったり、英語の大切さがわかり
だしたから、外国人と話せたらカッコいいなと思ったから。

触れるのが全て新鮮でたのしかった。ALTの先生と
話すのが楽しかった。歌がすきだった。

小学校よりもっと難しくなって、勉強して理解できるよ
うにしようと思ったから。

教育的示唆

教室内においては、時間の経過に伴って、さまざまな学習者が異なる
傾向を示すことが明らかになった。

今後の実践現場においては、言語運用能力が低い学習者に対しては言語運用能力を
向上していけるような教育的配慮(足場駆け)を行う。

情意面において動機付けや自信がないような学習者については、
学習者がやる気や楽しいと思える気持ちを高める活動を組み込んでいく必要がある。

生徒達の声：やる気がなくなってしまった理由

自分の中で理解しにくくなってきてて難しいと思ったこと
がきっかけでやる気がちよっとたなくなったと思う。

少し難しくなって、思うように点数がのびなくて、あまりや
る気がなかった。

中学校1年生で苦手意識を持ってしまったためあまりや
る気はのびなかった。

限界点と今後の展望

教育的示唆

限界点と今後の展望

〈限界点〉

縦断調査であり、調査対象校が1校であったため、今後は国内での数多く
での学校を対象とした調査が必要となる。

〈今後の展望〉

質的研究方法を用いて、より精緻な分析を行い、個人内の変化の
メカニズムを捉えていくことも必要。

おわりに



Thank you very much!



問い合わせ先:
rienishi@lang.osaka-u.ac.jp
HP: rienishijimdo.com

おわりに

本発表では2年間の生徒の言語運用能力・動機付け・情意面の変化の傾向を捉えた。

教室内においては様々な個人差を持つ学習者がいることから、言語面・情意面共に向上していくことができるよう、カリキュラム・指導案の構想をしていく必要がある。

そのためにも本研究は生徒の情意・言語面に関して一定の示唆を示したと言えよう。

References

- ベネッセ教育開発センター (2010) 『第二部小学校英語に関する基本調査 (教員調査) 報告書』 Retrieved from http://benesse.jp/bend/center/open/report/syo_ngo/2010/index.html
- Dörnyei, Z. (2005a). *The psychology of the language learner: Individual differences in second language acquisition*. London: Lawrence Erlbaum Associates
- Deci, E. L., & Ryan, R.M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. NY: Plenum.
- Deci, E. L., & Ryan, R.M. (2002). *Handbook of self-determination*. Rochester: University of Rochester Press.
- Gardner, R.C. (1985). *Social psychology and second language learning: The role of attitudes and motivation*. London: Edward Arnold.
- Hiramori, T. (2006). *Gaikokugo no doukuzuke wo takameru niron to jissen*. [Foreign language learner's motivation: research and practice]. Tokyo: Taiga syuppan.
- MacIntyre, P. D., Clément, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *The Modern Language Journal*, 82, 545-562.
- Nakahira, S., Maekawa, Y. & Yashima, T. (2018). Relationships among motivation, psychological needs, FL WTC, and Can-Do statements of English language learning based on self-determination theory: preliminary study of non-English-major junior college students in Japan. *JACET Kansai Journal*, 12, 44-55.
- Nishida, R. (2008). An Investigation of Japanese Public Elementary School Students' Perception and Anxiety in English learning: A Pilot Study comparing 1st to 6th graders. *LE3* (45), 99-113-131
- Ryan, S. (2009). Self and identity in L2 motivation in Japan: The ideal L2 self and Japanese learners of English. In Z. Dörnyei, & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self*. Bristol: Multilingual Matters.
- Yashima, T. (2002). Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context. *The Modern Language Journal*, 86, 55-66. doi: 10.1111/1540-4781.00136
- Yashima, T. (2004). *Gaikokugo communication no jiyuu to douki*. [Motivation and affect in foreign language communication]. Osaka: Kansai University Press.

謝辞

- 本発表は、以下の助成金を受けています。
- 平成29年度～平成33年度、科学研究費助成金基盤研究B、西田理恵子 (代表)
- 「大学英語学習者を対象とした内容言語統合型学習に関する縦断調査」15K12907
- 平成27年度～平成29年度、西田理恵子(代表)
- 「中学校段階における学習者動機と言語能力に関する実証研究」
- 公益財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター委託研究

中学校3年間の英語運用能力と動機づけの変化： 研究を通して

大阪大学 西田理恵子
動機づけ理論研究会

はじめに

諸問題

英語教育改革実施計画が行われる中で、小学校～高等学校にかけての言語・動機・情意に関する**実証研究が数少ない**。

従って本研究では、中学校3年間の言語能力・動機・情意に関わる変化の傾向を探る

はじめに

近年のグローバル化時代に伴って・・・

外務省の示す「地球規模問題に関する意識調査」(2005)

地球温暖化現象、環境破壊、テロ・紛争、感染症(エイズ、マラリア、結核、SARS)、国際組織犯罪(麻薬、人身売買)、人権侵害(差別、虐待)、武器・兵器の密輸、国際的な難民問題を挙げている



地球規模問題への意識向上が求められている。

先行研究

はじめに

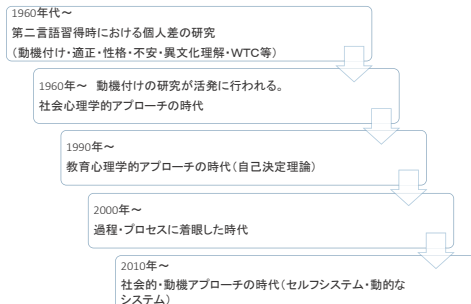
文部科学省の動向

文部科学省(2014年)「グローバル化時代に対応した英語教育改革実施計画」



2020年度(平成32年度)に行われるオリンピック・パラリンピックを見据えて、国内の小学校・中学校・高等学校にて英語教育が本格的に展開していけるように体制整備を整えている。

理論的背景



理論的背景

動機づけとは？

「特定の行動を生起し、維持する心理的メカニズム」(廣森, 2010)

(1) 「動機」(Motive)	ある行動の目標や目的(「何を」といった方向に相当)
(2) 「動機づけ」(motivation)	ある行動の目標の強さ(「どのくらい」といった強度に相当)
(3) 「動機づける」(motivate/motivating)	ある行動への働きかけ(「どのように」といった手段に相当)



教育的介入を通してどのように動機づけを維持・喚起できるのか

理論的背景 -可能自己-

L2 Future Possible Selves (L2可能自己)

将来、成りたい自己像(L2 possible selves)が明確であると学習者動機に繋がる。

L2理想自己	成りたい、ありたい自己像
L2義務自己	あるべき、なるべき自己像
努力	成りたい、成るべき自己に向かって行う努力

理論的背景 -自己決定理論-

(Deci & Ryan, 1985, 2002)

内発的動機づけ	活動をすること自体が楽しく満足感が得られるという行動に関連した動機づけ
外発的動機づけ	成績や報酬など、目的を達成するための手段として行う行動に関連する動機づけ

無動機	外発的動機付け				内発的動機付け
無調整	外的調整	取入的調整	間一時的調整	統合的調整	内発的調整

Non Self-determined

Self-determined

理論的背景 -WTC-

概念	定義
コミュニケーションへの積極性	近年注目されている第二言語習得を行う上での個人差要因であり、国内でも積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が目的とされているので、L2/WTCは、その心理的傾向の根本となる。文部科学省の示す「外国語活動」の目的の1つ。

理論的背景 -自己決定理論-

★自己決定理論

・内発的動機づけを高める3つの心理的欲求



3つの心理的欲求の充足

自律性	自分自身がより自己決定的でありたい
有能性	自分自身がより有能でありたい
関係性	他者との人間関係がより友好的でありたい

本研究の目的

本研究の目的

研究課題1:

中学校3年間において、中学生の言語運用能力(英検5級とプレシメントテストE)と情意的側面(内発的動機づけ・自律性・有能性・関係性・コミュニケーションへの積極性・言語や文化への関心)が、どのように変化するかを縦断的調査方法を用いて明らかにする。

研究課題2:

中学校段階での縦断的調査において、言語運用能力に関わる動機づけや情意に関する予測変数を明らかにする。

研究課題3:

中学生の変化の詳細を把握するために、個人差の特徴に関する変化の様子を明らかにしていく。

言語運用能力テストと質問紙項目

中学校1年生	リスニングテスト(25問)
中学校2年生	プレシメントテストE(1100点:550点・R、550点・L)
中学校3年生	プレシメントテストE(800円:400点・R、400点・L)

調査実施時期

中学校1年生	7月、2月
中学校2年生	7月、2月
中学校3年生	7月、2月

問題の例

<http://www.eiken.or.jp/eiken-iba/>

http://www.eiken.or.jp/eiken-iba/shared/pdf/iba_sample_e.pdf

筆記試験: 35問(25分)、リスニングテスト: 25問(20分): 出題合計60問

例: 最も適切なものを1, 2, 3, 4から選んでください。

A: Do you want some coffee, Jeff?

B: No, thank you. Just (), please.

clock, 2) day, 3) water, 4) foot



グローバルな指標
「英検BA(CECOP)」を導入!
教育現場や企業のみならずさまざまなニーズに
応えた
英語能力測定テストです。

調査対象者

調査対象者は、調査を開始した2014年4月～2017年3月にかけては、調査対象となった中学1年生は103名であった。

しかし、中学校3年間にかけての縦断調査においてリスニングテスト、プレシメントテスト、質問紙を6回受けた生徒以外を除外したため、本調査対象は63名(男子35名、女子28名)とする。

質問紙項目

自律性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分ですらで勉強していると思います。 英語のクラスで勉強したことは、自分でも練習しています。 英語のクラスで勉強したことは、とても面白いので、自分でも楽しんで勉強したいと思います。 英語のクラスで勉強したことは、とても面白いです。自分でも練習しています。(2はワグナカ)
有能性	英語のクラスでは、「できた」と思うことがあります。 英語のクラスでは、「よくできた」と思っています。 英語のクラスでは、「よくできた」と思っています。 英語のクラスでは、「よくできた」と思っています。
関係性	英語のクラスでは、友達や、いっしょに勉強している友達と仲良くしています。 英語のクラスでは、友達や、いっしょに勉強している友達と仲良くしています。 英語のクラスでは、友達や、いっしょに勉強している友達と仲良くしています。 英語のクラスでは、友達や、いっしょに勉強している友達と仲良くしています。
内発的動機	英語は好きです。 英語は好きです。 英語は好きです。 英語は好きです。
外国への関心	英語の国について知っています。 英語の国について知っています。 英語の国について知っています。 英語の国について知っています。
CanDo	自分の名前を英語で言うことができます。 自分の名前を英語で言うことができます。 自分の名前を英語で言うことができます。 自分の名前を英語で言うことができます。
L2WTC	英語のクラスでは、自分の名前を英語で言えます。 英語のクラスでは、自分の名前を英語で言えます。 英語のクラスでは、自分の名前を英語で言えます。 英語のクラスでは、自分の名前を英語で言えます。
帰郷自己	将来、英語が話せる人になりたいと思います。 将来、英語が話せる人になりたいと思います。 将来、英語が話せる人になりたいと思います。 将来、英語が話せる人になりたいと思います。

研究課題 1

中学校1年生～3年生にかけての言語能力と動機、
情意面についての変化の傾向を探る

中学2年生:プレースメントテスト 全体スコアとt検定

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標 標準偏差
CSEスコア: 中学校2年生7月	991.55	63	69.338	8.741
CSEスコア: 中学校2年生2月	1013.30	63	64.180	8.086
CSEスコア: 中学校2年生7月	486.44	63	48.023	6.050
CSEスコア: 中学校2年生2月	504.02	63	43.618	5.495
CSEスコア: 中学校2年生7月	504.90	63	28.829	3.632
CSEスコア: 中学校2年生2月	529.29	63	25.330	3.191

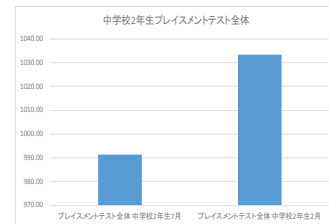
	平均値	標準偏差	平均値の 標準偏差	t 値	自由度	p
プレースメントテスト全体スコア 中学校2年生	-41.952	3.497	4.220	-9.941	62	0.000
プレースメントテスト 中学校2年生	-17.571	24.566	3.095	-5.677	62	0.000
プレースメントテスト 中学校2年生	-24.381	22.262	2.805	-8.693	62	0.000

中学1年生リスニングテスト 平均値比較とt検定

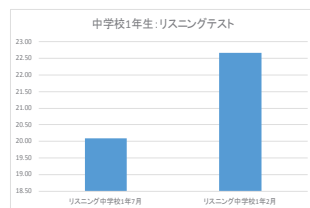
	平均値	度数	標準偏差	平均値の標 標準偏差
リスニング 中学校1年生7月	20.16	63	3.368	0.424
リスニング 中学校1年生2月	22.67	63	2.739	0.344

	平均値	標準偏差	差の 95% 信頼区間 下限	上限	t 値	自由度	p
リスニング 中学校1年生	-2.571	3.094	-3.351	-1.792	-6.597	62	0.000

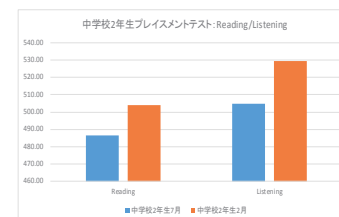
中学2年生:プレースメントテスト 全体スコアとt検定



中学1年生リスニングテスト 平均値比較とt検定



中学2年生:プレースメントテスト R&L



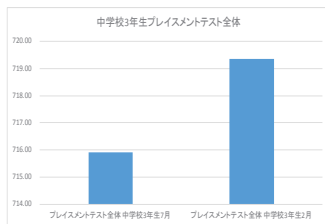
中学3年生:プレースメントテスト 全体スコアとt検定

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準偏差
CSEスコア:中学校3年生7月	715.92	63	111.410	14.056
CSEスコア:中学校3年生2月	719.35	63	111.329	14.026
CSEスコアR:中学校3年生7月	366.05	63	44.534	5.611
CSEスコアR:中学校3年生2月	374.11	63	44.047	5.549
CSEスコアL:中学校3年生7月	349.87	63	71.348	8.989
CSEスコアL:中学校3年生2月	345.24	63	71.066	8.953

	平均値	標準偏差	平均値の標準偏差	t 値	自由度	p
プレースメント全体スコア中学校2年生	-3.429	78.585	8.901	-0.348	62	0.730
プレースメントテスト中学校2年生	-8.363	28.979	2.903	-2.566	62	0.043
プレースメントテストL中学校2年生	4.635	57.588	7.257	0.639	62	0.525

質問紙項目

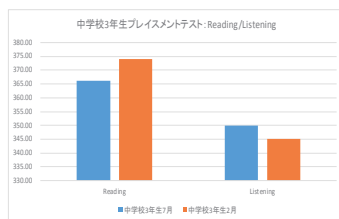
中学3年生:プレースメントテスト 全体スコアとt検定



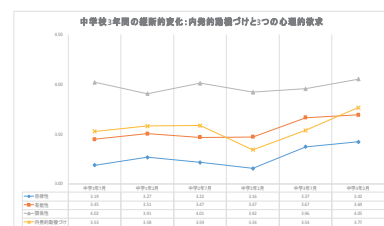
信頼性係数 質問紙項目

	自律性	有能性	関係性	内発的動機づけ	言語文化への関心	LZWTC	理想自己
中学1年7月	α .64	α .74	α .81	α .86	α .73	α .91	α .70
中学1年2月	α .81	α .67	α .83	α .90	α .72	α .90	α .78
中学2年7月	α .64	α .76	α .83	α .85	α .73	α .90	α .74
中学2年2月	α .80	α .78	α .82	α .83	α .81	α .91	α .82
中学3年7月	α .78	α .78	α .84	α .91	α .78	α .92	α .78
中学3年2月	α .80	α .84	α .89	α .92	α .83	α .95	α .78

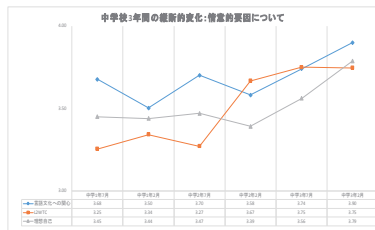
中学3年生:プレースメントテスト R&L



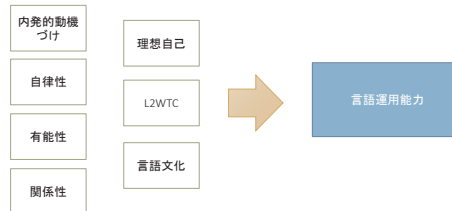
中学校3年間の縦断的変化: 動機づけ



中学校3年間の縦断的变化: 情意



予測変数は何か？

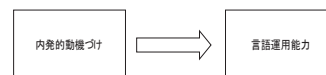


反復測定分散分析 動機づけと情意

	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F	p	偏イータ二乗
自律性	3.56	5,310	0.71	2.66	0.02	0.04
有能性	3.73	5,310	0.75	3.71	0.00	0.06
関係性	1.08	5,310	0.22	0.92	0.47	0.01
内発的動機づけ	5.81	5,310	1.16	2.85	0.02	0.04
言語文化への関心	5.88	5,310	1.18	3.74	0.00	0.06
L2WTC	18.11	5,310	3.62	8.09	0.00	0.12
理想自己	6.55	5,310	1.31	3.90	0.00	0.06

重回帰分析

	因変数	非標準化係数		標準化係数		t値	有意確率
		β	標準誤差	ベータ	標準誤差		
中学校1年生7月	内発的動機づけ	0.87	0.39	0.27	2.21	0.03	
中学校1年生2月	内発的動機づけ	1.32	0.27	0.52	4.80	0.00	
中学校2年生7月	内発的動機づけ	32.79	7.66	0.48	4.28	0.00	
中学校2年生2月	内発的動機づけ	30.15	5.91	0.55	5.10	0.00	
中学校3年生7月	内発的動機づけ	54.81	11.07	0.54	4.95	0.00	
中学校3年生2月	内発的動機づけ	48.60	12.06	0.46	4.03	0.00	



研究課題2

言語運用能力に関わる予測変数を探る

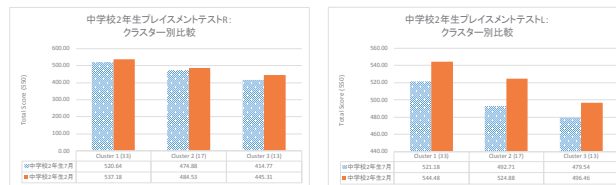
研究課題3

個人差の傾向を探る

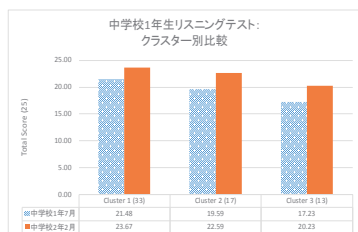
クラスター分析

同じ特徴を持つ個人が同じクラスターに分類される分析方法。
階層クラスター分析(ワード法・ユークリッド距離)を実施。

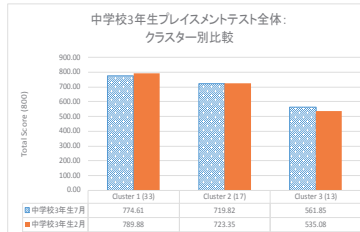
中学2年クラスター別比較: R&L



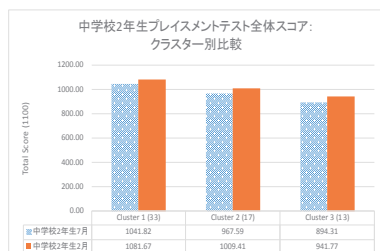
中学1年クラスター別比較: リスニング



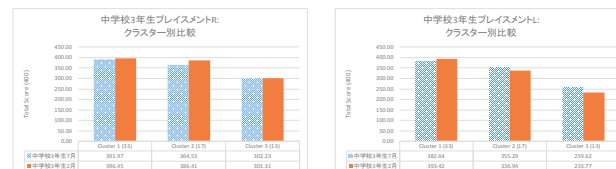
中学3年クラスター別比較: プレイズメントテスト全体スコア



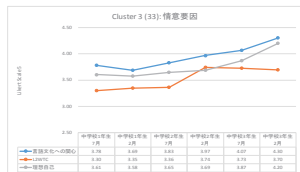
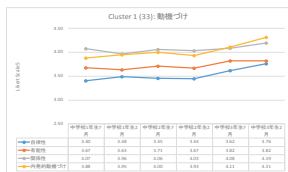
中学2年クラスター別比較: プレイズメントテスト全体スコア



中学3年クラスター別比較: R&L

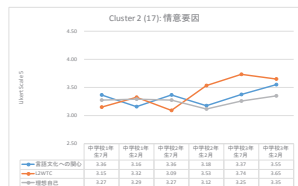
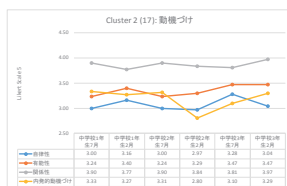


Cluster 1 (33)



考察

Cluster 2 (17)



考察

本研究においては、中学校3年間の縦断的調査にもとづいて言語能力、動機づけ、情意に関して分析を行った。

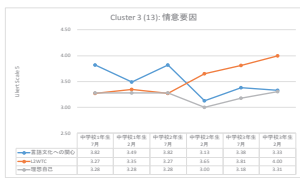
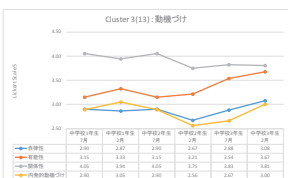
研究課題1: 全体傾向としては、言語能力は高まる傾向にある。動機づけや情意についても、内発的動機づけや自律性が中学校3年生で高まる傾向を示した。L2WTC、理想自己、言語文化への関心は上昇する傾向を捉えた。

生徒の記述

「冬休みくらいから1年生の復習を全部して苦手なところを頑張ると頑張りと成績が比例して、テストでも自分の中で英語の点数がとれてうれしかったからもっと頑張ろうとモチベーションが上がった。」

「英検3級をとれてやる気が上がった。」

Cluster 3 (13)



考察

研究課題2: 言語能力に関わる予測変数を分析した結果、3年間を通して、内発的動機づけが言語能力に関わる唯一の要因であることが明らかになった。中学生にとっては、楽しいのでその活動をするという動機づけが働きかけとなろう。

研究課題3: クラスタ分析の結果、上位群、中位群、低位群に分かれ、言語能力が高いと動機や情意が高く、言語能力が低いと動機や情意が低い傾向にあることが明らかになった。低位群については、内発的動機づけや自律性が他群と比較して低い傾向にあることから、低位群を意識した教育的介入が必要となろう。

おわりに

これまでの研究においては、言語能力と情意について中学生を対象として縦断的調査を実施した研究はないために当該研究分野にとって有益な情報となろう。

グローバル化が加速化し、多文化共生社会になりつつある中で、本研究成果が今後の英語教育分野において一石を投じることを願っている。

ご清聴ありがとうございました！

11. 吉川中学校での指導計画と補助教材

大阪府豊能町立吉川中学校 宗像亮先生作成

豊能町立吉川中学校で使用された授業計画・年間指導計画・補助教材を示す。以下に示す資料は、豊能町立教育委員会指導主事（現在）である宗像亮先生が作成くださいました。惜しみなく資料をご提供してくださいましたことに心より感謝申し上げます。ご提供くださいました資料の一部をお示しさせていただきます。

50分の授業計画

5分	あいさつ、曜日・日にち・天気・時間の確認、既習表現の復習、英問英答（2～3人）
5分	英語の歌（発音チェック、歌う）
5分	Expression Sheet（教科書の重要表現の確認：ペアワーク、1人2分・英語・日本語のスイッチ）
	↑ ここまで毎回授業の15分は同じ流れです
5分	単語の発音・意味・綴りの確認
10分	本文の内容把握 / 理解 / 本文の復習
10分	本文の音読
10分	文法の導入 / ノートまとめ / 言語活動（ペアワーク、グループ等）
	あいさつ、本時のまとめ

中学校 1 年生の年間計画

<p>4 月</p> <p>挨拶、アルファベット、単語の音、綴り</p> <p>I am... You are... / Are you ...? I am</p> <p>5 月</p> <p>not...</p> <p>6 月</p> <p>This is... / Is that...? What is this? He</p> <p>7 月</p> <p>is... She is...</p> <p>I have... Do you know...? I don't play... What do you have?</p> <p>two bags How many ...? Use... / Don't... / Let's...</p>	<p>Get Ready ①～④</p> <p>LESSON 1 I am Tanaka Kumi</p> <p>LESSON 2 My School</p> <p>LESSON 3 I Like Kendama</p> <p>Mini-Project : 自己紹介</p> <p>LESSON 4 Field Trip</p>
<p>8 月</p> <p>Who is ...? Where do you ...? When do</p> <p>9 月</p> <p>you ...? him / her</p> <p>10 月</p> <p>読み物</p> <p>Miki plays ... Does Miki play ...? Miki</p> <p>11 月</p> <p>doesn't play ...</p> <p>Where / When does Miki ...?</p> <p>12 月</p> <p>読み物</p> <p>Koji can play ... Can Koji play ...? Koji</p> <p>cannot play ...</p> <p>Tom is playing ... / Is Tom playing ...? / Tom isn't playing ...</p>	<p>LESSON 5 Our New Friend from India</p> <p>Start Reading My Treasure</p> <p>LESSON 6 My Family in the UK</p> <p>Mini-Project : 友達の紹介</p> <p>LET'S READ 1 Alice and Humpty Dumpty</p> <p>LESSON 7 Wheelchair Basketball</p> <p>LESSON 8 School Life in the USA</p> <p>Mini-Project : 学校のホームページを 作ろう</p>
<p>1 月</p> <p>Amy played ... Did Amy play ...? Amy</p> <p>2 月</p> <p>didn't play ... Amy went ...</p> <p>3 月</p> <p>Reading</p>	<p>LESSON 9 Four Seasons in Japan</p> <p>LET'S READ 2 A Girl Saved Many Lives</p>

*この他に Extensive Reading を行っている

中学校 2 年生学習目標と学習内容

時期	学習目標	学習内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハワイの伝統文化について知る ・ 過去形を理解し、使う ・ 春休みの出来事について絵日記を書く ・ 交通手段をたずね、説明する 	Lesson 1 Aloha!
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球への歴史への関心を高める ・ be 動詞の過去形や過去進行形を理解し、使う ・ 自分の成長についてのエッセイを書く ・ 理由をたずねる ・ 説明する ・ 賛成する 	Lesson 2 A Calendar of the Earth
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境の未来について考える ・ 未来を表す表現や接続詞 that を理解し、使う ・ 自分や友達の予定について話す ・ 場合について分けて説明する ・ 相槌を打つ 	Lesson 3 For Our Future
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の各地域の食文化について感心を高める ・ There is (are)～や動名詞を理解し使う ・ 身近な地域の名所 ・ 名物を紹介する英文を書く 	Lesson 4 Enjoy Sushi
8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の各地域の食文化について感心を高める ・ There is (are)～や動名詞を理解し使う ・ 身近な地域の名所 ・ 名物を紹介する英文を書く ・ しなければ成らないことを説明する、間をつなぐことができる 	Lesson 4 Enjoy Sushi

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・劇（狂言）を読み、内容を理解する ・他者の将来の夢にふれ、自分の将来像について考える ・将来の夢ややりたことについてスピーチする ・許可を求めることができる 	Let's Read1 A Pot of Poison Lesson 5 My Dream
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・旅の楽しさを、地域文化を尊重することについて考える ・give など+A+B や look など+A を理解し、使う ・海外の情報を得るための手紙を書く ・依頼することができる 	Lesson 6 Uluru
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな視覚的表現について感心をたかめる ・比較級、最上級を理解し、使う ・クラスで人気あるものについて調査し、発表する・苦情を言うことができる 	Lesson 7 Good Presentations
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな視覚的表現につちえ関心を高める ・比較級、最上級を理解し使う ・クラスで人気あるものについて調査し発表する ・苦情を言うことができる 	Lesson 7 Good Presentations
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・他言語の国や人・ことば・社会の結びつきについて考える ・受身形を理解し、使う ・行きたい国について調べ、発表する ・同意を求めることができる 	Lesson 8 India, My Country
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読み、内容を理解する 	Let's Read 2 Landmines and Aki Ra

*この他に Extensive Reading を行っている

中学校 3 年生学習目標と学習内容

時期	学習目標	学習内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばの持つ力について感心を高める ・受身形を理解し使う ・好きな言葉についての意見文を読む ・好きな言葉についてスピーチする 	Lesson 1 My favorite words
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・道順をたずねる・説明する ・外国と日本の文化交流について知る ・現在完了形を理解し、使う ・フランスと日本の文化交流についての説明文を読む ・ボランティアに応募するための自己紹介カードを書く ・病状について尋ね、説明する 	Lesson 2 道案内をしよう！
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化およびそれを世界に発信することに関心を高める ・現在完了回（経験・完了用法）を理解し、使う ・落語についての意見文を読む ・ていねいに依頼する表現を使う ・詳しい説明を求めたりして、会話をひろめる 	Lesson 3 France- Then and Now
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・広島原爆にまつわる事実を知り、平和について考える ・動詞 (call, make など)+A+B, It ... (for A) ... to 構文を理解し、使う 	Lesson 4 The Story of Sadako
8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆の被害にあった少女についての物語文を読む ・物語の要約文を書く ・丁寧に依頼する ・映画をもとにしたイルカと少年の物語を読むことができる 	Let's Talk 3 買い物をしよう
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな国、地域について知る ・関係代名詞を理解し、使う ・ブラジルについての説明文を読む ・行きたい場所とそこでしたいことについてスピーチする 	Lesson 5 Places to go, Things to do
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・後置修飾の文の意味、用法を理解し自分で表現できる ・アメリカの公民権運動について知り、人権の大切さを考える ・キング牧師の物語文を読む ・尊敬する人物やあこがれの人物を紹介する新聞投稿記事を書く 	Lesson 6 I Have a Dream

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・人に食べ物や飲みものをていねいにすすめる ・英語と自分のかかわりについて考える ・want 人 to～や間接疑問視の形を理解し、使う。 	Let's Talk4 卵料理はいかがですか Lesson 7 English for Me
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・人に食べ物や飲み物をていねいにすすめる ・英語と自分のかかわりについて考える ・want 人 to～や間接疑問文の形を理解し、使う ・English for me というテーマについて意見文を読む 	Lesson 7 English for me
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・人に丁寧に依頼する電話での会話を行うことができる ・マラウイの少年の人物伝を読むことができる ・錦織選手のエッセイを読むことができる 	Let's Read 2 & 3 We can change the world The Story of Nishikiori Kei
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間に学習した基本的な語句、語法、構文などが理解できる 	Review

中学校 1 年生：補助教材

大阪府豊能町立吉川中学校 宗像亮先生作成

Expression Sheet for 7th grade

<< Lesson 7 Wheelchair Basketball >>



- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で言えるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。

	日本語	チェック欄	英語
1	地図をかく		draw a map
2	チームに入る		join the team
3	空を飛ぶ		fly in the sky
4	木にのぼる		climb a tree
5	困難な仕事		a hard job
6	わくわくする試合		an exciting game
7	彼は自分（自身）の車を持っています。		He has his own car.
8	トムは日本の音楽がとても好きです。		Tom likes Japanese music very much.
9	飛行機に乗るのはこれが初めてです。		This is my first time on a plane.
10	あまり長く練習しすぎはいけません。		Don't practice too long.
11	もう一度試合をしましょう。		Let's play a game again next time.
12	どうしたの？		What's up?
13	私は新しいコンピュータが使えます。		I <input type="checkbox"/> use a new computer.
14	アリスは太鼓を演奏することができます。		Alice <input type="checkbox"/> play the drum.
15	私はドラゴンクエストのゲームをクリアすることができません。		I <input type="checkbox"/> finish the Dragon Quest video game.
16	私たちはここから東京スカイツリーを見ることができません。		We <input type="checkbox"/> see Tokyo Skytree from here.
17	ボブは500メートルを泳ぐことができますか。 -はい、できます。 / いいえ、できません。		<input type="checkbox"/> Bob swim 500 meters? - Yes, he <input type="checkbox"/> . / No, he <input type="checkbox"/> .
18	あなたは何を料理することができますか。 -カレーが作れます。		What can you cook? - I can cook curry.
19	料理を手伝ってくれませんか。 - もちろん。 - すみません。今あなたを手伝えません。		Can you <input type="checkbox"/> me <input type="checkbox"/> the cooking? - Sure. - I'm sorry. I can't help you right now.
20	ケンくんをお願いできますか。 - 私です。		<input type="checkbox"/> speak to Ken, please? - Speaking.

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

1年（ ）組（ ）番（ ）

Expression Sheet for 7th grade

<< Lesson 8 School Life in the USA >>

- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で言えるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。



	日本語	チェック欄	英語
1	たくさんのボールを買う		buy a lot of balls
2	手紙を書く		write a letter
3	友達を連れてくる		bring my friends
4	アキラはマンガを読みますか。 - いいえ、読みません。		Does Akira read manga? - No, he doesn't.
5	今は友達と話してはいけません。		Don't talk with your friends right now.
6	この花を見て。		Look at this flower.
7	あなたは外国語を話すことができますか。		Can you speak a foreign language?
8	ここにあなたのカバンがあります。		Here is your bag.
9	私は(今、)音楽を聞いています。		I am listening to music. (= I'm)
10	ポールは(今、)コンピュータを使っています。		Paul is using the computer.
11	あなたは昼食を選んでいますか。 -はい、選んでいます。 / いいえ、選んでいません。		Are you choosing your lunch? - Yes, I am. / No, I'm not.
12	ジュリアは今、ケータイで話していますか。 - はい、話しています。 / いいえ、話していません。		Is Julia talking on her cell phone right now? - Yes, she is. / No, she isn't.
13	彼らは、体育館で走っていません。		They are not running in the gym.
14	(今、)あなたは何をしていますか。 - 宿題をしています。		What are you doing? - I am doing my homework.
15	あなたはどれほど頻りにテレビゲームをしますか。-1日に1回です。		How often do you play video games? - Once a day.
16	私はときどき京都へ行きます。		I sometimes go to Kyoto.
17	月曜日にゴミを出してくれませんか。		Can you take out the trash on Monday?
18	テレビを見る人もいれば、 本を読む人もいます。		<u>Some</u> people watch TV. <u>Other</u> people read books.
19	秋葉原へはどうすれば行けますか。 - 電車かバスで行くことができます。		How can we get to Akihabara? - We can get there by train or bus.
20	東京スカイツリーはどのくらい遠いですか。 - ほんの2キロくらいです。		How far is Tokyo Skytree? - Only about two kilometers.

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

1年 () 組 () 番 ()

Read Read Read ~ Lesson 9 USE Read ~ (P108~109)

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

	1	Four Seasons in Japan	「日本の ()」
1	2	Spring April 1	() 4月1日
	3	My friends and I had an 'ohanami' party.	私の友達と私はお花見をしました
	4	We ate 'onigiri'	私たちはおにぎりを食べました
	5	under a cherry tree.	()の下で
	6	We saw	私たちは見ました
	7	beautiful blossoms.	美しい花を
	8	They fell softly	それらは () 落ちてきました
	9	on us.	私たちの上に
	10	I had a lot of fun.	私は () です
	2	11	Summer August 16
12		Kumi and I stayed	久美と私は、泊まりました。
13		with her grandparents	彼女の祖父母宅に
14		in Kyoto.	京都にいる
15		Her grandmother explained 'obon'	彼女の祖母がお盆について ()
16		to me.	私に
17		"Our ancestors' spirits visit us.	私たちの () の魂が私たちを訪れる
18		The fire guides them."	この () が彼らを導いてくれる
19		The custom is interesting.	その () は興味深いです
3	20	Fall October 10	() 10月10日
	21	My town had a sports day.	私の町で運動会がありました
	22	Many people came.	() がやってきました
	23	We ran races.	私たちは競走で走りました
	24	We played tug-of-war.	私たちは () をしました
	25	My team didn't win.	私のチームは勝てませんでした
	26	At the end,	() に
	27	everyone clapped hands.	皆が手を ()
	28	Win or lose,	()
	29	we all had a good time.	私たちは皆楽しい時間を過ごしました
4	30	Winter January 3	() 1月3日
	31	Today	今日
	32	I went to Kumi's house.	私は久美の家に行きました
	33	Her relatives came too.	彼女の () も来ていました
	34	We ate 'ozoni'	私たちはお雑煮を食べました
	35	and played 'karuta'.	そして、かるたをしました
	36	Her aunt Yumiko asked,	彼女の叔母のユミコさんが尋ねました
	37	"Did you have fun today?"	今日は楽しめましたか?
	38	"Yes, I did,"	はい
	39	I said.	私は答えました
	40	I learned	私は ()
	41	about Japanese New Year.	() の () について

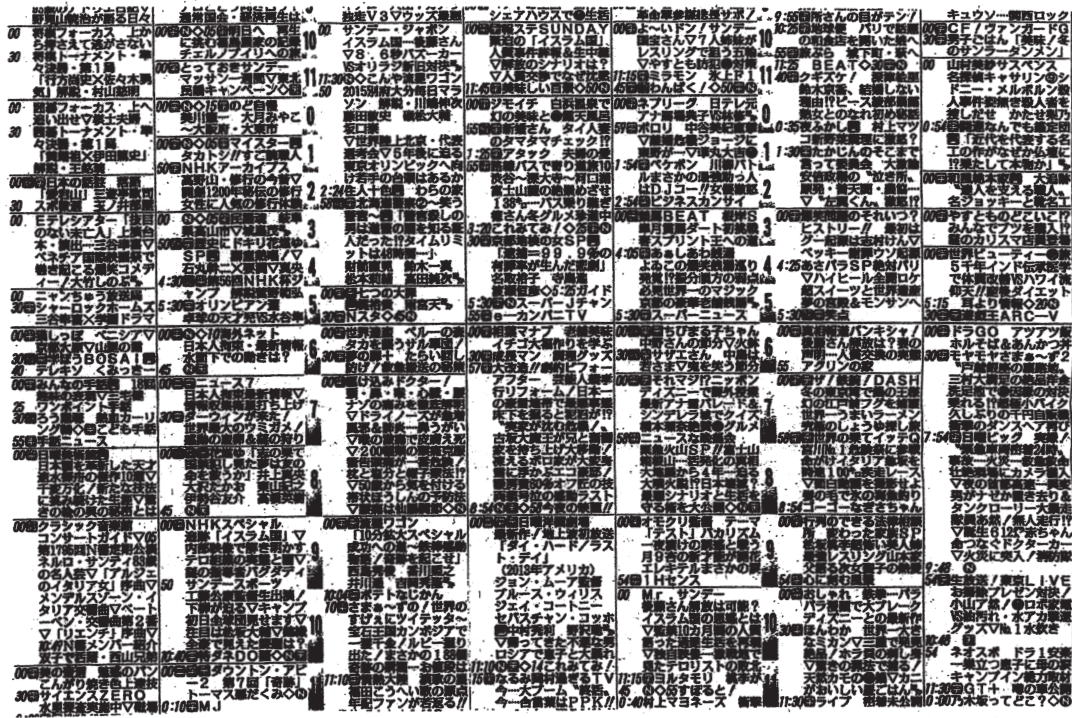
THE AUDIENCE RATING RESEARCH

視聴率を調べよう

Class No Name

How to play: Ask 10 people.

Your TV program for this is



Now let's enjoy it!

How to ask : Did you watch yesterday?

How to answer : Yes, I did. / No, I didn't.

Fill marks in : Yes ○ / No ×

class	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	total

視聴率 () %

となりの友達を英語で紹介しよう！

【発表のルール】
 ・最初と最後のあいさつを除き、最低でも「6文」は作ること。
 ・一人ずつ前で原稿を覚えて発表します。(時期は、期末テスト後です)

【発表例】

Hello, everyone. I'm going to talk about my classmate, Misaki. She lives in Higashitokiwadai. She practices tennis every day. She is a member of the tennis club. She plays the piano very well. Her favorite band is "EXILE". She likes music and doesn't like Japanese. Thank you.

1	名前は？
2	住んでいる場所は？
3	毎日欠かさずしていることある？
4	好きなことや得意なことは？クラブ活動は？
5	好きな教科、苦手な教科は？
6	さらにもう一言

◆◆発表の原稿を作ろう◆◆ (教科書 (P.70-71) の表現を参考に！)

「僕はできる！」

～ can の使い方 その1 ～

今まで、みなさんは「OOは～する」という表現を勉強しました。例えば...

I play baseball.	「僕は野球をします。」
I eat natto.	「僕は納豆を食べます。」
Akira play s the piano.	「アキラはピアノを弾きます。」
My dog swim s in the river.	「私の犬は川を泳ぎます。」

今回は、これらの意味に「～できる」という意味を加えます。例えば...

I cook okonomiyaki. 僕はお好み焼きを作ります。
I **can** cook okonomiyaki. 僕はお好み焼きを作ることができます。



もうひとつ例を・・・

My mother speaks Spanish.
My mother **can** speak Spanish.

3人称単数を表す [s] (my mother を言い換えたら she)

否定文「～できない」は「can」の後ろに「not」を入れるだけ！！

ただし、形は「can't」か「cannot」！

I **cannot** eat umeboshi. 僕は梅干しが食べられません。
Tom **cannot** use a computer. トムはコンピュータを使うことができません。
We **can't** draw pictures well. 私たちは上手に絵を描くことができません。
They **can't** play video games today. 彼らは今日テレビゲームをすることができません。

どうですか？そんなに難しくないですね。何か気づいたことはありませんか？

そうです。[speaks] にくっついてた3人称単数を表す [s] がなくなっています。

ということは・・・

「～できる」の「can」の後ろの動詞に何もつかない(原形)となります。

では練習。次の日本語を英語にしよう！

①僕はサッカーができる。

②僕の父はカレー(curry)を作ることができる。

③ボブ(Bob)はフルート(flute)を吹くことができません。

④僕の弟は刺身(sashimi)を食べることができません。

代名詞一覧表

～ 私は・私の・私を/に・私のもの ～

Step 1 がスラスラ言えるようになったら Step 2 へGo!!



Step 1

単数形				複数形			
～は	～の	～を/に	～のもの	～は	～の	～を/に	～のもの
I	my	me	mine	we	our	us	ours
you	your	you	yours	you	your	you	yours
he	his	him	his	they	their	them	theirs
she	her	her	hers				
it	its	it					
Judy	Judy's	Judy	Judy's				

Step 2

単数形				複数形			
～は	～の	～を/に	～のもの	～は	～の	～を/に	～のもの
私は	私の	私を/に	私のもの	私たちは	私たちの	私たちを/に	私たちのもの
あなたは	あなたの	あなたを/に	あなたのもの	あなたたちは	あなたたちの	あなたたちを/に	あなたたちのもの
彼は	彼の	彼を/に	彼のもの	彼らは 彼女らは それらは	彼らの 彼女らの それらの	彼らを/に 彼女らを/に それらを/に	彼らのもの 彼女らのもの それらのもの
彼女は	彼女の	彼女を/に	彼女のもの				
それは	その	それを/に					
ジュディは	ジュディの	ジュディを/に	ジュディのもの				

👤 適する代名詞にかえましょう!

1. That is my sister's notebook.
2. We know Ms. Green's brother.
3. Do you know like Mike and me?
4. The dog's name is Pochi.
5. You like Emi and Kumi.
6. This is Akira's motorcycle.

- * マイクと私を→私たちを
- * その犬の→その(名前)は
- * 絵美と久美を→彼女らを
- * アキラのバイク→アキラのもの

Listening ! ! My Before After

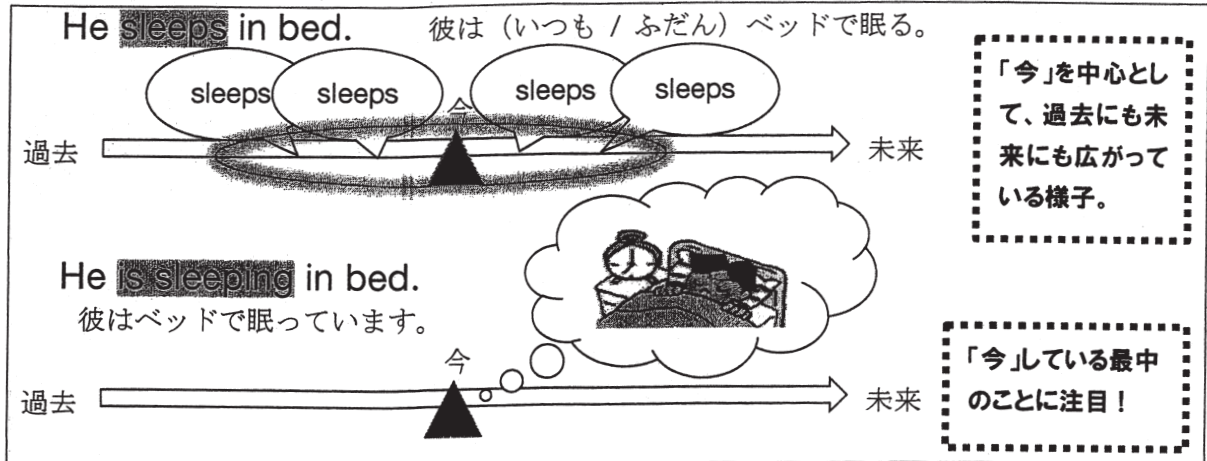
~ LESSON 8-Read School Life in the USA ~

《Before》	《After》
<p>From: Lisa To: My Friends in Japan Subject: School Life in the USA</p> <p>Hello friends, Here are () photos. They show my () at school. This is my () class. ()() sax. Kevin is playing the trumpet. () playing jazz. The class is a lot of ().</p> <p>This is a language (). () I ()English? No, I'm not. () at the blackboard. I am studying Spanish. It is my foreign language. I like it. I study Spanish once a week. () often do you study English? () people in my town () Spanish. I sometimes speak it () them. What languages do people speak in your town? () write to () soon. Adios, amigos! Lisa</p>	<p>From: Lisa To: My Friends in Japan Subject: School Life in the USA</p> <p>Hello friends, ()() some (). They () my () at school. This is my () class. I am playing the sax. Kevin is playing the (). We are playing jazz. The class is ()() of ().</p> <p>This is a () class. Am I studying English? No, I'm not. Look at the (). I am () Spanish. It is my () language. I like it. I study Spanish () a week. How () do you study English? Many people in my town speak Spanish. I () speak it with them. What () do people speak in your town? Please () to me (). Adios, amigos! Lisa</p>
Score (/20)	Score (/20)

現在進行形①

「(今) ~している最中です」

◆現在形 (ふだんから) と現在進行形 (今~している最中です) の違い



上のように、《 be 動詞 + 動詞~ing 》の形で、動作が現在進行していることを表します。
be 動詞 (am / is / are) は、主語によって使い分けます。

ing のつけ方	ふつう	そのまま ing	playing / studying / skiing
	子音字 + e	e をとって +ing	practicing / using / making
	短母音 + 子音字	語尾を重ねて +ing	running / swimming / beginning

1 次の動詞を-ing 形にかえなさい。

- | | | | |
|---------------|-------|-----------------|-------|
| ① talk (話す) | _____ | ⑥ study (勉強する) | _____ |
| ② run (走る) | _____ | ⑦ write (書く) | _____ |
| ③ go (行く) | _____ | ⑧ read (読む) | _____ |
| ④ swim (泳ぐ) | _____ | ⑨ have (持つ/食べる) | _____ |
| ⑤ listen (聞く) | _____ | ⑩ cook (料理する) | _____ |

2 () 内の語を使って、「~しています」の文を完成しなさい。

- ① I _____ in the gym now. (run)
- ② You _____ your name now. (write)
- ③ Becky _____ to music now. (listen)
- ④ They _____ basketball now. (play)
- ⑤ Akira and Bob _____ lunch now. (have)

3 「私は今~しています。」と「あなたは今~しています。」という英文を書きなさい。

※ walk 歩く watch TV テレビを見る make fortune cookies フォーチュンクッキーを作る
practice 練習する send Line messages ラインをする talk on the cell phone 携帯電話で話す
do my homework 宿題をする see a dictionary 辞書で調べる look at catalog カタログを見る

中学校 2 年生：補助教材

大阪府豊能町立吉川中学校 宗像亮先生作成

Expression Sheet for 8th grade

《 Let's Read 2 Landmines and Aki Ra 》



- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で言えるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。

	日本語	チェック欄	英語
1	私は、初めて富士山を見ました。		I saw Mt. Fuji <u>for the first time</u> .
2	私たちの学校は、公園と店の間にあります。		Our school is <u>between</u> the park <u>and</u> the shop.
3	できるだけ早く歩きなさい。		Walk <u>as fast as you can</u> .
4	私はできるだけ早く起きます。		I'll get up <u>as early as I can</u> .
5	万里の長城は大昔に建てられました。		The Great Wall <u>was built</u> long ago.
6	久美はその犬に助けられた。		Kumi <u>was saved</u> by the dog.
7	私はポールのアイデアに驚かされました。		I <u>was surprised</u> by Paul's idea.
8	その恐竜は少年によって見つけられたのですか。 — はい、そうです。		<u>Was</u> the dinosaur <u>found</u> by a boy? - Yes, it was.
9	私は獣医になろうと決心しました。		I <u>decided to be</u> a vet.
10	家にいなければならなかった。		I <u>had to</u> stay home.
11	彼の車は路上の缶を踏みました。		His car <u>ran over</u> a can on the road.
12	私が村に到着した時、雨が降っていました。		It was raining <u>when</u> I reached the village.
13	10歳の時、私はオーストラリアに住んでいました。		<u>When</u> I was ten, I lived in Australia.
14	赤ちゃんは母親をさがして泣いていました。		The baby was crying <u>in search of</u> his mother.
15	私には時間がありませんでした。		I had <u>no</u> time.
16	私は将来、日本中を旅したいです。		I want to travel <u>all over</u> Japan in the future.
17	マイクは彼自身の部屋を持っています。		Mike has his <u>own</u> room.
18	私たちは水なしでは生きられない		We can't live <u>without</u> water.
19	私はあなたのようなカバンが欲しいです。		I want a bag <u>like</u> yours.
20	あなたの学校について（私に）教えてください。		Please <u>tell</u> me about your school.

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

2年（ ）組（ ）番（ ）

Expression Sheet for 8th grade

< Lesson 5 My Dream >

- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で書えるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。



	日本語	チェック欄	英語
1	私はあなたと話したい。		I want <u>to talk</u> with you.
2	トムは日本で友達をたくさん作りたいと思っていますか。 - はい、思っています。		Does Tom want <u>to make</u> a lot of friends in Japan? - Yes, he does.
3	私の友達美奈子は宇宙飛行士になりたいと思っています。		My friend Minako wants <u>to be</u> an astronaut.
4	その学生たちはスペイン語を学ぶことを希望しています。		Those students hope <u>to learn</u> Spanish.
5	生徒たちは昼食を食べ始めました。		The students started <u>to eat</u> lunch. (eating)
6	久美は洋服を買うために渋谷に行きました。		Kumi went to Shibuya <u>to buy</u> clothes.
7	あなたは今何がしたいですか。		What do you want <u>to do</u> now?
8	私は友達に会うために大阪駅へ行きました。		I went to Osaka Station <u>to meet</u> my friend.
9	私たちは外国の人々と話すために英語を勉強しなければなりません。		We must study English <u>to talk</u> with foreign people.
10	あなたはするべきことがたくさんありますか。 - いいえ、ありません。		Do you have many things <u>to do</u> today? - No, I don't.
11	私は何か飲むものがほしい。		I want something <u>to drink</u> .
12	俺にはテレビを見る時間がありません。		Ken doesn't have time <u>to watch</u> TV.
13	彼は多くの人々に喜びを与えるでしょう。		He will <u>give</u> pleasure <u>to</u> many people.
14	この本は読む価値があります。		This book is <u>worth</u> reading.
15	スマートフォンを使うことは難しい。		<u>Using</u> a smartphone is hard.
16	私はこの写真とあの写真と比べてみるつもりです。		I'll <u>compare</u> this picture <u>with</u> that one.
17	エマは日本の歴史に興味を持っています。		Emma <u>is interested in</u> Japanese history.
18	結論として、私たちは地球を守らなければなりません。		<u>In conclusion</u> , we must save the earth.
19	野菜をいくらかかかりますか。 - いいえ、結構です。		How about some vegetables? - No, thank you.
20	あなたのペンを使ってもいいですか。 - もちろんです。はいどうぞ。		<u>May I</u> use your pen? - Certainly. Here you are.

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

2年 () 組 () 番 ()

Expression Sheet for 8th grade

□ Lesson 8 India, My Country □



- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で言えるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。

	日本語	チェック欄	英語
1	ここに1ドル札があります。		Here's a one dollar note.
2	この地図をもっと注意深く見なさい。		Look at this map <u>more carefully</u> .
3	サッカーは世界中でプレーされます。		Soccer <u>is played</u> around the world.
4	この国では3つの言語が話されています。		Three languages <u>are spoken</u> in this country.
5	このボールはバスケットボールで使われています。		This ball <u>is used</u> in basketball.
6	このバッグはあの店で買われました。		This bag <u>was bought</u> at that shop.
7	昨日、たくさんの野菜がその店へ運ばれました。		Many vegetables <u>were carried</u> to the store yesterday.
8	この車はドイツで作られたものです。		This car <u>was made</u> in Germany.
9	これらの本は日本では読まれていません。		These books <u>are [not] *read</u> in Japan. *発音注意!
10	ここからは富士山は見えません。		Mt. Fuji <u>is [not] seen</u> from here.
11	あなたの時計はスイス製ですか。 - はい、そうです。		<u>Was your watch made</u> in Switzerland? - Yes, it was.
12	このカレーはいつ料理されましたか。		When <u>was this curry cooked</u> ?
13	京都はたくさんの外国人によって訪問されます。		Kyoto <u>is visited</u> by many foreigners.
14	この天ぷらはポールによって料理されました。		This tempura <u>was cooked</u> by Paul.
15	ワン・シングはワンダイレクションによって歌われました。		"One Thing" <u>was sung</u> by One Direction.
16	この公園にはあの公園よりも多くの木々があります。		There are <u>*more trees</u> in this park than that park. *many の比較級
17	あなたたちのそれぞれが全力をつくす必要があります。		Each of you <u>needs to</u> do your best.
18	あなたは英語を話しますよね。		You speak English, <u>don't you?</u>
19	このバスは金閣寺に行きますね。 はい、行きますよ。		This bus goes to Kinkakuji, <u>doesn't it?</u> - Yes, it does.
20	そうでもありません。		<u>Not really.</u>

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

2年 () 組 () 番 ()

【A-B-C 型】

	原形	過去形	過去分詞形	意味
41	be	was / were	been	です、ある、いる
42	drive	drove	driven	運転する
43	rise	rose	risen	(太陽などが) 昇る
44	ride	rode	ridden	(馬などに) 乗る
45	write	wrote	written	書く
46	know	knew	known	知っている
47	grow	grew	grown	成長する
48	blow	blew	blown	(風が) 吹く
49	throw	threw	thrown	投げる
50	draw	drew	drawn	(線を) 引く、描く
51	fly	flew	flown	飛ぶ
52	show	showed	shown	示す、見せる
53	speak	spoke	spoken	話す
54	break	broke	broken	壊す
55	wake	woke	woken	起こす
56	choose	chose	chosen	選ぶ
57	drink	drank	drunk	飲む
58	begin	began	begun	始める
59	ring	rang	rung	鳴る
60	sing	sang	sung	歌う
61	swim	swam	swum	泳ぐ
62	take	took	taken	連れて行く
63	mistake	mistook	mistaken	間違える
64	shake	shook	shaken	振る
65	wear	wore	worn	着ている
66	tear	tore	torn	引き裂く
67	do	did	done	する
68	go	went	gone	行く
69	eat	ate	eaten	食べる
70	fall	fell	fallen	落ちる
71	give	gave	given	与える
72	hide	hid	hidden	隠す
73	see	saw	seen	見る、見える
74	lie	lay	lain	横たわる

【A-A-A 型】

	原形	過去形	過去分詞形	意味
75	cut	cut	cut	切る
76	hit	hit	hit	打つ
77	hurt	hurt	hurt	傷つける、痛める
78	beat	beat	beat	負かす
79	put	put	put	置く
80	shut	shut	shut	閉じる
81	set	set	set	置く
82	let	let	let	させる

比較の表現

比較級 + than ~ : ~よりも...

Tokyo Tower is **taller** than the Eiffel Tower.

東京タワー

エッフェル塔

[東京タワーは、エッフェル塔よりも高い。]

- * 上の文の taller のように、形容詞 (大きさ、形、性質などを表す言葉) に -er をつけた形を、**形容詞の比較級**といいます。
- * than は「~より」という意味で、比較級の後ろに置かれます。
- * 2つの物や人を比べて「~よりも...」というときには、**比較級 + than ~** の形で表します。

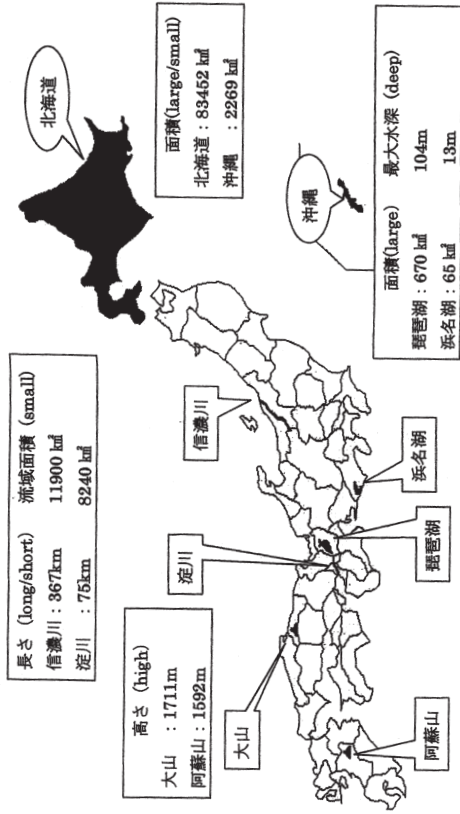
比較級の作り方のルール

	原級 (元の形)	比較級
① そのまま -er をつける。	long (長い)	longer
② 最後が e で終わる語	large (広い)	larger
③ 短母音 + 子音字で終わる語	big (大きい)	bigger
④ 子音字 + y で終わる語	happy (幸せな)	happier

○ 次の語について () 内には意味を、_____ には比較級を書きなさい。

意味	比較級	意味	比較級
① tall () _____	⑦ old () _____		
② young () _____	⑧ new () _____		
③ small () _____	⑨ high () _____		
④ cold () _____	⑩ hot () _____		
⑤ short () _____	⑪ large () _____		
⑥ deep () _____	⑫ pretty () _____		

○ 日本のいろいろなものを比べてみよう。絵を見て英文を完成させなさい。



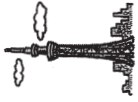
- ① The Shinano River is () the Yodo River. (長さ)
- ② The Yodo River is () the Shinano River. (長さ)
- ③ The Yodo River is () the Shinano River. (流域面積)
- ④ Mt. Daisen is () Mt. Aso. (高さ)
- ⑤ The Lake Biwa is () the Lake Hamana. (面積)
- ⑥ The Lake Biwa is () the Lake Hamana. (水深)
- ⑦ Hokkaido is () Okinawa. (面積)
- ⑧ Okinawa is () Hokkaido. (面積)
- ⑨ Hokkaido is () Okinawa. (気候) 寒い
- ⑩ Okinawa is () Hokkaido. (気候) 暑い

Class No Name

比較の表現 **the 最上級 + in (of) ~ : ~ の中で一番...**

Tokyo Skytree is the tallest in the world.

[東京スカイツリーは世界で一番高い。]



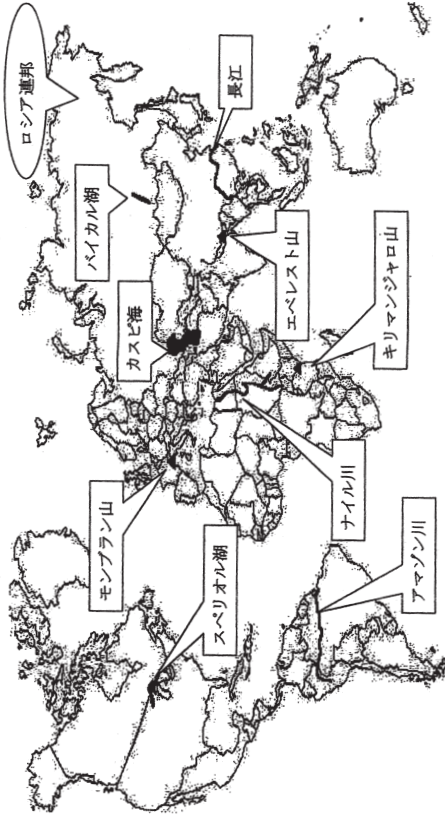
- * 上の文の tallest のように、形容詞 (大きさ、形、性質などを表す言葉) に -est をつけた形を、**形容詞の最上級**といいます。
- * 最上級の前には **the** をつけます。
- * 3つ以上の物や人を比べて「~の中で一番...」というときには、次のように表します。
the 最上級 + **the tallest** ... 国、クラス、家族 など
- * 最上級の作り方のルールは、比較級の作り方のルールと同じです。

	原級 (元の形)	比較級	最上級
① そのまま -est をつける。	long	longer	longest
② 最後が e で終わる語	large	larger	largest
③ 短母音 + 子音字で終わる語	big	bigger	bigger
④ 子音字 + y で終わる語	happy	happier	happiest

○ 次の語について () 内に比較級、最上級を書きなさい。

	比較級	最上級	比較級	最上級
tall				
young		small		
short		cold		
deep		high		
old		hot		
new		large		
		pretty		

○ 世界のいろいろなものを比べてみよう。絵を見て英文を完成させなさい。



	high	long	large	deep
エベレスト山	*8848m	*6695km	29780 km ²	カスピ海 *37400 km ²
キリマンジャロ山	5895m	6516km	*70500 km ²	スペリオール湖 82367 km ²
モンブラン山	4808m	6380km	11750 km ²	バイカル湖 *1741m

* は世界で一番

- Mt. Kilimanjaro is () Mt. Mont Blanc. (高さ)
キリマンジャロ山 () モンブラン山
- Mt. Everest is () the three. (高さ)
エベレスト山 () 3つの中で
- Mt. Everest is () the world. (高さ)
世界で
- The Nile is () the world. (長さ)
ナイル川 ()
- The Amazon is () the world. (流域面積)
アマゾン川 ()
- The Choko is () the three. (長さ)
長江 ()
- Caspian Sea is () the world. (面積)
カスピ海 ()
- Lake Balk is () the three. (面積)
バイカル湖 ()
- Lake Balk is () the world. (水深)
バイカル湖 ()
- Russian Federation is () the world. (面積)
ロシア連邦 ()

Class No Name

スピーチ「将来の夢」の原稿を書こう!



目標: 「将来の夢」のタイトルでスピーチ原稿を書こう。

Hello, everyone. I'm Munekata Akira.
 Do you have a dream? I'm going to talk about my future. Do you like cars? I like cars very much. I want to be a car designer. I have two reasons.
 First, I want to make a lot of cars, for example, safe cars and eco-friendly cars with a good design. If I can make cars like these, our lives will be safer and more comfortable.
 Second, I want to see my cars on the road all over the world. I will be very happy if a lot of people drive my cars.
 To be a good car designer, I must study special subjects. So, I will go to a technical high school. Please try driving one of my cars in the future.
 Thank you.

注) designer: デザイナー eco-friendly: 環境にやさしい design: デザイン lives: 生活
 safer: より安全な more comfortable: より快適な road: 道路
 special: 特別な technical high school: 工業高校 one of: ~のひとつ

STEP 1 上のモデル文を読んで、次の問いに日本語で答えよう。

(1) アキラは何が好きですか？

(2) アキラは何になりたいですか？

(3) アキラがその仕事につきたい理由は何か？ (2つ)

(4) アキラは、その仕事につくために、何をしなければなりませんか？
 また、何をすることもありますか？

STEP 2 アキラの書いた原稿とWORD BANKを参考にして、自分がスピーチで言うことについて次の問いに英語で答えよう。

(1) あなたは何をすることが好きですか。

I like to _____

(2) 好きなものをいかにして、何になりたいですか。

I want to be _____
 (a / an)

(3) その仕事につきたい理由は何か。

(4) 好きなことをするために、いつ何をしていますか。(これから、いつ何をしたいですか。)

WORD BANK

• 好きなこと

play with dogs: 犬と遊ぶ look at the sky: 空を見る listen to music: 音楽を聞く
 speak before a lot of people: 大勢の人の前で話す draw cartoons: マンガを描く

• 仕事

vet: 獣医 scientist: 科学者 filmmaker: 映像作家 pastry chef: パティシエ
 dog trainer: 犬の訓練士 flight attendant: 飛行機の客室乗務員
 dog groomer: 犬の美容師 professional baseball player: プロ野球選手
 librarian: 図書館司書 sports commentator: スポーツ解説者・実況放送員
 care worker: 介護福祉士 scriptwriter: 脚本家 hairstylist: 美容師

• 仕事につきたいこと

read a lot of books: たくさん本を読む
 help sick animals: 病気の動物を助ける
 help disabled people: 障害のある人達を助ける
 discover new stars: 新しい星を発見する
 provide care for the elderly: お年寄りの介護をする
 work with many children: たくさんの子供達に囲まれて働く
 travel all over the world: 世界中を旅する
 fly a plane: 飛行機を操縦する

📺 Listening 📺

My Dream Hello,(1.).
 (2.) do you want (3.)(4.)? We all have dreams. I want to be a fireworks
 artist. I have two main (5.).
 First, (6.) fireworks is worth (7.). This summer, I went to a festival to watch
 fireworks. Everyone (8.) them. A few days later, I talked with a fireworks artist. I
 (9.) making fireworks is hard and dangerous. But (10.) I make them, I can
 have fun and give pleasure to others.

Score(/10)
 ↑ fold

My Dream 「私の夢」

Hello, everyone. こんにちは, みなさん。

みなさんは何に (1)) ?

What do you want to be?

-したい + なること: 不定詞 (名詞用法)

私たちには, みんな, 夢があります。

We all have dreams.



私は (2)) になりたいと思います。

I want to be a fireworks artist.

不定詞 (名詞用法)

主な理由として二つあります。

I have two main reasons.

第一に / (3)) はやりがいがあります。

First, / making fireworks is worth doing. ※~する価値がある

主語

今年の夏 / 私はお祭りに行きました / 花火を (4))

This summer, / I went to a festival / to watch fireworks.

不定詞 (副詞用法)

みんな (5)) を楽しみました。

Everyone enjoyed them.

them の内容 ()

(6)) / 私は話をした / (2) の方と

A few days later, / I talked / with a fireworks artist. ※「few」: aがないと「少しの~しかない」(否定的)

少しの

知りました / (7)) は大変で (8)) ということ

I learned / [making fireworks is hard and dangerous.]

(that の省略)

主語

けれども, 私が (9)) を作れば / 楽しめる / ほかに人にも (10)) をもたすことができる

But if I make them, / I can have fun / and give pleasure to others.

*If 主語 現在形

*give 物 to 人

- [Q&A] 1. What does Kumi want to be? - She () to () a () ().
 2. This summer, where did she go? - She () to a ().
 3. What did she learn from a fireworks artist?
 - She () () is () and ().
 4. Why did Kumi go to a festival this summer? - () () (). *不定詞

Listening

Second, I like (1.) traditions. Last year I (2.) to a museum.
 I (3.) some ukiyoe pictures of (4.). I (5.) (4) have a
 long (6.) in Japan. I am interested in (7.) shapes and colors
 of (4). I want to learn these and make new ones.
 In conclusion, the sight and sound of (4) disappear (8.) a moment, but they remain forever in
 people's minds. Such memories give (9.) to everyone. So, I want to be a (4) artist.
 I have a lot of things to learn. But I (10.) do my best. That is my dream. Thank you.

Score(/ 10)

↑ fold

第二に / 私は日本の (①) が好きです

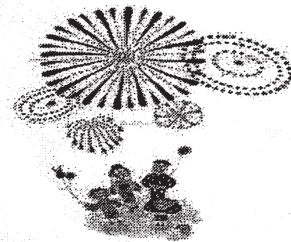
Second, / I like Japanese traditions.

昨年 / ある博物館へ行きました

Last year / I went to a museum.

私は花火の浮世絵をいくつか (②)

I saw some ukiyoe pictures (of fireworks.)



私は学んだ / 花火は (③) ということを / 日本では

I learned / [fireworks have a long history / in Japan.]

(that の省略)

私は花火の伝統的な形や色に (④)

I am interested in traditional shapes and colors (of fireworks.)

these の内容
 () ()
 and () of ()

私はそのようなことを学び、そして新しい (⑤) を作りたいです。

I want to learn these and make new ones.

不定詞 (名詞用法)

種類を表す代名詞

ones の内容 () and
 () of ()

最後に / 花火の (⑥) と音は消えてしまう / 一瞬で / でも永遠に残る / 人々の (⑦) の中に

In conclusion, / the sight and sound of fireworks disappear / in a moment, / but they remain forever / in people's minds.

そのような思い出は (⑧) をもたらす / みんなに

Such memories give pleasure / to everyone.

だから私は (⑨) になりたいです

So, I want to be a fireworks artist.

-したい + なること: 不定詞 (名詞用法)

(⑩) はたくさんあります

I have a lot of things to learn.

不定詞 (形容詞用法)

しかし、私はベストを尽くします

But I will do my best.

それが私の夢です

That is my dream.

ありがとうございました

Thank you.

[Q&A]

1. What did she learn at the museum?

- She learned () () a
 () () in Japan.

2. What remains in people's minds?

- The () and () of
 ().

3. Does Kumi want to make new fireworks?

- (), () ().

4. What do the memories of fireworks give to everyone?

- () give () to everyone.

くり返し単語ドリル (LESSON 5) 総チェック

1.書きまくリノートにこの用紙を見ながら、答えを書く。 2.まるつけをする。 3.間違えた所を5回ずつ練習する。

1 次の日本語は英語に、英語は日本語にしよう。

1	予定、プログラム		2	店	
3	医者		4	パイロット	
5	歌手		6	経験する	
7	比較する		8	スーパーマーケット	
9	病院		10	ドラッグストア	
11	事務所、会社		12	郵便局	
13	図書館		14	本屋	
15	farm		16	department store	
17	dentist		18	vet	
19	police officer		20	astronaut	
21	interpreter		22	farming	
23	task		24	Australian	
25	convenience store		26	pleasure	
27	worth ~ ing		28	be interested in ~	
29	in conclusion		30	in a moment	

2 (復習単語) 次の日本語を英語にしよう。

1	あさって		2	何か	
3	来月		4	日本の	
5	学ぶ		6	開く	
7	(時間の)分		8	~をやめる	
9	未来		10	~を信じる	

3 次の日本語を英語にしよう。

1	医者)	病院)	2	通訳者)	言語)
3	先生)	学校)	4	パイロット)	飛行機)
5	獣医)	動物)	6	歌手)	歌)

【解答】

- 1 1. program 2. store 3. doctor 4. pilot 5. singer 6. experience 7. compare 8. supermarket 9. hospital 10. drugstore
11. office 12. post office 13. library 14. bookstore 15. 農場 16. デパート 17. 歯医者 18. 獣医 19. 警官
20. 宇宙飛行士 21. 通訳者 22. 農場 23. 仕事 24. オーストラリアの 25. コンビニ 26. 喜び
27. ~する価値がある 28. ~に興味がある 29. 結論として 30. 一瞬に
- 2 1.the day after tomorrow 2. something 3. next month 4. Japanese 5. learn 6. open 7. minute 8. stop
9. future 10. believe
- 3 1. doctor / hospital 2. interpreter / language 3. teacher / school 4.pilot / plane 5. vet / animal 6. singer / song

くり返し単語ドリル (LESSON 8) 総チェック

1.書きまくリポートにこの用紙を見ながら、答えを書く。 2.まるつけをする。 3.間違えた所を5回ずつ練習する。

1 次の日本語は英語に、英語は日本語にしよう。

1	台所、調理場		2	寝室	
3	居間		4	浴室	
5	切符		6	speak の過去形	
7	speak の過去分詞形		8	know の過去形	
9	know の過去分詞形		10	sing の過去形	
11	sing の過去分詞形		12	take の過去形	
13	take の過去分詞形		14	write の過去形	
15	write の過去分詞形		16	建てる	
17	build の過去分詞形		18	read の過去形・ 過去分詞形	
19	note		20	carefully	
21	dining room		22	halfway	
23	film		24	actor	

2 次の日本語を英語にしなさい。

1	インド		2	言語、言葉	
3	これらは		4	有名な	
5	インド (人) の		6	洗う	
7	お気に入りの		8	本	

3 次の語の意味、過去形・過去分詞形を書きなさい。

		意味	過去形	過去分詞形
1	buy			
2	find			
3	leave			
4	make			
5	tell			
6	know			
7	sing			
8	speak			
9	take			
10	read			

【解答】

1 1. kitchen 2. bedroom 3. living room 4. bathroom 5. ticket 6. spoke 7. spoken 8. knew 9. known 10. sang
11. sung 12. took 13. taken 14. wrote 15. written 16. build 17. built 18. read 19. 紙幣 20. 注意深く
21. 食堂 22. 玄関 23. 映画 24. 俳優

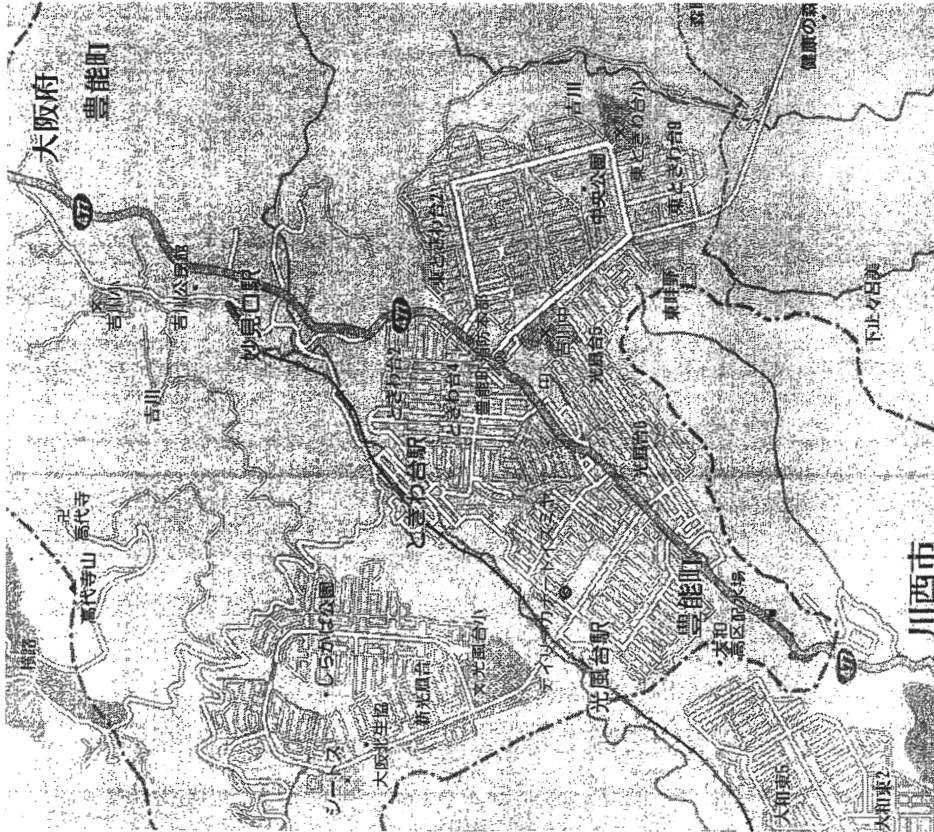
2 1. India 2. language 3. these 4. famous 5. Indian 6. wash 7. favorite 8. book

3 1. 買う bought- bought 2. 見つける found - found 3. 去る left - left 4. 作る made- made
5. 言う told - told 6. 知っている knew - known 7. 歌う sang- sung 8. 話す spoke- spoken
9. 取る took- taken 10. 読む read- read

Yoshihawa Map

There is Care!

Class No. Name



⇒ Example ⇒

There is a park near my school.

単数

私の学校の近くに公園があります。

There are three elementary schools near my school.

複数

私の学校の近くに小学校が3校あります。

⇒ Exercise ⇒ ※ How many + 複数名詞? 「いくつの～」 数をたずねる表現。

◎ There is + 単数名詞 ～. / There are + 複数名詞(s) ～.

How many stations are there near your school? 駅

How many post offices are there near your school? 郵便局

How many libraries are there near your school? 図書館

How many supermarkets are there near your school? スーパーマーケット

How many police stations are there near your school? 警察署

How many convenience stores are there near your school? コンビニエンスストア

How many banks are there near your school? 銀行

How many parks are there near your school? 公園

中学校 3 年生：補助教材

大阪府豊能町立吉川中学校 宗像亮先生作成

Expression Sheet for 9th grade

< Lesson 6 I Have a Dream >



- 【使い方】
1. 英語がスラスラ読めるようにする。
 2. 日本語を見て英語で書けるようにする。
 3. 日本語を見て英語で書けるようにする。

	日本語	チェック欄	英語
1	日本の法律		the Japanese law
2	もう一つの側面		another side
3	真の友情		true friendship
4	不公平な規則		unfair rules
5	私達の国家		our nation
6	肌の色		skin color
7	いい運転手		a good driver
8	アキラ君と話してたね。 -それがどうかしましたか。		You were talking with Akira. -What about it?
9	電車はすぐに人でいっぱいになりました。		Soon, the train <u>filled up with</u> people.
10	今すぐ起きなさい、さもないと遅刻しますよ。		Get up now, <u>or</u> you'll be late.
11	簡単にあきらめないで！ -ありがとう。		Don't <u>give up</u> so easily! - Thank you.
12	スタジアムで「桜」を歌っている2人は、コブクロです。		<u>The two people singing "Sakura" in the stadium</u> are Kobukuro.
13	ローラはファッションリーダーとして知られている女性です。		Rola is <u>a woman known as a fashion leader</u> .
14	日本で作られたお米はおいしいです。		<u>Rice made in Japan</u> is delicious.
15	これは、毎年元旦にたくさんの人々が訪れる神社です。		<u>This is a shrine many people visit</u> on New Year's Day every year.
16	又吉さんが尊敬する作家は、太宰治です。		<u>The writer Mr. Matayoshi respects</u> is Dazai Osamu.
17	テニススクールで子どもたちを励ましているあの男性は、松岡さんです。		<u>That man encouraging children at the tennis school</u> is Mr. Matsuoka.
18	何か飲み物はいかがですか。 -ジュースをください。		<u>Would you like something to drink?</u> -Some juice, please.
19	もうすぐ準備ができますよ。 -すごくいいにおいですね！		We're almost ready. -It smells great!
20	お茶をもう一杯いかがですか。 -いいえ、結構です。おなかがいっぱいです。		<u>Would you like</u> another cup of tea? -No, thank you. I'm full.

Date	/	/	/	/	/	/
Goal						
Score	/20	/20	/20	/20	/20	/20

3年 () 組 () 番 ()

LESSON 6 I Have a Dream

GET Part 1

Listening

Paul: This is a photo (1.) in (年号 : 2.).
 Kumi: What about it?
 Paul: Look (3.) (4.) men (5.) water.
 It (6.) a dark side of US (7.).
 Kumi: A dark side of US (7)? I don't (8.).
 Paul: I can (9.) you (10.).

/10

↓ Fold

これは (①) なんだ / 1962 年に

Paul: This is a photo (taken / in 1962.)

過去分詞の後置修飾

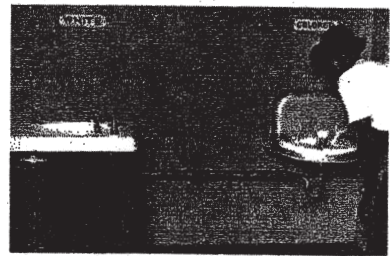
(②) ?

Kumi: What about it?

この (③) を見て / 水を (④)

Paul: Look at these men / drinking water.

動詞の ing 形 (現在分詞) の後置修飾



それは暗い側面を物語っている / アメリカ合衆国史の

It shows a dark side / (of US history.)

アメリカ合衆国史の暗い側面?

Kumi: A dark side of US history?

(⑤) わ

I don't understand.

(⑥) 説明してあげるよ

Paul: I can tell you more.

わかったわ

Kumi: OK.

《音読テスト》 1分間 A:ミス0 B:3回以内 C:それ以外
 Date (/) 回数 () 評価 ()
 Speed Reading () sec



=== Question ===

★What does the photo show?

- It shows () () () () () ().

Drill

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

[ヒント : Ⓐ the girl, playing tennis, Miki Ⓑ the boy, swimming in the river, Koji Ⓒ the man, standing near the tree, Mr White]

LESSON 6 I Have a Dream

GET Part 2

□Listening□

(1) (2) a story I want to tell you. (3) (4) Rosa Parks, a black (5), was (6) a bus. She was (7) near the 'Whites Only' section. (8) that section filled up. The driver (9), "Give up your seat, or I'll call the police." "No," she (9). The police (10) and arrested her.

/ 10

↓ Fold

話がある / きみに (①)
Here is a story (I want to tell you.)

ある日 / ローザ・パークスさんが / (②) の / バスに乗っていた
One day / Rosa Parks, / a black woman, / was on a bus.

彼女は座っていた / 「白人専用」の (③) の近くに
She was sitting / near the 'Whites Only' section.

すぐに / その (③) はいっぱいになり
Soon / that section filled up.

運転手と言った / 「席をゆずれ (④) 警察を呼ぶぞ」と。
The driver said, / "Give up your seat, or I'll call the police."
*命令文, +or...



↑ ローザ・パークス(1913-2005)

「いやです」と彼女は言った
"No," she said.

警察がやって来て、彼女を (⑤)
The police came and arrested her.

《音読テスト》 1分間 A:ミス0 B:3回以内 C:それ以外
Date (/) 回数 () 評価 ()
Speed Reading ()sec

=== Question ===

Why did the police arrest Mrs. Parks?
-() () () () () () () on a bus.

□Drill

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

[ヒント : Ⓐ a book, written by Soseki Ⓑ a picture, made by Hokusai Ⓒ a castle, built by Nōbunaga]

LESSON 6 I Have a Dream

USE Read 1

Listening

I Have a Dream

In (1. 年号:), there (2.) many things black people (3.) in the United States (3.) not do (4.) the law. There (2) restrooms they (3) not use. There (2) drinking fountains they (3) not use. There (2) bus seats they (3) not use. These unfair laws upset many people. One of (5.) was Martin Luther King, Jr. He (6.) about the arrest of Mrs. Parks in Montgomery, Alabama. He said, "We (7.) stand it any more. Let's (8.) a movement. Let's fight for anyone's right to (9.) any seat on any bus. We shall (10.) give up."

/10

↓ Fold

私には()がある

I Have a Dream

1955年当時には / たくさんのことがあった / アメリカ合衆国の黒人たちが (①)

1 In 1955, / there were many things / (black people (in the United States) could not do under the law.)

(②) がありました / 彼らを使うことができない

There were restrooms / (they could not use.)

*後置修飾

(③) がありました / 彼らを使うことができない

There were drinking fountains / (they could not use.)

*後置修飾

(④) がありました / 彼らを使うことができない

There were bus seats / (they could not use.)

*後置修飾

これらの (⑤) 法律が多くの人々を不快にさせた

2 These unfair laws upset many people.

その一人がマーチン・ルーサー・キング・ジュニアでした

One of them was Martin Luther King, Jr.

them =

()

彼は聞いた / パークス婦人の (⑥) のことを / モンゴメリーでの / アラバマ州

He heard / about [the arrest (of Mrs Parks) / in Montgomery, / Alabama.]

彼は言った / 「 (⑦)

He said, / "We cannot stand it / any more.

it =

(⑧)

Let's make a movement.

すべての人の (⑨) を求めて闘おうではないか / どの座席にも座れる / どのバスの

Let's fight for anyone's right / to take any seat / on any bus.

*不定詞 (形容詞用法)

我々は決してあきらめない。」

We shall never give up."

shall: 否定意思「決して～しない」

★Listening★

Rakugo Goes Overseas

I: I'm David Jones from the Crown News. Kimie-san, today's performance was (1.) great!
 K: (2.) you, David. I'm glad to hear that.
 I: I'd like to (3.) you a few questions. (4.) did you (5.) to perform rakugo in English?
 K: (6.) I (7.) in the United States, many people said, "(8.) never heard a (9.) joke. (10.) you (11.) me one?"
 I: Is that true?
 K: Yes. They (12.) Japanese never laughed. So I (13.) (14.) share Japanese humor with people all over the (15.).

/ 15

13 or more: Terrific! \ (*^▽^*) / 10 or more: Good! d(◡◡)b under 6: Fight! 。。° ◁▷°。。

「落語は海を越えて」

I: interviewer K: Kimie-san

↑ Fold

Rakugo Goes Overseas

デイビッド・ジョーンズです / クラウン・ニュース紙の

I: I'm David Jones / from the Crown News.

希巳江さん / 今日の (①) は本当にすばらしかった

Kimie-san / today's performance was really great!

ありがとうございます / デイビッドさん

K: Thank you, / David.

(②)

I'm glad to hear that.

~してうれしい

いくつか (③)

I: I'd like to ask you a few questions.

= I would like to- ask + 人 + もの

(④)

Why did you begin to perform rakugo / in English?

始める 演じること

アメリカに (⑤)

/ 何人もの人に言われた / 「日本のジョークを (⑥)

K: When I lived in the United States, / many people said, / "I've never heard a Japanese joke.

現在完了 (経験)

ぜひひとつ聞かせてくれる？」

Could you tell me one?"

one =

(⑦)

I: Is that true?

They =

そうです。彼らは思った / 日本人は (⑧) と

K: Yes. They thought / [Japanese never laughed.]

だから / 私は日本の (⑨)

/ (⑩)

多くの人と

So / I wanted to share Japanese humor / with people all over the world.

~したい 共有すること

Mr. Oka is talking about the Atomic Bomb Dome, Located in Hiroshima, on a school trip.

この建物は (1) / 1945年に

① This building was destroyed / in 1945.

私たちはそれを (2) と呼ぶ

it = ()

② We call it the Atomic Bomb Dome.

ドームは (私たちに) 思い出させる / (3) の) を

③ The Dome reminds us / of the tragedy (of war). *remind A of B: AにBを思い出させる

(そのことを考えると) (4)) 気持ちになる

this = 直前の内容

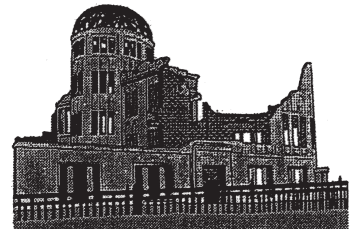
④ This makes us sad.

ドームは同時に表している / 平和への (5)) を

⑤ The Dome also expresses / the hope for peace.

私たちは (6) の) を覚えておくべきです

⑥ We should remember the importance (of peace).



Question

What happened to the building in 1945?

-() () () .

《音読テスト》 1分間 A:ミス0 B:3回以内 C:それ以外

Date (/) 回数 () 評価 ()

Speed Reading ()sec

↑ Fold

★Recitation (暗唱)

<p>① 1945年 破壊された</p>	<p>② 原爆ドームと呼ぶ</p>	<p>③ 思い出させる 戦争の悲惨さを</p>
<p>④ 悲しい気持ちになる</p>	<p>⑤ 平和の希望を表す</p>	<p>⑥ 平和の大切さ</p>

★Listening★

Emma: I'm (1.) shock.
 Mr Oka: Many people have (2.) that way. But it's (3.) for us to see the reality of (4.).
 Emma: It (5.) (6.) happen again.
 Mr Oka: So we (-5-) think about (7.), now and in the (8.).
 Emma: That's right. We can (9.) from the (10.)

/ 10

7 or more: Terrific! \ (*^▽^*) / 5 or more: Good! d(〇〇)b under 5: Fight! 。 。 ° >_< ° 。

↑ Fold

ショックだ

Emma: I'm in shock.



今まで多くの人がこのような思いをしたことがある

Mr Oka: Many people have felt that way.

現在完了 (経験)

でも / 大事だ / 私たちにとって / 戦争の (①) を見ることは
 But / it's important / for us / to see the reality (of war).

仮主語 it

to 以下主語 (頭でつちかになる)

(それは) 二度と起きてはいけない

Emma: It must never happen again.

it =

だから / 私たちは考えなければいけない / (②) について / 今も、そしてこれからも

Mr Oka: So / we must think / about peace, / now and in the future.

そうです

Emma: That's right.

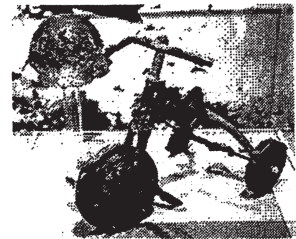


学ぶことができる / (③) の) から
 We can learn / from the experiences (of the past).

《音読テスト》 1分間 A:ミス0 B:3回以内 C:それ以外

Date (/ /) 回数 () 評価 ()

Speed Reading ()sec



Question

What must we think about?

-() () () () () () ()

★Listening☆

Brazil
 I want to (1.) Brazil. There are (2.)(3.) that I want to do there.
 (4.), I like (5.). No, I love it. It is a (6.) that many Brazilians also like. In the past few years, Brazil has hosted (7.) major sports events - the football World Cup in (8.) and the Olympics and Paralympics in (9.). In (10.) events, we were able to (11.) Brazilians' love (12.) sports and (5) (13.) particular.
 So I want to (14.) to Brazil. I want to play soccer (15.) Brazilians.

/ 15

13 or more: Terrific! \ (*^▽^*) / 10 or more: Good! d(◡◡)b under 6: Fight! 。 ° (>_<)° 。

↑Fold

Brazil 「ブラジル」

僕はブラジルに行きたいです

I want to visit Brazil.

不定詞: 名詞用法「～すること」

3つあります / (①) (こと) / (②) で

There are three things / that I want to do / there.

先行詞 関係代名詞 (目的格)

第一に /僕はサッカーが好きです

First, / I like soccer.

いえ / それを愛しています

No, / I love it.

it =

スポーツです / (③) も好きな

It is a sport / that many Brazilians also like.

先行詞 関係代名詞 (目的格)

過去数年間で / ブラジルは2つの主要なスポーツ大会を主催してきました

In the past few years, / Brazil has hosted two major sports events

2014年の (④) と2016年の (⑤) です

- the football World Cup in 2014 and the Olympics and Paralympics in 2016.

これらの大会で / 私たちはブラジルの人が愛していることを知ることができた / スポーツ, サッカーを / (⑥)

In these events, / we were able to see Brazilians' love / for sports and soccer / in particular.

be able to

だから /僕はブラジルに行きたいです

these events =

So / I want to go to Brazil.

不定詞: 名詞用法「～すること」

僕はサッカーをしたいです / ブラジルの人と

I want to play soccer / with Brazilians.

不定詞: 名詞用法「～すること」

LESSON 5 PLACES TO GO, THINGS TO DO (READ 2) TEXT P.69

★Listening☆

(1. _____), I want to (2. _____) Carnival in Rio de Janeiro. It is a (3. _____) (4. _____) which takes place every year, usually (5. _____) (6. _____). Over (7. _____) million people attend every day's events. The highlight of Carnival is the Samba Parade. Over (8. _____) teams take part (9. _____) it. Each team makes (10. _____) costumes and floats. They are based on special themes (11. _____) each team chooses. The themes can come from (12. _____) or (13. _____). Some members dance to exciting samba (14. _____). I want to dance (15. _____) them.

/ 15

13 or more: Terrific! \(*^▽^*)/ 10 or more: Good! d(⌒^⌒)b under 6: Fight! 。・° ⊂_⊂°。。 ↑
Fold

(1) _____) / 僕はリオデジャネイロのカーニバルを (2) _____)
Second, / I want to experience Carnival in Rio de Janeiro.

それは有名なお祭りです / 毎年行われる / たいてい (3) _____) に

It is a famous festival / which takes place every year, / usually in February.

先行詞 関係代名詞 (主格)

(4) _____) が毎日行われるイベントに参加します

it =

Over two million people attend every day's events.

カーニバルの (5) _____) は、サンバパレードです。

The highlight (of Carnival) is the Samba Parade.



200以上のチームがパレードに (6) _____)

Over 200 teams take part in it.

it =

それぞれのチームが (7) _____) と山車を作ります

Each team makes beautiful costumes and floats.

They =

それらは特別なテーマに基づいている / それぞれのチームが選んだ

They are based on special themes / that each team chooses.

先行詞 関係代名詞 (目的格)

テーマは (8) _____) や (9) _____) が由来のものだったりします

The themes can come from history / or nature.

～に由来する

メンバーの中には、刺激的なサンバの音楽に (10) _____) 人もいます

Some members dance to exciting samba music.

僕は彼らといっしょに踊ってみたいです

I want to dance / with them.

不定詞: 名詞用法 「～すること」

LESSON 5 PLACES TO GO, THINGS TO DO (READ3) TEXT P62

★Listening☆

Finally, I want to (1.) with Japanese-Brazilians. About (2.) years ago, many Japanese people (3.) (4.) a (5.) future left Japan. My grandmother's (6.) was (7.) them. They went far away to Brazil to make new (8.) in a new land. They faced many difficulties. They (9.) very hard to overcome them. Now there are about (10.)(11.) Japanese-Brazilians. I want to (12.) some of them and (1) with them (13.) their challenges. Why do I want to (14.) Brazil? It's easy. Sports, Carnival and (15.).

/ 15

14 or more: Terrific! \ (*^▽^*) / 10 or more: Good! d(〇^〇)b under 8: Fight! 。・° 〇_〇°。 ↑ Fold

(1)) / 僕は話をしてみたいです / (2)) の方々と
 Finally, / I want **to talk** / with Japanese-Brazilians.
不定詞: 名詞用法「～すること」

約 100 年前に / 多くの日本人が / (3)) を望んで / 日本をあとにした
 About 100 years ago, / many Japanese **people** / **who** wanted a better future / left Japan.
先行詞 関係代名詞 (主格)

僕の (4)) もそのひとりです。
 My grandmother's aunt was among **them**.
 them =

彼女らは遠く離れたブラジルへ行きました / (5)) / 新しい土地で
 They went **far away** to Brazil / **to make** new lives / in a new land.
不定詞: 副詞用法「～するために」

彼女らは多くの (6)) に直面しました
 They faced many difficulties.

必死で働きました / それらに打ち勝つために
 They worked very hard / **to overcome** **them**.
不定詞: 副詞用法「～するために」
 them =

今では、約 (7)) の日系ブラジル人がいます。
 Now / there are about **1.5 million** Japanese-Brazilians.
= one point five

僕は、そのうちの何人かにお会いしたい / そして語り合ってみたいです / その (8)) について
 I want **to meet** some of them / and **talk** with them / about their challenges.
不定詞: 名詞用法「～すること」 = to talk 不定詞: 名詞用法「～すること」

なぜブラジルに行きたいか。
 Why do I want **to visit** Brazil?
不定詞: 名詞用法「～すること」

簡単です。
 It's easy.
 スポーツ, カーニバル, 歴史があるからです。
 Sports, Carnival and history.

LESSON 5

PLACES TO GO, THINGS TO DO (GET 3)

TEXT P.58

★Listening①☆

わかったことメモ

- ・メイリンが持っているものは何? — ()
- ・それはどこから送られてきたもの? — ()
- ・誰がメイリンに送った? — ()

★Listening②☆

I want to go to Kenya.

This is a postcard (1.) I (2.) from Kenya. My uncle (3.) it to me. It (4.) some (5.) (6.) you can see there.

Have you (7.) them in the wild?

It (8.) (9.) (10.) to see them.

/ 10

7 or more: Terrific! \(*^▽^*) / 5 or more: Good! d(◡◡) b under 5: Fight! 。・° (>_<)°。

↑ Fold

私は (①)

I want to go to Kenya.

これは (②) です / (③) から届いた

This is a postcard / that I got from Kenya.

先行詞 関係代名詞 (目的格)

it =

(④) が送ってくれた / 私に

My uncle sent it / to me.

ここには動物が写っている / (3) で見ることのできる

It shows some animals / that you can see there.

これらの動物を見たことがありますか / (⑤) で

Have you seen them / in the wild?

きっと素晴らしいに違いない / (⑥) を見るのは

It must be wonderful / to see them.

~に違いない

《音読テスト》 1分間

A: ミス0 B: 3回以内 C: それ以外

Date (/) 回数 () 評価 ()

Speed Reading () sec

Question

What does Meiling want to do in Kenya?

-(() () () () () () () () ()) .

Drill 1 Listen & Choose 2 Listen/Repeat/Say 3 Write (___ に書きましょう。)

(A)

(B)

(C)

(D)

[ヒント : ④ the letter, I received yesterday ⑤ the CD, I bought yesterday ⑥ the musician, I like the best ⑦ the pictures, I took]

LESSON 9 (READ) MY FAVORITE WORDS TUNING P.3

Listening

*A winner (1.) quits.
 These words (2.) (3.) by Pete Gray. (4.) professional baseball was his dream. He (5.) his (6.) arm in an accident when he was (7.) . He (1) quit. He (8.) very hard. He was (10.) for his fighting (11.) . Finally his dream (12.) true. He (13.) a professional baseball player.
 Last year I was depressed (14.) I didn't win any kendo matches. I (15.) of leaving the club. At that time, I (12) across Mr Gray's words. I was encouraged by them.
 For me, these words are (16.) (17.) (18.) (19.) .
 I remember them when I am in (20.) .

Score(/20)

[1st Reading] Understanding the main idea
 () が言った () ということは

[2nd Reading] Finding details in the reading
 1) What was Pete Gray's dream? (4 語)
 - () () () () () () .

2) What was his trouble? (1 2 語)

3) What was Kumi's trouble? (1 2 語)

[3rd Reading] Reviewing what you read
 Kumi's favorite words are "() () () () () ."

*What's your favorite words? ex) My favorite words are "Practice makes perfect."

1 "A winner never quits."

この言葉は語られたものです / ピート・グレイによって
 these words were said / by Pete Gray.

(1) () が彼の夢でした
 Playing professional baseball was his dream.

(2) () を失いました / (3) () / 彼は6歳の (4))
 He lost his right arm / in an accident / when he was six ()

しかし彼は (5) ()
 He never quit.

それでもなお (6) () / 熱心に
 He still practiced / very hard.

彼は (7) () / その (8) () で
 He was known / for his fighting spirit.

(9) () / 彼の夢は (10) ()
 Finally / his dream came true.

彼は (11.) () になったのです
 He became a professional baseball player.

昨年 / 私は (12.) () / (13.)
 Last year / I was depressed / because I didn't win any kendo matches.

私はクラブを (14.) ()
 I thought I quit the club.

(15.) / グレイ選手のことばに (16.)
 At that time, / I came across Mr Gray's words.

私は (17.) () / それらに
 I was encouraged / by them.

私にとって / このことばは (18.) ()
 For me, / these words are important / than any others.

私はそれらを思い出します / (19.)
 I remember them / when I am in trouble.

One for all
 all for one

these words =

his =

six ()



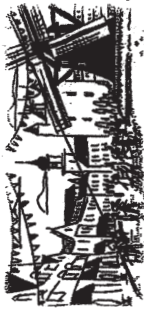
them =

them =

名前(フリガナ)
 [姓] [名]
 Date (/ /) 国籍 () 学年 ()
 *Speed Reading (sec)

修学旅行事前学習 ~街頭英語プログラム~

《会話を続けるコツ》



アイ・コンタクト&スマイル

あいづちを打つ

Me, too.	私も。	Was it?	
How about you?	あなたははどうですか？	Did you?	
Oh, I see.	なるほど	Really?	本当？
Well....	えーと...	Do you see it?	理解できました？
I know.	知ってるわ	Understood?	分かった？
I don't know.	知らないわ	Of course.	もちろん
That's true.	本当にそうね	Let me think.	考えさせて
That's not true.	それはちがいます	Maybe so.	そうかもね
I like that. (I liked that.)	それ、気に入ったわ		
I don't like that.	気に入らな～い		
Wow!	すごい！		
How about that?	そりゃすごい！		
That was good!	よかったね！		
Sounds good to me.	それいいわね		
Sounds great!	すばらしい！		

質問する

疑問文、疑問詞 (WH: Who, When, Where, What, Why, How) で始まる疑問文

and/ but で2文以上で答える

感想を述べる. It is (was) + 形容詞.

2文目がすぐに出てこなかったら "Tell me more." と促す。

確かめ ("You ~?" 相手が言ったことをオウム返し)

聞き返し "Pardon?" "Say that again."

10 Topics あと3つは当日のお楽しみ♪

Sports	What's your favorite sport? Do you play volleyball? Do you work out a lot? Have you ever played golf? -Yes, I have. / No, I haven't. I'm on the basketball team. (in the soccer club) I practice very hard. Tell me about your friends.
Friends	She likes animals, and she has two dogs. Do you like to play video games with your friends?
Future	What do you want to be in the future? - I want to be a ~.
Dream	What job would like to have when you are an adult? What country do you want to visit?
Birthday	When is your birthday? -My birthday is January 10. And I'm 14. What do you want for your birthday?
School	Do you study English in school? What are your favorite subjects? / What subject do you dislike?
Life	We have many school events every year. The chorus festival is in July every year. I'm enjoying my school life. Club activities make school life even more enjoyable.
My Country	I'm from Osaka. I now live in Osaka. Osaka is known for Takoyaki. Toyonono Town is the north of Osaka. It's surrounded by mountains.
Music	Can you play any musical instruments? Can you play the piano? Who is your favorite singer? I'm interested in K-pop music.

□ Pair Work : Let's Chat for 1 minute!!

Report

Honest? マジで?

Honestly? ウソでしょう?

*You're joking. 冗談でしょう?

*You're kidding me! 冗談でしょう!?

*上記2つには、areの代わりに must be も使える。

*You must be joking./ You must be kidding me.

You what? だから、どうしたって (なんだって)?

Exactly. そのとおり

Indeed. いかにも (同意を示すとき)

Did you really?! 本当に (そうしたの)?

Whatever you say. あなたの言うとおりでいいわ

Is that what you're thinking? そんなこと考えてんの?

I know. 知ってるわ

I don't know. 知らないわ

Is that right? あら、そう?

Isn't that so? 本当に?

I believe you. 信じるわ

I can't believe that! 信じられないわ!

That's true. 本当にそうね

I see. なるほど

See?! 言ったとおりでしょ (それみたことか)!

You see? わかる?

Do you see it? 理解できました?

maybe. かもね

Maybe so. そうかもね

Say that again. なんですって?

Pardon? なんですか?

You think so? そう思う?

You think so. そう思うんだ

Let me think. 考えさせて

Of course. もちろん

Of course not. もちろん、ちがいます

That's not true. それはちがいます

No, no, no! ちがう、ちがう、ちがうって!

Oops! おっと!/しまった! (ウーパスと発音)

Oh, my! おやま〜!

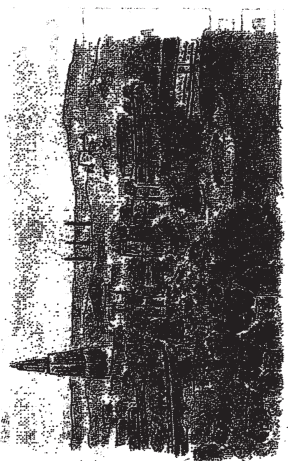
Oh boy! あらあら! (困った、参った)

Oh, my goodness! コリやおどろいた!

Over my dead body! 死んでもいやっ!

Phew! ひゃ〜!

Come on! また〜!



Naturally. もちろん

I hear you. わかっています

I understand. 了解

Understood? 分かった?

You can say that again. まったく、そのとおりだ

That's awful. 最悪じゃん!

Terrible! ひど〜い!

It's out of this world. この世のものとは思えない

That's a crazy story! まったくバカみたいな話しね!

Interesting. おもしろい (興味をともない)

What a story! なんという話し! (感嘆をこめて)

I like that. それ、気に入ったわ

I don't like that. 気に入らな〜い

You're right. そのとおりね

That's correct. 正解!

Bingo! ビンゴ〜ン!

You may be right. そうかもね

Absolutely. もちろんです

Absolutely not! 絶対ダメ〜!

By all means. どうぞ、どうぞ

Give me a break! かんべんしてよ!

I'm sorry to hear that. そりやおお気の毒に

Wow! すげ〜!

How about that? そりやすごい!

That was good! よかったね!

That was great! すごいじゃない!

Good/Nice job. よくやったね

Good/Nice work. よくできたね

Very good. いいじゃない

You did it! やったね!

You did it well. よくやったね

You did it nicely. 上手くやったね

I like that! それいいね

I liked that. 気に入ったわ

It's almost perfect. ほぼ完璧だね

I knew you could do it. 出来ると信じてたよ

You are a champ! あなたがチャンピオン (1番) よ

Sounds good to me. それいいわね

Sounds great! すばらしい!

That's cool! かつこいい!

That's awesome! すご〜い! (オウサムと発音)

No way! ありえな〜い! (すご過ぎて)



